

軍隊を御統御、御監督遊ばされます御事は、ただ武事をしらべて御覽遊ばさるといふ爲めばかりではなくて、野とか山とかに玉の御輦を御運ばせになつては、何等漏れなく人民の状態を實地に就いて細かく御覽遊ばされて、日來人民を慈しみ給ふといふ御君恩を、限り無く耀して被ひかぶせ給ふのに、よい折りで御有りであるし、我々田舎の人民にとつては、陛下の玉顔の御麗はしくいますのを御拜みして、陛下の人民としての此の上もない真心を表現して、御喜びに入れ奉るべき、滅多に無いよい折りであるのだ。それだから演習地を目ざして、馳せ集つた數限りも無い玉體眞近かでの演習拜觀者は、皆誰れしも今に始めぬ盡くる事のない御情深い御徳を受けて、文と武とが一筋に、軍隊と人民とが一つの體のやうに密接に、軍人と農夫とが一つになつてをる此の我が國柄と、萬世一系の皇室を中心として、融合團結するといふ、我が日本國民の堅い意氣とをば、屹度心の底から能くのみこみ得て、辱く感じたことであらうと思ふ。

問(2) 次ノ語句ノ讀方ト意義トヲ書キ且之ヲ用ヒテ各一文ヲ作レ。

- (イ) 認識不足。 (ロ) 刎頸の交。  
(ハ) 朝令暮改。 (=) 奇蹟。 (ホ) 嚆矢。

〔解答〕 (讀方・意義・短文) (イ) 認識不足——或る事柄に對する理解が不十分だとか、事物に對する知識が不足してゐるとかの意である。(彼の北滿・上海事件當時、歐米人が、上海や北滿に對する知識の不十分だつたのに對して、我が日本人が盛に用ひた語。) = 「北滿に對する歐米人の認識不足と來

たら、全く話にならない。』

- (ロ) 刎頸の交——生死を共にして、たとひ頸をはねられるとも悔ゆることなき程の親しき交。頸を斬られても、心を變へぬ程の親しき交際。(趙の廉頗・藺相如の故事に出づ。) = 「古の廉頗・藺相如の間に於ける、所謂刎頸の交は、朋友間の龜鑑とするに足らう。」
- (ハ) 朝令暮改——朝に命令を下して置きながら、夕にはもうそれをかへること。法令の出ることが頻繁でアテにならぬにいふ。 = 「朝令暮改も亦已むを得ないだらう。日本なんかとは全く國柄が違ふんだからね。」
- (=) 奇蹟——神わざ。神の力でする不思議なわざ。不可思議な事蹟。 = 「此の間何某は自宅の二階の窓から落ちて、命拾ひをしたんだつてね、全く奇蹟だつて専らの噂だよ。」
- (ホ) 嚆矢——事の始まり、又は事の起りにいふ。(鏑矢の事だ。昔戦陣で、戦争開始間際に鳴鏑、即ち嚆矢を發射するのが例であつたからである。) = 「蒸氣機關車をして今日あらしめたるは、ジョージ・スチブソン氏を以て嚆矢となす。」

問(3) 次ノ熟字ニ誤字アラバ正シク直セ。

- (イ) 橋正。 (ロ) 殺那。 (ハ) 穩建。  
(=) 猜凝。 (ホ) 鳥有。

〔解答〕 (イ) 橋正(誤)——矯正(正)。  
(ロ) 殺那(誤)——刹那(正)。(ハ) 穩建(誤)——穩健(正)。  
(=) 猜凝(誤)——猜疑(正)。(ホ) 鳥有(誤)——烏有(正)。



- (備考) (イ) の橋は橋。ホシイママ又はオゴルで、タメる義はない。  
 (ロ) の殺はコロスで、剃のマタタクヒマの義はない。  
 (ハ) の建はタテルで、健のツヨクタンカな義はない。  
 (ニ) の凝はコルで、疑のウタガフ義はない。  
 (ホ) の鳥はトリで、鳥のイツクンゾの義はない。鳥有はイツクンゾア  
 ランヤで、ナシの意となる。

問(4) 次ノ文中——印ノアル片假名ヲ漢字ニ直セ。  
 畢竟、餘りに成功を念とすれば、却つて成功せず、  
 唯、ヒトへに人事をツクして天命を待ち、セイハ  
 イの外にテウダツするを望むべきのみ。キクキウ  
 盡力、死して後ヤまむとする者は、多くの困難に  
 ホウチャクし、キユウキヤウにヒンするも、昔人  
 のイダイなる成功として欽崇せらるると同様の結  
 果を得ることありと思はざるべからず。

〔解答〕 畢竟、餘りに成功を念とすれば、却つて成功せず。  
 唯、偏に人事を盡(竭)して天命を待ち、成敗の外に超脱するを  
 望むべきのみ。鞠躬盡力、死して後已まむとする者は、多くの  
 困難に逢著し、窮境に瀕するも、昔人の偉大なる成功として欽  
 崇せらるると同様の結果を得ることありと思はざるべからず。

(備考) 偉大はキダイとすべきもの。

(昭和8年6月18日施行)

(一時間)

問(1) 次ノ漢字ニ讀假名ヲ附ケ解釋セヨ。  
 綽綽。 洛陽。 矚目。 食言。 閨秀。

〔解答〕 (讀假名・解釋) 綽綽——ユツタリとして餘地あるさ  
 ま。事に臨んでコセツカヌこと。(多くは「綽綽として餘裕  
 あり」とか、綽綽たる餘裕等と用ふ。)

洛陽——支那古代の都の名である。(洛水即ち洛といふ川の北  
 に在るからである。陽は川を主とする場合は北の義となり、  
 山を主とする場合は南の義となる。随つて陰は川を主とする  
 場合は南の義となり、山を主とする場合は北の義となる。即  
 ち洛陽は洛水の北の義であり、山陽道は中國山脈の南の義で  
 ある。淮陰は淮水の南の義であり、山陰道は中國山脈の北の  
 義である。)

矚目——目をつけること。注視・注目と同じ。矚目にも作る。

食言——そらごと。うそをつくこと。詐言。偽言と同じ。(食  
 は爲で、爲は古へ偽に通用した。偽はイツハルである。「言  
 ヲ食ム」とも訓じ、前言を消す義にも用ふる。)

閨秀——才學のすぐれた婦人にいふ。才媛と同じ。(閨秀作家  
 など用ふる。)

問(2) 左ノ片假名ヲ漢字ニ直セ。  
 チユウサイ (なかなほりのとりもち)。  
 シユンカン (またたくひま)。  
 ユウドウ (いざなひみちびく)。  
 チユウチヨ (ためらふ)。  
 ケイシヤ (かたむく)。

〔解答〕 チユウサイ——仲裁。 シユンカン——瞬間。  
 ユウドウ——誘導。 チユウチヨ——躊躇。



ケイシヤ——傾斜。

(備考) 誘導——イウダウ。 躊躇——チウチヨとある方正し。

問(3) 次ノ文章ノ意義ヲ書ケ。

傳へ聞く、陶朱公は勾踐を伴ひ、會稽山に籠りゐて、種々の智略をめぐらし、終に吳王を亡ぼして勾踐の本意を達すとかや。然るに勾踐は二たび世をとり、會稽の恥を雪ぎしも、陶朱功をなすとかや。されば越の臣下にて、まつりごとを身に任せ、高名富み貴く、心の如くなるべきを、功なり名とげて身退くは天の道と心得て、小船に棹さして五湖の煙濤を楽しむ。

〔解答〕 聞き傳へる所によると、後の陶朱公當時の范蠡は、敗戦の主人公越王勾踐を慰め伴ひ、會稽山に籠つてをつて、勝ち誇つた吳王夫差に對して、如何にしたならば、今回の恥を雪ぐべきかと、苦心して種々様々の賢い謀を働かし用ひ、終に吳王夫差を亡ぼして、越王勾踐の本來の希望を達せしむることが出来たとかいふことだ。それはさうと越王勾踐が、斯くの如く一度ならず二度までも世を取つて、會稽山に於ける敗戦の不名譽を雪ぐことを得たのも、范蠡が手柄を建てたのによるのだといふことだ。さういふ次第であるから、何時までも越の臣下として、政治上のことを一身の思ふがままにし、名は鳴り響き、身分は富貴となつて、何事も心の欲するがままになるべき筈なのに、然るに「功も成し終り、名も十分あがつたら、其の地位から身を引くのは天道に叶つてゐる」と悟つて、コツソリと小船に乗つて越を後にし、やがて五湖を航して、霞罩めた濤の趣を

樂んだといふことである。

(備考) 此の文はヤヤツコシイ文である。前には「勾踐の本意を達す」と言ひ、後には「會稽の恥を雪ぎしも」とあるが、結局同一のことを叙した文に過ぎない。然るを「然るに」の接續の辭で連ねたのはどうか、「斯く」とか「斯くて勾踐が」とかすべき文ではあるまいか。且つ又「とかや」の疑問は前は「本意を達せしとかや」後は「陶朱の功によるととかや」等あるべきではあるまいか。「高名富み貴く」もをかきな詞である。高名は心の如くなるの副詞として用ひたのか知ら。「なるべきを」の「を」は大に注意すべき助詞で、必ず反對の意を表す詞である。「何々だが然るに」とか、「何々なのにそれとは反對に」等と解すべきである。

## 作文 (一時間)

(題) 秋 (文體隨意)

秋だ。秋だ。秋が來たのだ。清らかな軽い涼しい秋が來たのだ。目に見ゆるもの肌に觸るるもの總てが、秋の氣色を覚えしめる。藤原敏行が、

「秋來ぬと目にはさやかに見えねども

風の音にぞおどろかれぬる」

と詠んだのにも、秋に對する驚き、秋に對する喜び、秋に對する哀愁といったやうな、無限の感情が盛られてゐるのを、見逃がすことは出来ない。紀友則の、

「秋風に初つ雁がねぞ聞ゆる

誰か玉章をかけて來ぬらむ」

には肉親・故舊からの新秋の音信が、初雁によつて齎らされ



たらしい。飛行機便の便利な世の中にも、漢土の蘇武の昔語り  
は、懐しい思出である。

桐の一葉に無常を感じしめられるのも此の秋だが、燈火親し  
むべき勉強の好シーズンも、矢張此の秋なのだ。吾人青年には  
悲観は毒だ。何事に對しても樂觀して當るべきである。併し心  
の綱を緩めることだけは禁物である。暑からず寒からず、夜は  
殊の外長く、而も心は伸び伸びして體にはしまりがあつて、學  
問に志さへあれば、「陽氣の發する所金石も亦透る」で、必ず  
や「精神一到何事か成らざらん」とまで、漕ぎつけ得られるこ  
と必定である。藤原敏行は又斯くも歌つてゐる。

「白露の色はひとつをいかにして

秋の木の色をちちに染むらむ」

一首の意は「露の色は一樣に白いものなのに、なぜ秋の木の  
葉を種々の色に染めるのであらう。實に不可思議でたまらぬ」  
といふのである。だが何も不思議はない。吾人の勉強が之を證  
明して餘りがある。志一つで成事でも出来るのだ。學者への志  
望は學者に、軍人への志望は軍人に、實業への志望は實業者に  
と、染めかへて呉れるのである。

想うても見るがよい。風涼しく氣の清い月明かな淨机の上  
に、志す方面の書籍を繰り廣げて見入つて居る<sup>ま</sup>状を。日頃の自  
己とは思へない程、心も澄むであらう。今少し今暫しと、夜の  
更けるのも覚えぬまでに、向學の念は自己を勵まし立てて呉れ  
るに違ひない。斯る時 明治大帝の御製は、更に更に大きな言  
ひ知らぬ力を以て、自強不息の精神を植ゑつけて下さるのであ  
る。

「讀む書も今はとたたむ<sup>ま</sup>文机の

うへにさしくる月のかけかな」

私達は勉學に不斷の努力を拂はねばならぬ。秋に於ては取分  
けてさうだ。そして勉強に飽いたら、氣晴らしに郊外へと出る  
がよい。夜なら屋外の<sup>そと</sup>漫歩<sup>まんぽ</sup>きをするもよい。自然と色づく紅葉  
も、雨と時雨<sup>ときり</sup>るる蟲の音も、月光水聲・山容鳥歌、晝となく夜  
となく、吾人の疲勞を慰めて呉れるのだ。

秋を悲しいと言つて、大江千里は、

「月見れば千々に物こそ悲しけれ

我が身ひとつの秋にはあらねど」

と詠んでは居るが、總ては心の迷ひだ。世の中だもの少しぐ  
らゐの悲しみは當然だ。其の秋の悲しみが糖<sup>はち</sup>ての春を有らしむ  
るのではないか。秋は萬物を蘇らす素因をなすものだ。此の  
點に於て秋を悲観するとは考へ違ひだ。寧ろ感謝すべきもので  
あらう。

嗚呼、秋だ。秋だ。秋が來たのだ。清らかな軽い涼しい秋が  
來たのだ。目に見ゆるもの肌に觸るるもの總てに、秋の氣色が  
漂うて居るではないか。軒の風鈴に秋の歌は流れる。鶏頭にコ  
スモスに<sup>まんぼ</sup>蜻蛉の午睡が揺れる。前の小川に澄んだ空が動く。實  
りの秋だ。收穫の秋だ。吾人は此の秋に心の種蒔きをしなくて  
はならない。 「終」

(題) 鐵 道 (文體隨意) (一時間)

陸上交通上、最も便利にして而も最も必要缺くべからざるも  
のは鐵道なるべし。鐵道は實に文明の利器にして、これ無くん



ば、千里の遠くに行くが如きは、全く至難のことに屬せん。昔日世の開くることの遅々たりしは、交通の不便なりしに原因する所多かるべし。彼の大宮人が牛車ぎしやに乗りて、綺羅を競ひしが如きは、優長は優長、風雅は風雅なりしならんも、世の文明を後らしめたるの一原因たることは、是れ亦辭むべからざるなり。

然るに明治の初期に於て、西洋文明の輸入と共に、鐵道敷設せられて以來、交通の便利となりしは勿論、物資の運輸も盛となりて、所謂有無相通ぜしめて、飢饉より生ずる悲惨事をも惹起せざるに至れるは、全く鐵道の恩恵に待つ所多しと謂ふべし。

今日に於ける我が國の鐵道は實に長足の進歩發達を遂げ、如何なる山村僻地にも敷設せられ、其の便利を被むる者多く、之れを岡蒸氣と呼ばれ、多くの見物人に驚異の眼を以て見られたる當時に比すれば、隔世の感なくんばあるべからず。然り而して千里笈を負ふの徒が、幾日月を要したる途中の艱難辛苦は更に無く、數晝夜を出でずして、目的の地に達し得るに至れるに非ずや。徳富蘆花氏が嘗つて、

「五十三次十日は昔、今は一日汽車の旅」

と作られたるは、旅の容易きを歌はれたるものならんも、汽車の便利・恩恵を感謝せられたるものとも見るを得べし。

海の汽船に於ける陸の汽車に於ける、誰れかこれに優劣を附する者あらん。吾人は此の兩者に對しては、常に感謝の意を表すると共に、之れが改良、發達を計ることに留意せざるべからず。現今に於ける我國の鐵道は實に優秀なるものにして、世界中の何れの鐵道に比しても遜色なきに至れり。曩むかしに勞農露西亞

が巨費を投じて、我國の技術員を招聘して、自國鐵道の改良を企てたるに徴しても、明白なる事實なり。

余輩は今や其の光輝ある日本の鐵道界の一員たらんとして、此の受験場にあり。其の喜びたるや筆紙の盡す所にあらず。若し夫れ合格の幸運に浴せんか、如何なる苦痛に遭遇することあらんも、精勵恪勤以て人後に落ちざるの覺悟を有する者なり。

嗚呼其の日の來るは果して何れの日なるべきか。余は指を屈して其の日の來るを鶴首して待つ者なり。 「終」

### —〈徳島出張所〉—

#### 中等學校卒業者に對する分（一時間）

問(1) 左ノ文ノ解釋ト傍線アル部分ノ讀方ヲ示セ。

彼はふと自分を顧みた。既に佛心を得て衆生の爲め碎身の苦を嘗めてゐる高德の聖に對し深夜の暗に乗じて剽盜の如く獸の如く瞋恚の劍を抜きそばめて近寄らんとする自分を顧みると彼は強い顛慄がみうちを傳うて流れるのを感じた。

〔解答〕 (讀方) 衆生。シユジヤウ 碎身の苦。サイシシ クルシメ(ク) 高德の聖。カウトク ヒツジ

剽盜。ヘツタク 瞋恚。シニイ 顛慄。キンゾフ

(解釋) 彼は自分の行爲に對して、忽ちに己が淺ましい所業をふりかへつて見た。最早や出家得度して仁慈の御佛の心を悟り得て、世上一切の人類を救済の爲めに、體を粉にする程にも、つとめはたらくといふ苦痛を経験しつつある。徳行すぐれた高僧に對して、あらうことか眞夜中の暗いのにつけこんで、オヒ



ハギの如く、或は獸の如くに、甚だしい怒の劍を抜いて側に引き寄せて、高僧に近寄つて殺さうとする。見下げはてた自分自身を振りかへり思うた時、良心の苛責に堪へないで、彼は強い身振ひが、體中を傳つて流れる様に、恐れを感じるのだつた。

問(2) 左ノ熟語ノ讀方ト解釋トヲナセ。

- (イ) 領袖。 (ロ) 華僑。 (ハ) 誣告。  
(ニ) 邊幅。 (ホ) 解脱。 (ヘ) 良二千石。

〔解答〕 (讀方・解釋) (イ) 領袖——エリとソデの義。襟も袖も共に人目を惹く主要の部分故、頭に立つ人の意。人の儀表たる人。團體の頭だつ人。

(ロ) 華僑——華は中華民國の華故、支那商人の義か。外國在留の支那人のこと。華商に同じ。専ら南洋方面に活躍し、商業上絶大の權利を握り、中華民國の財政に一大勢力を有す。最近支那が親日を傳へらるるも、彼等の寄與に負ふとか。

(ハ) 誣告——無實のことを、しひいつはつて告げること。無實のことで故意に人を訴へること。

(ニ) 邊幅——うはべ。外貌。みえ。「邊幅を飾る」と用ふ。布帛のへりの義。

(ホ) 解脱——世俗の迷ひを離れて、佛道を悟ること。煩惱の繫縛を解いて、三界の業苦を脱すること。ときゆるす義。

(ヘ) 良二千石——よい地方官。二千石は府縣知事の異名。

(年俸二千石を食む義。)

問(3) 左ノ文中片假名ヲ漢字ニ改メヨ。

某君は(シサウオンケン)にして(ヨウバウフウサイ)共に(カウガ)而かも(エツレキ、シキケ

ン)何れも(シユウ)に(ヒイ)でたりとの理由で(イヨイヨ)近日(エイショク)に(ツク)ことになつた。

〔解答〕 某君は(思想穩健)にして(容貌風采)共に(高雅)而かも(閱歴、識見)何れも(衆)に(秀)でたりとの理由で(愈々)近日(榮職)に(就)くことになつた。

### 小學校卒業者に對する分(一時間)

問(1) 次ノ文ノ傍線ノ箇所ニ讀假名ヲ附シ且ツ全文ヲ解釋セヨ。

夜更けて虫吟じて世の中靜かなる時たまたま燈前に書をさしおきて起つて廊を歩むをりから窓の白きを見て戸を排きて出づれば月天心を過ぎて光華六合に瀰り霜に澄める夜の氣は水まさに凍らんと欲する如くなる身心頓に此の世のものならずなりたるやうに覺えて秋ならでは月ならではと思はる。

〔解答〕 (讀假名) 排ヒキき。 月天心ツキテンシン。 光華六合クワウカワロク。 瀰ヒビり。  
身心頓シンシントン

(解釋) 夜がだんだんと深くなつて、蟲も亦鳴いて、世間がヒツソリと靜かになつた時、折りふし讀んで居つた書物を、燈の前にさし置いて、起ち上つて廊下を歩いて居る折りも折り、窓の白いのを見て、外の景色は嘸かしと戸を押し排ヒキいて、庭に出て見ると、今や月は天空の眞中を過ぎて、其の華ばなしい光は天地四方に一杯に廣く及び、霜の爲に澄み切つた夜の氣は、スツカリ冷え切つて、水までが今にも凍らうとするがやうであ



る。そして身も心も急に此の俗世間のものではなく、別世界のもののやうに思はれて、こんな眺はこんな心持は、秋でなくては眺められない。否秋でも、月夜でなくては、味ははれないなあと思はれた。

問(2) 次ノ熟語=讀方ト意味トヲ書ケ。

- (イ) 日和。 (ロ) 回向。 (ハ) 陶冶。  
(ニ) 斟酌。 (ホ) 進捗。 (ヘ) 長押。

〔解答〕(讀方・意味)(イ) 日和——天氣。晴天。事の成り行き即ち形勢。

(ロ) 回向——お經を讀んで死んだ人の冥福を祈ること。

(ハ) 陶冶——人材を養成して、性格を鍛へる意。薰陶に同じ。(陶はセトモノを焼くこと、冶は金屬を鑄ること。)

(ニ) 斟酌——くみ、くみとること。手加減をすること。事情をくみとること。時や場合を見計らつたり、事情を推量して寛容すること。

(ホ) 進捗——すすみはかどる。はかがゆくこと。仕事のはかどること。(シンセフと讀んではいけない。)

(ヘ) 長押——鴨居の上に横にわたす木のこと。敷居の下にもいふ。

問(3) 左ノ文中ノ片假名ノ部=適當ナル漢字ヲアテヨ。

- (1) \_\_\_\_\_ (2) \_\_\_\_\_ (3) \_\_\_\_\_ (4) \_\_\_\_\_ (5) \_\_\_\_\_  
カウツウ ウンユ キクワンのハツタツするにシ  
(6) \_\_\_\_\_ (7) \_\_\_\_\_ (8) \_\_\_\_\_  
タガヒショウトリヒキはスコブるピンクワツとな

(9) \_\_\_\_\_ (10) \_\_\_\_\_ (11) \_\_\_\_\_ (12) \_\_\_\_\_  
リイウリヨウにしてレンカなるカモツはヨウイに  
(13) \_\_\_\_\_ (14) \_\_\_\_\_  
シヂヤウにコカクを求むることを得るに至れり。

- (1) \_\_\_\_\_ (2) \_\_\_\_\_  
(3) \_\_\_\_\_ (4) \_\_\_\_\_  
(5) \_\_\_\_\_ (6) \_\_\_\_\_  
(7) \_\_\_\_\_ (8) \_\_\_\_\_  
(9) \_\_\_\_\_ (10) \_\_\_\_\_  
(11) \_\_\_\_\_ (12) \_\_\_\_\_  
(13) \_\_\_\_\_ (14) \_\_\_\_\_

〔答解〕(1) 交通。(2) 運輸。(3) 機關。(4) 發達。

(5) 從(隨)。(6) 商取引。(7) 頗。(8) 敏活。

(9) 優良。(10) 廉價。(11) 貨物。(12) 容易。

(13) 市場。(14) 顧客。

## 作文 (三十分)

(題) 鐵道に就いての所感

一日十里若くは十二里を以て旅行の限度とした昔日と、僅かに一時間を疾走した丈でも十四五里を飛ばし得る汽車の便とを思ひ合はする時、吾人は餘りにも其の懸隔の甚だしきに、一驚を喫しないでは居られない。同じ汽車にした所で、鐵道の開設當時と現今とを比較する時、其の餘りの變化に啞然たらざるを得ないのである。

昔、交通の不便だつた當時、宿場しゆくばから宿場を或は馬の背を借り、或は窮屈な駕籠に乘せられ、いやな雲助に惱まされつつ、今日は五里明日は十里と飛ばして、酒代さかてをねだられた當時と。



瞬く間に五里十里、一晝夜には百里二百里と飛ばして、たいした苦痛・退屈をも覺えない今日とを比較する時、吾人は文明の有難さに感謝せざるを得ない。感涙なき能はずである。不如歸の作者、徳富蘆花氏が嘗て、

「五十三次十日は昔、今ちや一日汽車の旅」

と歌はれたのにも、無限の感謝が味ははれるではないか。南の極と北の極とが容易に有無を相通じ得るのも、吾人が下駄ばきの儘千里の旅を續け得らるるのも、皆是れ交通の便、汽車の御蔭、鐵道の恩恵なのである。

是に於てか吾人は鐵道の創設者、機關車の發明者に滿腔の誠意を捧げて、謝恩の意を表せないでは居られない。鐵道は單に貨物・旅客の運搬ばかりではない。戦時に於ての兵士、戦器の輸送等に於ては、此の鐵道の便に頼らなければ、目覺ましい活動はなし得られないのである。

おお汽車！ おお鐵道！！ 吾人は御身の交通上の絶大なる寄與に對し、如何なる辭を以て謝すべきかを知らない。唯願はくは技術者の倦まず弛まざるの改良によつて、健全なる發達を遂げ、益々世上の幸福を齎らさんことを祈るばかりである。

「終」

## 其他之部

### —〈淡町運輸事務所〉—

#### 常識

#### 中學校、小學校卒業者に對する分（一時間）

問(1) 我が國に初めて鐵道の敷かれた年を書きなさい。

〔解答〕 明治五年。

問(2) 五箇條の御誓文を書きなさい。

〔解答〕 一、廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ。  
一、上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ。  
一、官武一途庶民ニ至ル迄各其ノ志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメンコトヲ要ス。  
一、舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ。  
一、智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ。

問(3) 我國に於ける石炭の主産地を三つ書きなさい。

〔解答〕 福岡縣—(筑豊・三池炭田)。福島縣—(常盤炭田)。北海道—(石狩炭田)。

問(4) 汽車がレールの彎曲してゐる箇所を走るとき車内の人は線路のどちら側に倒れんとするか、又そのわけを書きなさい。



〔解答〕 外側に倒れんとします。其の理由は、遠心力で外側の方に行かうとするからです。

—◁岡山運輸事務所▷—

常識

中學校卒業者に對する分

問(1) 滿洲國ノ面積及人口概數ヲ問フ。

〔解答〕 滿洲の面積は119萬方<sup>キロメートル</sup>方<sup>キロメートル</sup>。 (7.7000餘方里)

人口は3400萬人である。

試に我國と比較すると、我國の面積は僅に67萬方<sup>キロメートル</sup>方<sup>キロメートル</sup> (4.3747方里)なのに、人口に至つては其の約三倍の9040萬人である。言ひ換へれば、面積は我國の1.7倍に及ぶけれども、人口は約 $\frac{1}{3}$ に過ぎない。

問(2) 左ノ文字=方位上ノ讀假名ヲツケ且其ノ方位ヲ説明セヨ。

乾。 坤。 巽。 艮。

〔解答〕 乾。 坤。 巽。 艮。

乾は西北のこと。 坤は西南のこと。 巽は東南のこと。 艮は東北のことである。

問(3) 世界列國ノ主要生産中、金、石炭、羊毛ノ生産高最モ多キ國名及其ノ生産額ヲ各別ニ記セヨ。(生産額ハ金額ニテ示セ)

品名	國名	生産額
金	南アフリカ聯邦 トランスヴァール	約6億5千萬圓
石炭	北アメリカ合衆國	約5億萬圓
羊毛	オーストラリア洲	約6億2千萬圓

高等小學校卒業者に對する分

問(1) 我國ト國際聯盟トノ現在ノ關係ヲ説明セヨ。

〔解答〕 既に脱退したこと故、關係はない筈だが、二年間だけは諸費用等を出す義務があるとか聞く。併し軍縮會議の方は今に關係を續けてゐる。(詳細は本年度盛岡運輸事務所「常識」の所を参照のこと。)

問(2) 我國ノ殖民地ヲ問フ。

〔解答〕 臺灣・朝鮮・關東州・樺太・委任統治の南洋諸島等である。

問(3) 十二支ノ方位ヲ説明セヨ。

〔解答〕 子は眞北。 丑は東北の北寄り。 寅は東北の東寄り。 卯は眞東。 辰は東南の東寄り。 巳は東南の南寄り。 午は眞南。 未は西南の南寄り。 申は西南の西寄り。 酉は眞西。 戌は西北の西寄り。 亥は西北の北寄りである。

—◁高松出張所▷—

(昭和8年4月30日施行)

雜問

驛手、列車手、庫内手採用



## 中學校卒業者に對する分

- 問(1) 次ニ付キ知ル處ヲ簡單ニ書ケ。  
 (a) マルコポーロ(Marco polo)。 (b) 朱印船。  
 (c) サンチャゴ(Santiago)。 (d) 中央行政官廳。  
 (e) 「マツチ」ヲ擦レバ火ノ出ル理由。  
 (f) 廣告ノ効果。 (g) 今年ハ皇紀何年カ。

〔解答〕 (a) マルコポーロは、伊太利の大旅行家。ヴェネチア(ヴェニス)に生れた。僅に十七歳で父と共に東洋に旅行して、元の忽必烈にも面會した人。留ること十七年、世祖に仕へて信任を得、四十一歳にして故郷に歸り、有名な「東方見聞録」を著して、東洋の富盛を説いたので、西歐人の東洋探検の思想が大に起つたといはれる。コロンブスが阿米利加を發見するに至つたのも、此の本を讀んだのに起因するといふ。

(b) 朱印船は、御朱印船ともいふ。昔時、公許のしるしとして、朱印のある鑑札を所有し、海外貿易に行つた船。豊臣時代に始まつて、徳川の初期まで行はれた。

(c) サンチャゴは、智利共和國の首府である。正しくはサンチャゴ・デーチェレと呼ぶ。南アメリカ西部第一の最大都會である。

(d) 中央行政官廳とは、全國一般に施行する、立法・司法以外の國家の作用を包含する政務に就いて、中央行政を施行する機關のこと。

(e) 「マツチを擦ると火の出る理由は、摩擦によつて赤燐が黄

燐に變ずるからである。

(f) 廣告の效果としては、種々あるであらう。現物廣告としては先づ第一に顧客を多からしめる。第二には賣行を多からしめる。第三には早く利益を見ることが出来る。第四には何時でも仕入れを早からしめ、新柄を供給し易からしめるであらう。見本廣告としては先づ第一に人目を惹く。第二には注文が利到するであらう。随つて現物廣告の場合の第三第四の效果をも見るであらう。他物廣告の新聞・雑誌によるもの、ピラ・カレンダー・汽車・電車・樂隊・チンドン屋等の廣告によるもの等も、人目を惹くやうに工夫を凝らせば、相當の效果を得て、無廣告に勝る利益が得られるであらう。

(g) 今年ハ皇紀二千五百九十三年である。

- 問(2) 我國有鐵道ノ主要線名セツヲ舉ゲ各沿線ノ都市三ツヲ記セ。

〔解答〕 東海道本線——此の線の沿線の都市としては、(横濱) 名古屋・京都・大阪。

山陽本線——此の線の沿線の都市としては、(神戸) 姫路・岡山・廣島。

東北本線——此の線の沿線の都市としては、宇都宮・仙臺・盛岡。

北陸本線——此の線の沿線の都市としては、富山・金澤・福井。

中央本線——此の線の沿線の都市としては、八王子・甲府・上諏訪。



鹿兒島本線——此の線の沿線の都市としては、福岡・久留米・熊本。

函館本線——此の線の沿線の都市としては、小樽・札幌・岩見澤。

問(3) Translate into Japanese  
Mankind passes from the old to the new on a bridge formed by those who labour in three principal arts—agriculture—manufacture—transportation.

〔解答〕 農業、工業、運搬の三種の主要技術に従事する人々に依りて作られたる人間の橋を渡りて人類は其舊状態から新状態へ移りて行く。

### 驛手、列車手、庫内手採用

#### 小學校卒業者に對する分

問(1) 左記ハ何レノ道、府、縣ニアリヤ。  
(1) 清津。 (2) 稚内。 (3) 宇都宮。  
(4) 各務ヶ原。 (5) 室戸崎。

〔解答〕 (1) 清津(朝鮮咸鏡北道)。 (2) 稚内(北海道)。  
(3) 宇都宮(栃木縣)。 (4) 各務ヶ原(岐阜縣)。  
(5) 室戸崎(高知縣)。

問(2) 左記ニ就キ最モ關係深キ人ノ名ヲ括弧内ノ數ダケ記セ。

- (1) 宇佐八幡ノ神教ヲ受ク( )。  
(2) 弘安ノ役( )。  
(3) 神皇正統記( )。  
(4) 蒸氣機關ノ發明( )。  
(5) 下關係約( )。

〔解答〕 (1) 宇佐八幡ノ神教ヲ受ク(和氣清麻呂。弓削道鏡)。  
(2) 弘安ノ役(北條時宗。元首忽必烈)。  
(3) 神皇正統記(北畠親房)。  
(4) 蒸氣機關ノ發明(ジェームス・ワット)。  
(5) 下關係約(伊藤博文—「陸奥宗光」。李鴻章)。

問(3) 左記ニ答ヘヨ。  
(1) 國民ノ三大義務トハ何カ。  
(2) メートル法ハ何故便ナルカ。  
(3) 物價トハ何カ。  
(4) 東京・神戸間ヲ運轉セル最モ速キ急行列車ノ一時間平均速度ハ約何軒カ。  
(5) 我國ニハ現在何箇師團アルカ。且陸軍ノ兵種ヲ記セ。

〔解答〕 (1) 國民ノ三大義務とは、兵役・租税・選挙の三つである。  
(2) メートル法の便利なる理由は、一は總ての單位が十進法になつてゐるから、長さ(度)と柁目(量)と目方(衡)との關係が簡單なのと、且又萬國共通であるからである。  
(3) 物價とは其の物の單位量の價といふこと。即ち貨物と貨幣との交換比例で、市價ともいふ。



- (4) 超特急「つばめ」號(1時間平均速度)70.2軒  
 (5) 現在十七箇師團を有す。兵種としては歩兵・騎兵・砲兵・工兵・航空兵・輜重兵の六種である。

## 雑問

### 線路工手採用

- 問(1) 次ノ問ニ答ヘヨ。  
 (イ) 内地、朝鮮、臺灣ノ人口概數。  
 (ロ) 四國ニ於ケル國有鐵道沿線ノ市名。

- 〔解答〕 (イ) 内地人口一約九千萬。朝鮮人口一約二千萬。臺灣人口一支那移住約四百萬人、土人十餘萬人。(其の他樺太・北海道には少數のアイヌ族が居る。諸外國に在る大和民族は六十餘萬人)。  
 (ロ) 四國に於ける國有鐵道沿線の市は、高知・徳島・高松・丸龜・今治・松山等である。(宇和島の如きは沿線とはいはれぬであらう。)

- 問(2) 左ノ人物ニ就キ知レル處ヲ簡單ニ記セ。  
 (イ) 吉田松陰。 (ロ) 松岡洋右。

- 〔解答〕 (イ) 吉田松陰は長州藩士。名は矩方、通稱を寅次郎といふ。さきにアメリカへ渡らうとして罰せられたが、後に許され有名な松下村塾を開いて、多くの門人を教へた。井伊直弼が將軍家茂を立てた事や、通商條約を結んだ事から、攘

夷論者の怨みを買ふや、吉田松陰も其の中の一人であつたので、遂に捕へられ、同士六十四人と共に、江戸小塚原に斬られた。世に安政の大獄といふのがそれで、辭世に「身はたとひ武蔵の野邊に朽ちぬとも留めおかまし大和魂」とあるので、其の爲人が分るであらう。

- (ロ) 松岡洋右は政友會所屬の代議士であるが、國際聯盟會議帝國代表の首席全權として、ジュネーヴに赴き今日までの軟弱外交を排し、立論堂々正義を叫んで、帝國の立場を闡明し、使命を果たして歸朝せんとしたが、遂に脱退の止むなきに至つて、堂々と引揚げた人である。

- 問(3) 軌條ノ繼目ニ隙間ノアル理由如何。

〔解答〕 夏になると温度が昇つて軌條が伸びるから、伸びても差支へが無い様に隙間を置くのである。若し隙間が無い様にしておくと、軌條が曲つてしまふからである。

- 問(4) 滿洲國ノ省名ヲ擧ゲヨ。

〔解答〕 奉天省・吉林省・黑龍江省・熱河省・興安省の五省である。



## —◁徳島出張所▷—

(昭和8年9月17日施行)

## 地 理

中學校、小學校卒業者に対する分 (一時間)

(小學校卒業者ハ三問中二問ヲ爲スベシ)

問(1) 大日本帝國ノ位置(經緯度ノミ)ヲ記セ。

〔解答〕 我が大日本帝國の位置は、經度からいふと、極西—東經 119度 18分 から、極東—東經 156度 30分に及び、緯度からいふと、極南—北緯 21度 45分 から、極北—北緯 50度 55分に及ぶ。

問(2) 東京・下關間ノ鐵道沿線(東海道線・山陽線)ノ市ヲ列舉セヨ。

〔解答〕 川崎・横濱・沼津・静岡・濱松・豊橋・岡崎・名古屋・一宮・岐阜・大垣・大津・京都・大阪・西宮・神戸・明石・姫路・岡山・倉敷・福山・尾道・廣島・宇部の二十四市である。

問(3) 徳島縣ニ於ケル主要物産ヲ列舉セヨ。

〔解答〕 藍・煙草・鹽・綿織物等である。

## 名古屋鐵道局管内

## 數 學 之 部

## —◁名古屋鐵道局▷—

名鐵管内中學程度卒業者問題

各運輸事務所共通

## 算 術

中等學校卒業者に対する分 (一時間)

下記代數、幾何、算術ヲ合セテ十問題ノ内五題ヲ選定解答スベシ。

問(1) 三數アリ、共和 9958 = シテ甲ノ二倍 = 1234  
ヲ加フレバ乙トナリ、乙 = 318 ヲ加フレバ丙ノ二  
倍トナルト云フ、各數如何。

(考へ方) 題意ヲ算式ノ形デ表ハスト三數間ノ關係ガ明瞭ニナル。  
 $甲 \times 2 + 1234 = 乙$      $(甲 \times 2 + 1234 + 318) \div 2 = 甲 + 617 + 159 = 丙$   
 故ニ  $甲 + 甲 \times 2 + 甲 + 1234 + 776 = 9958$     トナル。

〔解答〕 甲ノ4倍ハ  $9958 - 1234 - \frac{1234 + 318}{2} = 7948$

甲  $7948 \div 4 = 1987$

乙  $1987 \times 2 + 1234 = 5208$

丙  $(5208 + 318) \div 2 = 2763$

答 甲 1987 乙 5208 丙 2763



問(2) 庭園アリ其中ニ在ル櫻ノ樹數ハ梅ト桃トノ樹數ノ和ノ7分ノ5、桃ハ梅ノ4分ノ3ニシテ三種ノ樹數總計480本ナリト云フ、然ラバ各種ノ樹數如何。

〔解答〕 梅ノ數ヲ1トスレバ

$$\text{桃ハ} \frac{3}{4} \quad \text{櫻ハ} \left(1 + \frac{3}{4}\right) \times \frac{5}{7} = 1\frac{1}{4} \quad \text{ニテ表ハサル}$$

$$\text{故ニ梅ノ數ハ} \quad 480 \text{本} \div \left(1 + \frac{3}{4} + 1\frac{1}{4}\right) = 160 \text{本}$$

$$\text{桃} \quad 160 \text{本} \times \frac{3}{4} = 120 \text{本}$$

$$\text{櫻} \quad (160 \text{本} + 120 \text{本}) \times \frac{5}{7} = 200 \text{本}$$

答 梅160本 桃120本 櫻200本

問(3) 800人ノ工夫ヲ使役シテ100日間ニ成就シ得ベキ工事アリ、之ニ着手シテヨリ35日ヲ經テ一旦工事ヲ中止シ爾後25日ヲ經テ再ビ工事ヲ始メタリ、若シ此場合ニ於テ尙最初ノ豫定日限ニ成功セシメントスレバ前ノ工夫ニ幾人ヲ増スコトヲ要スルカ。

〔解答〕 中止後ニ殘リタル工事ハ(工夫800人ニテ)

$$100 \text{日} - 35 \text{日} = 65 \text{日分}$$

豫定日マデニ成就スルタメニ中止後働クベキ日數ハ

$$65 \text{日} - 25 \text{日} = 40 \text{日}$$

800人 65日 ヲ要ス

$$40 : 65 = 800 : x$$

x 40日

$$x = \frac{65 \times 800}{40} = 1300$$

反

増員數ハ

$$1300 \text{人} - 800 \text{人} = 500 \text{人}$$

答 500人

問(4) 二人ノ舟人アリ各一艘ノ船ヲ漕ギテ島ノ周圍ヲ廻ルニ其毎時ノ速度ノ和ハ7.5浬ナリ、今同時ニ同所ヲ發シ同方向ニ航スレバ20時間ニテ相會シ、又若シ反對ノ方向ニ航スレバ9.6時間ニテ相會スト云フ、島ノ周圍及各人ノ速度ヲ問フ。

〔解答〕 島ノ周圍ハ  $7.5 \text{浬} \times 9.6 = 72 \text{浬}$

兩舟夫ノ時速ノ差  $72 \text{浬} \div 20 = 3.6 \text{浬}$

時速(甲)  $(7.5 \text{浬} + 3.6 \text{浬}) \div 2 = 5.55 \text{浬}$

時速(乙)  $(7.5 \text{浬} - 3.6 \text{浬}) \div 2 = 1.95 \text{浬}$

答 島ノ周72浬 速度 毎時5.55及ビ1.95

## 代 數

問(5)  $\frac{1}{x-2} + \frac{1}{x-8} = \frac{1}{x-7} + \frac{1}{x-3}$  ヲ解ケ。

〔解答〕  $\frac{1}{x-2} + \frac{1}{x-8} = \frac{1}{x-7} + \frac{1}{x-3}$  一項ツツ移項シテ

$$\frac{1}{x-8} - \frac{1}{x-7} = \frac{1}{x-3} - \frac{1}{x-2} \quad \text{各邊ヲ通分ス}$$

$$\frac{x-7-x+8}{(x-8)(x-7)} = \frac{x-2-x+3}{(x-3)(x-2)}$$

$$\frac{1}{(x-8)(x-7)} = \frac{1}{(x-3)(x-2)} \quad \text{分母ヲ拂フ}$$

$$(x-3)(x-2) = (x-8)(x-7)$$



$$x^2 - 5x + 6 = x^2 - 15x + 56$$

$$10x = 50$$

$$x = 5$$

答  $x = 5$

問(6)  $x^4 + mx^2 - 4x - 6$  が  $x - 3$  にテ割切レル様  $m$  ノ値ヲ定メヨ。

〔解答〕 剰餘定理 ( $x$  ツイテノ整式  $A$  ヲ  $x - a$  ニテ除スルトキ  $A$  ノ文字  $x = a$  ヲ代入シテ得ル値ガ零トナルトキハ  $A$  ハ  $x - a$  ニテ割リ切レル) ヲ記憶シテ居ラレルダラウ。此ノ定理ヲ應用スル。

$$x^4 + mx^2 - 4x - 6 \quad \text{ノ } x = 3 \text{ ヲ代入シテ之ヲ } 0 \text{ ト置ク}$$

$$3^4 + 3^2 m - 4 \times 3 - 6 = 0 \quad 81 + 9m - 12 - 6 = 0 \quad 9m = -63$$

$$m = -7 \quad \text{答 } m = -7 \text{ ナルトキ } x - 3 \text{ ニテ割リ切レル}$$

問(7) 次ノ方程式ヲ解ケ。

$$2x^2 + 8x - \sqrt{x^2 + 4x - 4} = 9$$

〔解答〕  $2x^2 + 8x - \sqrt{x^2 + 4x - 4} = 9$

$$2(x^2 + 4x) - \sqrt{x^2 + 4x - 4} = 9$$

左邊第一項ヲ第二項ノ  $\sqrt{\quad}$  内ト同一ニスル爲ニ  $8$  ヲトスル。

$$2(x^2 + 4x - 4) + 8 - \sqrt{x^2 + 4x - 4} = 9$$

$$2(x^2 + 4x - 4) - \sqrt{x^2 + 4x - 4} = 1$$

$$\sqrt{x^2 + 4x - 4} = y \quad \text{ト置キ、前ノ方程式ヲ書キカヘル}$$

$$2y^2 - y = 1 \quad 2y^2 - y - 1 = 0 \quad (2y + 1)(y - 1) = 0$$

$$y = 1 \quad \text{or} \quad -\frac{1}{2}$$

然ルニ  $y$  即  $\sqrt{x^2 + 4x - 4}$  ハ正デアルカラ  $-\frac{1}{2}$  ハトラス

$$\sqrt{x^2 + 4x - 4} = 1 \quad \text{ト置キ之ヲ解ク}$$

$$x^2 + 4x - 4 = 1 \quad x^2 + 4x - 5 = 0 \quad (x + 5)(x - 1) = 0$$

$$x = 1 \quad \text{or} \quad -5$$

(驗)  $x = 1$  トスレバ

$$2x^2 + 8x - \sqrt{x^2 + 4x - 4} = 2 + 8 - \sqrt{1 + 4 - 4} = 2 + 8 - 1 = 9$$

$$x = -5 \quad \text{トスレバ}$$

$$2x^2 + 8x - \sqrt{x^2 + 4x - 4} = 50 - 40 - \sqrt{25 - 20 - 4} = 10 - 1 = 9$$

兩根共原方程式ヲ満足ス

答  $x = 1 \quad x = -5$

問(8)  $a'x^2 + b'x + c' = 0$  ノ二根ノ符號ヲ變ジタルモノガ  $ax^2 + bx + c = 0$  ノ二根ナル爲ノ條件ヲ求ム。

〔解答〕 初メノ方程式ノ二根ヲ  $\alpha, \beta$  トスレバ後ノ方程式ノ二根

$$\text{ハ } -\alpha, -\beta$$

$$\alpha + \beta = -\frac{b'}{a'} \quad \alpha\beta = \frac{c'}{a'} \quad -\alpha - \beta = -( \alpha + \beta ) = \frac{b}{a}$$

$$(-\alpha)(-\beta) = \alpha\beta = \frac{c}{a}$$

$$\therefore \frac{b'}{a'} = \frac{b}{a} \quad \frac{c'}{a'} = \frac{c}{a}$$

即チ  $\frac{a}{a'} = \frac{b}{b'} = \frac{c}{c'}$  ナル關係ヲ必要トス。

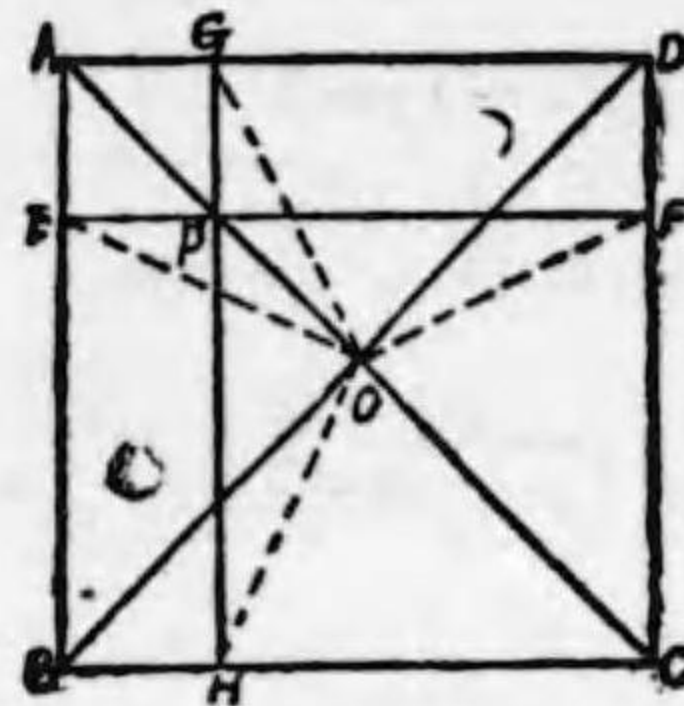
## 幾 何

問(9) 正方形ノ對角線上ノ任意ノ一點ヲ過リ邊ニ平行ナル直線ヲ引ケバ此ノ線ガ邊ト交ル所ノ點ハ



皆兩對角線ノ交點ヲ中心トセルーツノ圓周上ニアリ。

【解答】 假設 ABCD ハ正方形 O ハ對角線ノ交點、P ハ對角

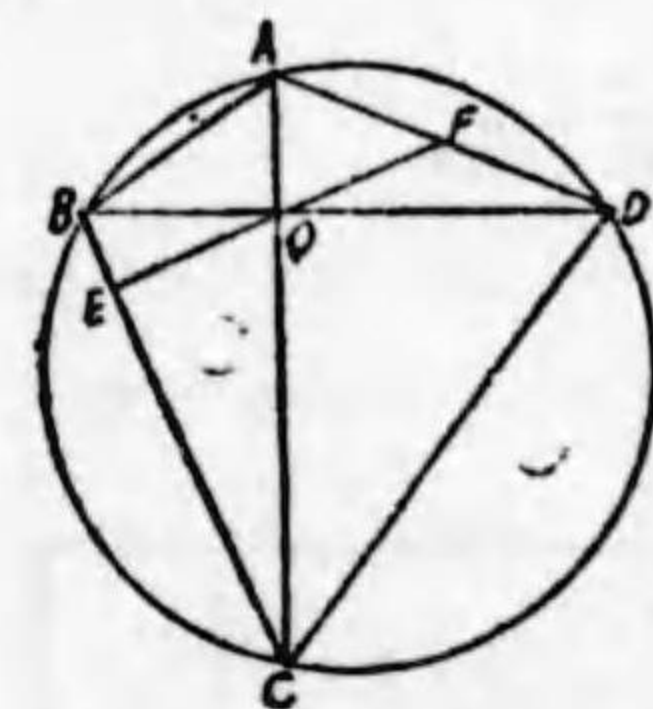


線上ノ任意ノ一點、 $AB \parallel GH$   
 $AD \parallel EF$  ナリトス  
 終結  $GO = HO = EO = FO$  ナリ  
 證明  $\triangle AEO \cong \triangle AGO \cong \triangle CHO \cong \triangle BFO$  ナリ  
 $AO$  ハ共通  $AE = AG$   
 $\angle EAO = \angle OAG = 45^\circ$

故 =  $OE = OG$   
 同理 = ヨリ  $OG = OF = OH = OE$  トナル  
 故 = E, F, G, H ハ O ヲ中心トスル圓周上ニアリ。

問 (10) 圓 = 内接スル四邊形ノ兩對角線ガ直角ニ交ルトキハ其交點ヨリ任意ノ一邊ヘ引ケル垂線ヲ反對ノ向キヘ引延セバ對邊ヲ二等分スベシ。

【解答】 假設 ABCD ハ圓 = 内接スル四邊形、 $AC \perp BD$ 、O ハ對角線ノ交點、 $OE \perp BC$ 、EO ノ延長ガ AD ト交ハル點ヲ F トス。



終結 然ルトキハ  $AF = DF$   
 證明  $\triangle BCO \cong \triangle ECO \cong \triangle AFO$  ナリ  
 $\angle BOC = \angle EOC = \angle AOF$   
 $\angle BOC$  ハ共通  
 $\therefore \angle CBO = \angle COE$   
 $\angle CEO = \angle CAD$   $\angle COE = \angle AOF$

$\therefore \angle CAD = \angle AOF$  ヨリテ  $AF = OF$   
 同様ニシテ  $OF = FD$  ヲ證明スルヲ得  
 故 =  $AF = FD$

算 術

實業學校、農學校卒業者ニ對する分 (一時間)

下記代數、幾何、算術ヲ合セテ十問題ノ内五題ヲ選定解答スベシ。

問 (1) 一樣ナル速サニテ走ルベキ汽車アリ、然ルニ機關手ハ初メ其速サヲ緩クシ、40 分間ニ漸ク 26 軒  $\frac{2}{3}$  ヲ走レリ、依リテ急ニ其速サヲ 1 時間 65 軒ノ割ニ増シテ 10 分間走リシ故、丁度豫定時刻ニ着セリ、然ラバ豫定ノ一樣ナル速サハ毎時幾軒ナルカ。

【解答】 毎時 65 軒ノ割ニテ 10 分間進ミシ距離

$$65 \times \frac{10}{60} = 10 \frac{5}{6} \text{ 軒}$$

50 分間 = 進ミシ距離  $26 \frac{2}{3} \text{ 軒} + 10 \frac{5}{6} \text{ 軒} = 37 \frac{1}{2} \text{ 軒}$

故 = 求ムル速サ  $37 \frac{1}{2} \div \frac{50}{60} = 45 \text{ 軒}$

答 45 軒

問 (2) 水桶アリ之ニ水ヲ入レテ定量ニ滿タシ、而シテ毎日其定量ノ  $\frac{3}{100}$  ヲ飲用ニ供シ、其後 20 日ヲ經テ其翌日ヨリ毎日定量ノ  $\frac{5}{100}$  ヲ注入シ、其後 25 日ヲ經テ注入ヲ止ムルトキハ其後幾日ニシ



テ水全ク盡クルカ、但シ水ハ繼續シテ使用セルモノトス。

〔解答〕 20日間飲用セシ残りハ  $1 - \left(\frac{3}{100} \times 20\right) = \frac{40}{100}$   
 次ノ25日間=桶=タマル水ハ  $\left(\frac{5}{100} - \frac{3}{100}\right) \times 25 = \frac{50}{100}$   
 注入ヲ止メシ時=桶=アル水ハ  $\frac{40}{100} + \frac{50}{100} = \frac{90}{100}$   
 其水ヲ使用シ終ル日數ハ  $\frac{90}{100} \div \frac{3}{100} = 30$   
 答 30日

問(3) 某數ニテ  $\frac{2}{3}$  ヲ除シタルモノト  $\frac{3}{4}$  ヲ除シタルモノトノ和ガ17ナリト云フ、其數如何。

〔解答〕 或數ニテ  $\frac{2}{3}$  ト  $\frac{3}{4}$  トヲ別々ニ除シタルモノ、和ハ  $\frac{2}{3}$  ト  $\frac{3}{4}$  トヲ加ヘ或數ニテ除シタルモノニ等シ  
 故ニ求ムル數ハ  $\left(\frac{2}{3} + \frac{3}{4}\right) \div 17 = \frac{17}{12} \times \frac{1}{17} = \frac{1}{12}$   
 答  $\frac{1}{12}$

問(4) 甲、乙二人拾錢銀貨ノミニテ等額ノ金ヲ所持ス、然ルニ甲若シ一品25錢5厘ノ品ヲ6品買ヘバ少シク不足シ、乙若シ28錢6厘ノ品ヲ5品買ヘバ少シク餘ルト云フ、甲、乙ノ所持額如何。

〔解答〕 25錢5厘ノ品6品ノ價ハ  $25.5 \text{錢} \times 6 = 153 \text{錢}$   
 28錢6厘ノ品5品ノ價ハ  $28.6 \text{錢} \times 5 = 143 \text{錢}$   
 故ニ2人ノ所持金ハ150錢ナリ  
 答 1圓50錢

## 代 數

問(5) 次ノ恒等式ヲ證セ。

$$(a^2 + b^2)(c^2 + d^2) = (ac + bd)^2 + (ad - bc)^2 \\ = (ac - bd)^2 + (ad + bc)^2$$

〔解答〕  $(a^2 + b^2)(c^2 + d^2) = a^2c^2 + b^2c^2 + a^2d^2 + b^2d^2$   
 $(ac + bd)^2 + (ad - bc)^2 = a^2c^2 + 2abcd + b^2d^2 + a^2d^2 - 2abcd + b^2c^2$   
 $= a^2c^2 + b^2c^2 + a^2d^2 + b^2d^2$   
 $(ac - bd)^2 + (ad + bc)^2 = a^2c^2 - 2abcd + b^2d^2 + a^2d^2 + 2abcd + b^2c^2$   
 $= a^2c^2 + b^2c^2 + a^2d^2 + b^2d^2$   
 $\therefore (a^2 + b^2)(c^2 + d^2) = (ac + bd)^2 + (ad - bc)^2$   
 $= (ac - bd)^2 + (ad + bc)^2$

問(6) 次ノ方程式ヲ  $x =$  ツキ解ケ。

$$\frac{x-b-c}{a} + \frac{x-c-a}{b} + \frac{x-a-b}{c} = 3$$

〔解答〕  $\frac{x-b-c}{a} + \frac{x-c-a}{b} + \frac{x-a-b}{c} = 3$

$abc$  ヲ兩邊ニ乗ジ分母ヲ拂フ

$$bcx - b^2c - bc^2 + acx - ac^2 - a^2c + abx - a^2b - ab^2 = 3abc$$

$$x(bc + ac + ab) = c(bc + ac + ab) + b(bc + ac + ab) + a(bc + ac + ab)$$

$$x(bc + ac + ab) = (a + b + c)(bc + ac + ab)$$

$$x = a + b + c$$

答  $a + b + c$

問(7)  $\frac{a}{b} = \frac{c}{d} = \frac{e}{f}$  ナルトキ  $\frac{2a+3c+4e}{2b+3d+4f}$

ナルコトヲ證セ。



〔解答〕  $\frac{a}{b} = \frac{c}{d} = \frac{e}{f}$   $\frac{a}{b} = \frac{2a}{2b}$   $\frac{c}{d} = \frac{3c}{3d}$   $\frac{e}{f} = \frac{4e}{4f}$   
 $\therefore \frac{2a}{2b} = \frac{3c}{3d} = \frac{4e}{4f}$   
 加比ノ理ニヨリ  $\frac{2a}{2b} = \frac{3c}{3d} = \frac{4e}{4f} = \frac{2a+3c+4e}{2b+3d+4f}$   
 $\therefore \frac{a}{b} = \frac{c}{d} = \frac{e}{f} = \frac{2a+3c+4e}{2b+3d+4f}$

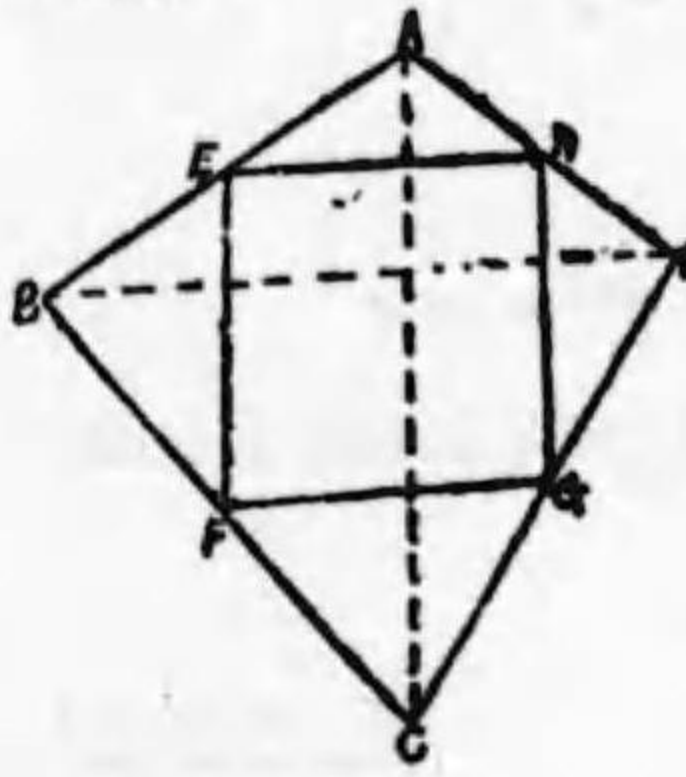
問(8)  $x^2=3x+5$  ナルトキ  $x^4=57x+70$  =  
 テ間違ナキカ。

〔解答〕  $x^2=3x+5$  ナルトキハ  
 $x^4=(3x+5)^2=9x^2+30x+25$  トナル  
 故ニ  $x^4=57x+70$  ハ誤リナリ

幾何

問(9) 四邊形ノ相隣レル邊ノ中點ヲ順次ニ結ビツクル直線ハ平行四邊形ヲナシ其ノ周圍ハ對角線ノ和ニ等シ。

〔解答〕 假設 E, F, G, H, ハ四邊形 ABCD ノ各邊ノ中點ナリトセヨ  
 終結 □EFGH ハ平行四邊形ナリ  
 又  $EF+FG+GH+HE=AC+BD$  ナリ  
 證明  $\triangle ABD$  = 於テ E, H, ハ二邊ノ中點ナリ

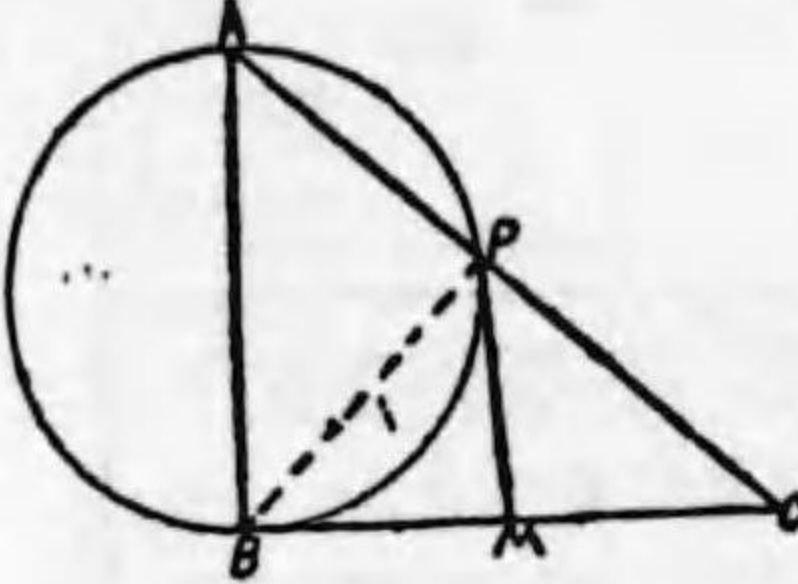


故ニ  $\left. \begin{array}{l} EH \parallel BD \text{ カツ } 2EH = BD \\ \triangle BCD = \text{於テモ同様ニ} \\ FG \parallel BD \text{ カツ } 2FG = BD \end{array} \right\} \text{ヨリ } \begin{array}{l} BD = EH + FG \\ EA \parallel FG \end{array}$

$\triangle ACD$  = 於テモ同様ニ  $\left. \begin{array}{l} GH \parallel AC \text{ カツ } 2GH = AC \\ \triangle ABC = \text{於テモ同様ニ} \\ EF \parallel AC \text{ カツ } 2EF = AC \end{array} \right\} \text{ヨリ } \begin{array}{l} AC = EF + GH \\ EF \parallel GH \end{array}$   
 故ニ □EFGH ハ平行四邊形  
 $EF+FG+GH+HE=AC+BD$  ナリ

問(10) 直角三角形ニ於テ直角ヲ夾ム邊ノ一ツヲ徑トシ圓ヲ畫ケバ此ノ圓ガ斜邊ト交ル所ノ點ニ於テ之ニ切スル直線ハ他ノ邊ヲ二等分ス。

〔解答〕 假設  $\triangle ABC$  ハ B ヲ直角頂トスル直角三角形トシ AB ヲ直徑トスル圓ノ周ガ斜邊 AC トノ交點ヲ P トシ P = 於ケル切線ガ BC ト交ハル點ヲ M トセヨ  
 終結  $BM=MC$



證明  $\angle APB$  ハ直角  $\therefore \angle BPC$  モ直角ナリ  
 $BM=PM$  .....(I)  
 $\angle BPM = \angle BAP$   $\angle BAP + \angle PCB = R\angle$   
 $\angle BPM + \angle CPM = R\angle$   
 故ニ  $\angle PCM = \angle CPM \therefore PM=CM$  .....(I)  
 (I) (I) ヨリ  $BM=CM$



—<名古屋運輸事務所>—

高等小學校卒業生に対する分

注意 (1) 算術若シクハ代數何レノ方法ニヨルモ差支ナシ。  
(2) 各題共式運算答ヲ明瞭ニ書キ置クコト。

問(1)  $1\frac{5}{9} \div 2\frac{1}{6} \times \frac{3}{7} + (\frac{5}{13} + \frac{8}{13} - 1) \times 9$ ヲ  
計算セヨ。

〔解答〕  $1\frac{5}{9} \div 2\frac{1}{6} \times \frac{3}{7} + (\frac{5}{13} + \frac{8}{13} - 1) \times 9$   
 $= \frac{14}{9} \times \frac{6}{13} \times \frac{3}{7} + (\frac{13}{13} - 1) \times 9 = \frac{4}{13} + 0 = \frac{4}{13}$   
答  $\frac{4}{13}$

問(2) 定價の2割引に賣るも尙2割の儲があるや  
うにするには定價を原價の幾割増にすべきか。

〔解答〕 原價ヲ1トスレバ賣價ハ1.2之ガ定價ノ8割ニ當レバ  
ヨイ。 故定價  $1.2 \div (1 - 0.2) = 1.5$  答 5割増

問(3) 55里は216 kmである。1方里を平方キロ  
メートルの帶分數でいへ、又帶小數でいへ。

〔解答〕  $1\text{里} = \frac{216}{55}\text{km}$   $1\text{方里} = \frac{216 \times 216}{55 \times 55}$  方キロメートル  
 $15\frac{1281}{3025}$  平方キロメートル = 15.423 平方キロメートル(強)  
答  $\left\{ \begin{array}{l} 15\frac{1281}{3025} \text{平方キロメートル} \\ 15.423 \text{平方キロメートル(強)} \end{array} \right.$

問(4) 或池を甲は毎時 $\frac{1}{12}$ 周し、乙は毎時1週す  
甲が出發してより3時間の後乙が之を追ふ時は幾  
時間にて追ひつき得るか。

〔解答〕 乙ノ速ヲ毎時1トスレバ 甲ハ毎時 $\frac{1}{12}$   
乙ガ甲ニ追ヒツクニ要スル時間  
 $(\frac{1}{12} \times 3) \div (1 - \frac{1}{12}) = \frac{3}{11}$   
答  $\frac{3}{11}$ 時

尋常小學校卒業生に対する分

注意 (1) 算術若シクハ代數何レノ方法ニヨルモ差支ナシ。  
(2) 各題共式運算答各々ヲ明瞭ニ書キ置クコト。

問(1) 2里3町18間2尺を尺に直せ。

〔解答〕 

2里	3町	18間	2尺
× 36	汽 72	+ 4500	+ 27108
72	75	4518	27110
	× 60	× 6	
	4500	27108	答 27110尺

問(2) 鐵道省汽車三等乗車賃ハ1 kmにつき  
(80 km までは).....1錢5厘6毛  
(81 km—160 km).....1錢3厘1毛  
(161 km—320 km).....1錢 6毛  
(321 km—480 km)..... 8厘7毛  
(481 km—640 km)..... 7厘5毛  
但シ1 km 未滿の端下は1 kmに總額の1錢未滿は  
1錢に切り上げて計算し、全距離3 km 未滿の分



は5銭に切上げる、下の区間の三等乗車賃は幾らか。

東京—山田間……………495.1 km

〔解答〕 80 km	ノ賃錢	1.56錢×80=124.8錢
次 180 km	ノ賃錢	1.31錢×80=104.8錢
次 160 km	ノ賃錢	1.06錢×160=169.6錢
次 160 km	ノ賃錢	0.87錢×160=139.2錢
次 16 km	ノ賃錢	0.75錢×16=12.0錢
496 km		550.4錢

答 551 錢

問(3)  $2x^2 - 7x + 3 = 0$  を解け。

〔解答〕  $2x^2 - 7x + 3 = 0$

$$(2x-1)(x-3) = 0$$

$$2x-1=0 \text{ トスレバ } 2x=1 \quad x=\frac{1}{2}$$

$$x-3=0 \text{ トスレバ } x=3 \quad \text{答 } x=\frac{1}{2} \text{ or } 3$$

問(4) 昨日の午後6時に正しく合せて置いた時計を今日の正午に見ると4分半遅れてゐた。明日の午前8時に家を出るにはこの時計の何時何分に出るべきか。

〔解答〕 昨日ノ午後六時カラ今日ノ正午マデハ 18 時間

今日ノ正午カラ明日ノ午前8時マデハ 20 時間

$$18\text{時} : 38\text{時} = 4.5\text{分} : x \quad x = \frac{38 \times 4.5}{180} = 9\frac{1}{2}$$

$$8\text{時} - 9\frac{1}{2}\text{分} = 7\text{時}50\frac{1}{2}\text{分} \quad \text{答 } 7\text{時}50\text{分}30\text{秒}$$

—◁甲府運輸事務所▷—

(昭和8年4月16日施行)

小學校卒業者に對する分(一時間)

次ノ問題ノ内任意ノ五題ヲ選ンデ答ヘナサイ。

問(1) 次ノ式ヲ計算セヨ

$$\left(3\frac{5}{6} - 2.4 + 1\frac{7}{15}\right) \div 1\frac{14}{15}$$

〔解答〕  $\left(3\frac{5}{6} - 2.4 + 1\frac{7}{15}\right) \div 1\frac{14}{15}$

$$= \left(3\frac{5}{6} - 2\frac{2}{5} + 1\frac{7}{15}\right) \div \frac{29}{15}$$

$$= \left(3\frac{25}{30} - 2\frac{12}{30} + 1\frac{14}{30}\right) \times \frac{15}{29}$$

$$= 2\frac{27}{30} \times \frac{15}{29} = \frac{87}{30} \times \frac{15}{29} = 1\frac{1}{2}$$

答  $1\frac{1}{2}$

問(2) 次ノ式ヲ計算セヨ

$$\left(8\frac{1}{3} + 0.75\right) \times \frac{4}{9} \div 8$$

〔解答〕  $\left(8\frac{1}{3} + 0.75\right) \times \frac{4}{9} \div 8 = \left(\frac{25}{3} + \frac{3}{4}\right) \times \frac{4}{9} \div 8$

$$= \left(\frac{100}{12} + \frac{9}{12}\right) \times \frac{4}{9} \div 8 = \frac{109}{12} \times \frac{4}{9} \times \frac{1}{8} = \frac{109}{216}$$

答  $\frac{109}{216}$

問(3) 1秒=90米飛ブ燕ト1時間=75軒走ル汽車トノ速サノ比ヲ求メヨ。



〔解答〕 燕ノ1時ノ速サ  $90\text{米} \times 60 \times 60 = 324000\text{米}$   
 燕ト汽車トノ速サノ比  $324 : 75 = 108 : 25$   
 答 108 : 25

問(4) 金100圓ヲ甲乙二人ニ分ケルニ甲ノ取分ノ3倍ト乙ノ取分ノ2倍トガ等シイ様ニスルニハ各幾ラ宛ニスレバヨイカ。

〔解答〕 甲乙取分ノ比ハ2 : 3デアル

$$\text{甲ノ取分ハ} \quad 100\text{圓} \times \frac{2}{5} = 40\text{圓}$$

$$\text{乙ノ取分ハ} \quad 100\text{圓} \times \frac{3}{5} = 60\text{圓}$$

答 甲40圓 乙60圓

問(5) 普通電報料金ハ初メノ15字マデガ30錢デソレカラ5字ヲ増ス毎ニ5錢ツ、追加シナケレバナラヌ。今次ノ様ナ電報ヲ打ツトキハ幾ラ拂ヘバヨイカ。  
 ケフゴゴ九ジハンブジツイタタカギ

〔解答〕 字数16字濁點ハ一字ニ數ヘルカラ合計22字ノ電文デア  
 アル

$$22\text{字} - 15\text{字} = 7\text{字}$$

$$\text{初メノ15字ニツキ} \quad 30\text{錢}$$

$$\text{次ノ5字ニツキ} \quad 5\text{錢}$$

$$\text{次ノ2字ニツキ} \quad 5\text{錢}$$

$$\text{計} \quad 40\text{錢}$$

答 40錢

問(6) 容積24立方糎ノボール箱ヲ作ルノニ底ノ大サヲ縦4糎横3糎トシタイ時ノ展開圖ヲ畫イテソレニ必要ナ寸法ヲ書キ込ミナサイ。

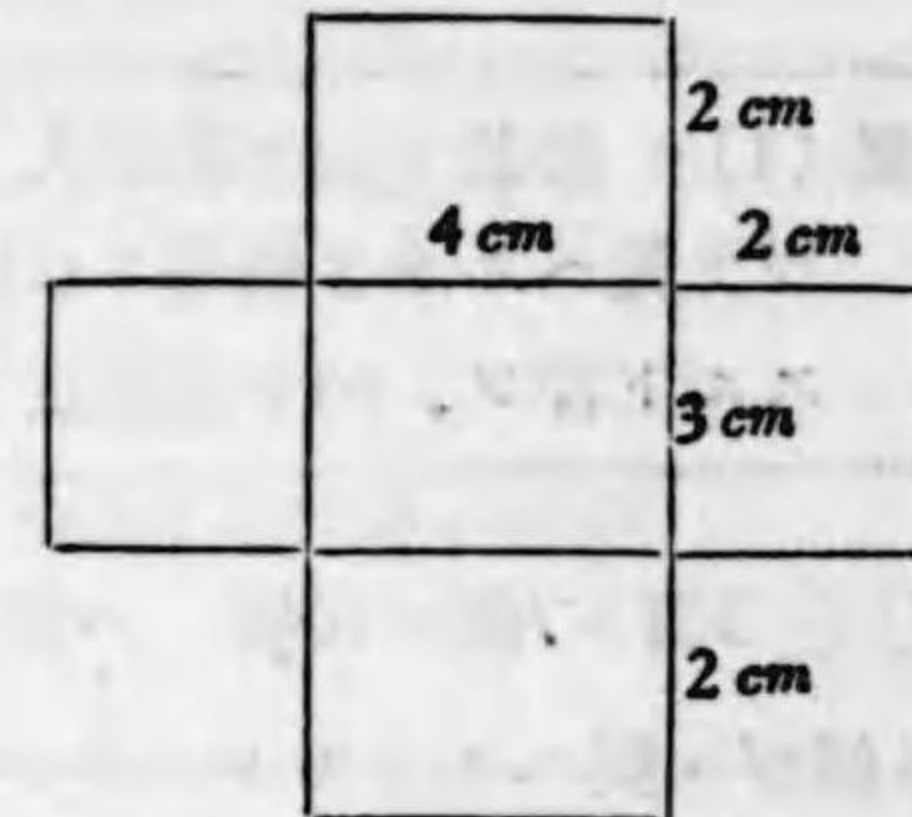
〔解答〕

底面積

$$4 \times 3 = 12 \text{ (平方糎)}$$

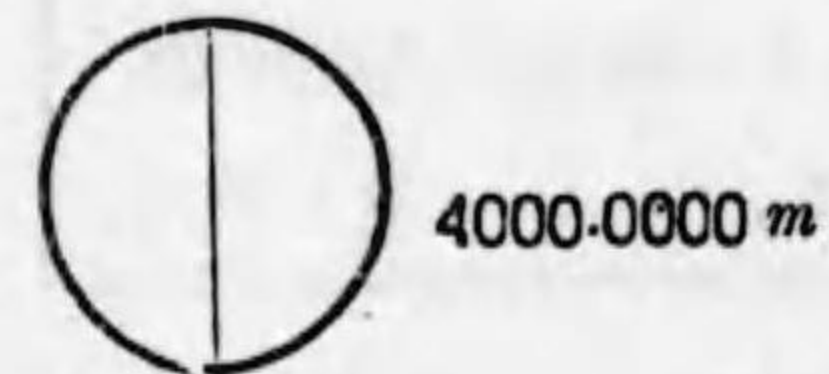
高サ

$$24 \div 12 = 2 \text{ (糎)}$$



問(7) 1米ノ長サハ地球ノ子午線ノ4000萬分ノ1デア  
 ル。地球ノ半徑ハ何米カ。圓周率ハ3.14トシ小數點以下ハ切捨トスル。

〔解答〕



子午線ノ長サ40000000米ハ半圓周ニ當ル

$$\text{半徑ハ} \quad 40000000\text{米} \div 3.14 = 12738821\text{米}$$

答 12738821米



## —◁ 教賀運輸事務所 ▷—

## 小學校卒業者に對する分

問(1) 柿若干個ヲ若干人ノ子供ニ分配スルニ5個  
ヅツ與ヘルト3個残り6個ヅ、與ヘルト7個不足  
スルト言フ、柿ノ總數及子供ノ人數ハ幾ラカ。

〔解答〕 3個+7個=10個 ハ同じ人數ニ5個ヅ、與ヘルトキ  
ト6個ヅ、與ヘルトキトノ差デアルカラ

子供ノ數ハ  $(3+7) \div (6-5) = 10$

柿ノ數  $10 \times 5 + 3 = 53$

答 子供ノ數10人 柿ノ數53個

問(2) 池ノ中ニ竿ヲ入レタ、始メ其ノ長サノ $\frac{2}{3}$   
ヲ入レ次ニ残りノ $\frac{5}{8}$ ヲ入レタラ濡レナイ所ガ0.6  
米アツタ。竿ノ長サハ何米カ。

〔解答〕 1回目ニ入レタ長サハ全體ノ $\frac{2}{3}$

2回目ニ入レタ長サハ全體ノ  $(1 - \frac{2}{3}) \times \frac{5}{8} = \frac{5}{24}$

濡レナイ所ノ長サハ  $\frac{1}{3} - \frac{5}{24} = \frac{1}{8}$

故ニ竿ノ長サ  $0.6 \text{米} \div \frac{1}{8} = 4.8 \text{米}$

答 4.8米

問(3) 甲ハ2圓78錢乙ハ1圓7錢ヲ持ツテキタ  
ガ兩人共或ル同ジ雑誌ヲ1冊宛買ツタタメ甲ノ殘  
金ハ乙ノ殘金ノ4倍トナツト言フ。此ノ雑誌  
1冊ノ價ハ幾ラカ。

〔解答〕 兩人所持金ノ差  $2圓78錢 - 1圓7錢 = 1圓71錢$   
(之ハ本ヲ買ツタ後モ同ジ)

乙ノ殘金  $171錢 \div (4-1) = 57錢$

雑誌ノ代  $107錢 - 57錢 = 50錢$

答 50錢

問(4) 鐵道線路ノ傍ニ立ツテ進行シテ來ル列車ヲ  
見テ居タラ5秒間ニ我ガ面前ヲ通過シタ。而シテ  
30秒ノ間ニ275米ノ鐵橋ヲ全ク通過シ終ツタト  
云フ。此列車ノ長サハ幾米デアルカ。

〔解答〕 此列車ハ275米ヲ進ムニ  $30秒 - 5秒 = 25秒$ ヲ要ス  
ルカラ

列車毎秒ノ速サハ  $275 \text{米} \div 25 = 11 \text{米}$

列車ノ長サハ  $11 \text{米} \times 5 = 55 \text{米}$

答 55米

問(5) 甲乙丙ノ3門ノ大砲カラ各11發ヲ發射ス  
ルニ甲ハ1分毎ニ乙ハ2分毎ニ丙ハ3分毎ニ各1  
發ヲ發射スルト云フ。今最初ニ3門ガ同時ニ發射  
スルトキハ最後マデニ何回砲聲ヲ聞キ分ケ得ルカ。

〔解答〕 最初10分間ニ甲ハ11發其ノ間ニ丙乙ノ砲聲ハ總テ重  
ナル故ニ聞キ得ル數ハ11發デアル。



次ノ10分間ハ乙丙ノミトナル。乙ハ5發 丙ハ3發ノ内12秒ト18秒トニハ2門同時ニナルカラ聞キ得ル數ハ6發デア  
ル。

次ノ10分即チ20分カラ30分マデハ丙ダケトナリ其間ノ3ノ倍數ナル時21分、24分、27分、30分ノ4回ヲ聞キ得ル。

合計 11+6+4=21回 ヲ聞ク

答 21回

(●考) 此ノ問題ハ圖表ニヨルガ最も簡明デアルト思フ。

	5	10	15	20	25	30
分	・	・	・	・	・	・
甲	.....					
乙	.....	.....				
丙	.....	.....	.....			

上ノ圖テ其數ヲ數ヘレバ答21回ハ明カデア

# 國 語 作 文 之 部

## —<名古屋鐵道局>—

名鐵管内中等程度卒業生問題  
各運輸事務所共通

### 中等學校卒業生に對する分 (一時間)

問 (1) 左の文中漢字には傍に讀假名を附け抽出の字句に註解を加へたる上更に全文を平易なる國語にて解釋せよ。

紳士たる者は、容儀端正にして、威嚴あり、堅忍剛毅、逆境に處して晏如たり、其心、光風霽月の如く、人に對して城府を設けず、赤心を人の腹中に措く。蓋し、禮讓は、自主自重なる人の、必ず拂はざるべからざる債務なり。

容儀端正。 堅忍剛毅。 光風霽月。  
城府を設けず。 債務。 全文解釋。

[解答] (讀假名) 紳士たる者は、容儀端正にして、威嚴あり、堅忍剛毅、逆境に處して晏如たり、其心、光風霽月の如く、人に對して城府を設けず、赤心を人の腹中に措く。蓋し、禮讓は、自主自重なる人の、必ず拂はざるべからざる債務なり。

(註解) 容儀端正——なりふりの正しきこと。(容儀とは禮儀のある様子ぶり。式や作法に適ふ身のこなしである。端正は何れも正しきこと。)



堅忍剛毅——何事にもよく堪へ忍んで、心がかたく強きこと。

(剛毅とは意志が確乎で物事におぢひるまないことである。)

光風霽月——胸中に一の煩悶苦痛なく、洒落快活な有様で、高明な貌。或は天性がサツパリとして、胸中の清らかなるにもいふ。(麗かな風や雨後の月の義である。)

城府を設けず——心の中に區劃を置かないとの義。たて隔てをしないこと。(即ち心中に區劃を設けたり、他人にたて隔てをしないこと。)

債務——金銭などの負債を返済すべき責任又は義務。(負債者を債務者といふので分る。)

(全文解釋) 學徳共に具はり、禮儀にも缺けない紳士と呼ばれる者の必要條件は、そのなりふりがキチンと正しきが上に、犯すべからざるいかめしくおごそかな所があり、何事にも忍耐強く、其の意志は確固不拔で、縱令不幸な境遇に立つても、常に落ちついて安らかで居り得られ、其の心は宛然麗かな風や雨後の月といった様に高明で、煩悶苦痛なくサツパリとして清く、他人に對した場合も、打ちとけて何等隔てを置かずに、眞心を以て交際すべきである。想ふに人と交るに禮儀正しくして人にへりくだるといふことは、獨立心はあり、自尊心のある人が、脊負うた債務を支拂ふやうに、是非とも盡さなければならぬ義務なのだ。

問(2) 次の語に讀假名を附け解釋せよ。

輪廻。 忽緒。 浩瀚。 精采。 輦轂の下。

【解答】 (讀假名・解釋) 輪廻リンネ(リンエ)——因果應報の廻り廻つて窮り

なきこと。因果應報の廻ることが、恰も車輪の廻轉するが如くであるからである。(生死・應報等が移り行きて、又もとに戻るさま。リンエをリンネと發音する。)

忽緒コツシュ——斯る熟語は無い。緒は諸の誤植。忽諸正し。滅び盡くるさま。消滅するさま。なほざりにすることに用ふ。(併し、忽略のナホザリの意に取るは誤りとの説もあるが、現在「忽緒=附ス」と用ふるは同義とのこと。緒は意味の無い助辭である。)

浩瀚カウカン——浩瀚カウカンに同じ。廣大なさま。書物の巻数の多いことにいふ。大冊・大部の義。浩は大なり廣きなりとある。瀚亦廣く大きいさまとある。

精采セイサイ——精彩に同じ。ひかり。いきいきした氣象。活氣ある精神。(色どりなどの義はない。)

輦轂リンコクの下——輦下・轂下に同じ。天子の御膝もと。都の中のこと。京師。(輦轂とは天子の御乘輿。故に天子在ます都の義。)

### 乙種中等學校卒業者に對する分(一時間)

問(1) 左の文中漢字には傍に讀假名を附け抽出の字句に註解を加へたる上更に全文を平易なる國語にて解釋せよ。

梅に取るべきは其の香、奇古なる其の幹。花の色は、白きを尙ぶ。赤きは俗なり。一園内に行儀正しく列植するは、折角の梅花を俗了す。竹外籬畔、臥龍の影を清淺の水に横へ、黄昏一片の月を添へて、暗香四野を浮動す。

奇古。俗了。竹外籬畔。黄昏。暗香。 全文解釋。



〔解答〕（讀假名）梅に取るべきは其の香、奇古なる其の幹、花の色は、白きを尙ぶ。赤きは俗なり。一園内に行儀正しく列植するは、折角の梅花を俗了す。竹外籬畔、臥龍の影を清淺の水に横へ。黄昏一片の月を添へて、暗香四野を浮動す。

（備考）香はカワリ又はニホヒでもよい。尙はタツトブでもよい。臥龍はグワリユウでもよい。黄昏はタソガレでもよいが、次の一片の香讀に對して、クワウコンと香讀すべきである。

（註解）奇古——平凡でなく古るめかしい趣きのあること。奇拔で古るめかしいこと。珍らしく趣きある位々の意。

俗了——全く平凡のものとなつてしまふ。つまらぬものになつてしまふ。俗化してしまふ。

竹外籬畔——竹藪の外や垣根のほり。籬はマガキ即ちカキネ。

黄昏——タソガレと訓ず。夕暮のこと。夕方のこと。誰レ彼レハ又は彼レハ誰レの義。夕暮れはボンヤリして、彼れが誰れなるか、見分け難き故である。彼レハ誰レ即ちカハタレドキとも、夕暮をいふこともあるが、是は専ら未明のことに用ふ。

暗香——どこからともなく匂つて来るかをり。（茲の臥龍の影から最後の四野に浮動すまでは、宋の林逋の山園小梅の詩の句、「疎影横斜水清淺。暗香浮動月黄昏」に基づく。）

（全文解釋）梅に花としての取るに足るべき點は、何かといふと、それはその言ふに言はれぬよい香と、珍らしく趣きのある幹を持つて居ることとである。梅には紅梅と白梅とがあるが、中でも花の色は白いのを、此の上もないものとして珍重がる。赤いのは俗でつまらない。一つの園内に行儀正しく、列を亂さ

ずに植ゑてあるのは、わざわざ綺麗に咲く梅の花を、全く平凡なものにしてしまふ。竹藪の外や垣根近くに、宛然臥した龍の様な奇古な姿を、淺くても清い其の下の水に横たへ映し、夕暮には其の趣きの上に更に、一片の月までも付け添へて、何處からともなく匂つて来るかをりが、四方の野原にあちこちと深うてゐる。（得も言はれない程よい。）

問(2) 次の語に讀假名を付け解釋せよ。

嗚咽。 普請。 矛盾。 涉獵。 會稽の耻。

〔解答〕（讀假名・解釋）嗚咽——泣きむせぶこと。涙にむせぶこと。むせび悲しむこと。

普請——建築・作事・土木の工事のこと。（もと佛語で、僧家で普く諸人に寄附を請うて、佛寺を建立した義から轉じたのだ。）

矛盾——言ふことが前後相違すること。言ふことのつじつまのあはぬこと。自家撞著に同じ。（昔、楚人が自己の賣る矛と盾とを自慢して、「我が此の楯は、如何な鋭利な武器でも、突通することが出来ない」と言つた口で、「我が此の矛は如何な堅い楯でも突通せる」と呼ばはつたので、傍の人が「汝の矛で汝の楯を突いたら如何」と尋ねたら、グウの音も出なかつたとの故事に出づ。）

涉獵——川をわたり、獸をあさるやうに、あちらこちらとさぐり歩くこと。轉じて、博く羣書に目を通すこと。（書言故事に「博覽ヲ涉獵トイフ。」とある。）



會稽の耻——敗戦の不名誉。戦敗の耻辱。(越王勾踐が吳王夫差に負け、勢盡きて、會稽山で屈辱的媾和を結んだのを指す。後十年にして夫差を敗つて、此の耻を雪いだ。是を「會稽の耻を雪ぐ」といふ。)

### —〈名古屋運輸事務所〉—

#### 高等小學校卒業者に對する分

問(1) 次の文章中片假名を漢字にて書け。  
日本人はレイジャウの心が厚く坐作進退のレイギ作法はソナハつてゐるが一般公衆に對するコウトクシンは尙甚だヨウチなやうである。

〔解答〕 日本人は禮讓の心が厚く坐作進退の禮儀作法は備(具)はつてゐるが一般公衆に對する公德心は尙甚だ幼稚なやうである。

(備考) ソナハつてはソナはつてとあるべく。幼稚はエウチである。

問(2) 次の語句に右方に讀方下方に解釋を書け。  
(1) 行住坐臥。 (2) 衆生濟度。 (3) 絡繹。  
(4) 竹帛に垂る。 (5) 羊頭狗肉。

〔解答〕 (讀方・解釋) (1) 行住坐臥——行儀ふるまひにいふ。日々の行爲。行くととどまると、すはるとねるとのこと。  
(2) 衆生濟度——御佛が衆生、即ち一切の生物を迷ひの中から救つて、苦を免れしむるにいふ。衆生を濟度して解脱を得しむること。

- (3) 絡繹——駱駝に同じ。往來の絶えぬさま。往來の續くさま。往來の頻繁なるさま。人馬などの通行が相連つて、絶えないさま。  
(4) 竹帛に垂る——史上に功名を書き寄せられること。(竹帛とは實は書物のことである。竹は竹簡、帛は繪絹で、古は紙がなく、竹帛に書いたのに起る。茲は歴史。)  
(5) 羊頭狗肉——外見は立派に見せて、實際は卑劣なことをするにいふ。立派さうに見せかけて、卑劣な事をする事。  
(羊の頭を看板に出して、犬の肉を賣る義。——「羊頭を懸けて狗肉を賣る」の語もある。)

問(3) 次の語句中誤あらば之を左方に訂正せよ。  
國民が其の國語を尙ぶ事は一種の美德にして偉大なる國民は必ず其の自國語を尊び情の上より之を愛し理倫の上より其の保護統一に縦事し持つて國民の愛國心を養生せんことを務む。

〔解答〕 國民が其の國語を尙ぶ事は一種の美德にして偉大なる國民は必ず其の自國語を尊び情の上より之を愛し理倫の上より其の保護統一に縦事し持つて國民の愛國心を養生せんことを務む。  
(尊) (情) (論) (成) (に)  
(力) (べきなり)。

(備考) 尙ぶは此の上なきものとして、重んずるの意があるから、それでも意は通ずるが、再び同様の意の所に、尙ぶが有るから矢張り尙を尊敬の意にした方が宜しい。  
倫はリンでロンではないから論とする。  
縦はタテでシタガフでないから従にかへる。



持はモツで以とは意味が異なるから、接續の以にかへる。  
 養生はヤウジャウでヤウセイではない。ことをよりはことにとあるべきだ。  
 務はセイヲダス意はあるが、それは仕事としてであつて、強ひて爲す意はない。力か勢にすべきである。最後は「べきなり」とあるべきであらう。

問(4) 次の語句を集めて文章とせよ。

天下千百の、易けれども、得るは、一人の知己、朋友を得るは、を、難し。

〔解答〕<sup>(1)</sup>天下千百の、<sup>(3)</sup>易けれども、<sup>(6)</sup>得るは、<sup>(4)</sup>一人の知己、<sup>(2)</sup>朋友を得るは、<sup>(5)</sup>を、<sup>(7)</sup>難し。  
<sup>(1)</sup>天下千百の<sup>(2)</sup>朋友を得るは<sup>(3)</sup>易けれども、<sup>(4)</sup>一人の知己<sup>(5)(6)</sup>を得るは<sup>(7)</sup>難し。

### 尋常小學校卒業者に對する分

問(1) 次の文章中片假名を漢字にて書け。

前途にキボウを有して人生をヒカンせず不幸にソウグウするもラクタンすることなく必ず新進路を求めて運命のテングワイを圖る。

〔解答〕 前途に希望を有して人生を悲觀せず不幸に遭遇するも落膽することなく必ず新進路を求めて運命の轉回を圖る。

(備考) 希望はキバウ。悲觀はヒクワン。遭遇はサウグウが正しい。テングワイは轉回と思ふが、轉回(てんくわい)はメグリマハスとか、メグリマハルとかの意で、茲は寧ろウツシカヘルの、轉換の方がよいのではないか知ら。

問(2) 次の語句に右方に讀方下方に解釋を書け。

- (1) 狼狽。 (2) 憎惡怨恨。 (3) 乞食。  
 (4) 非凡。 (5) 郎黨。 (6) 直垂。

〔解答〕 (讀方・解釋) (1) 狼狽——あわてうろたへること。

周章に同じ。周章狼狽と熟す。(諸説はあるが、狼は後足短く、狽は前足短く、兩獸相倚つて行き、離るればウロタヘルといふからである。)

(2) 憎惡怨恨——にくみうらむこと。にくんだりうらんだりすること。(惡はニクムの時音がヲで、ワルシの場合はアクである。怨恨は何れもウラムであるが、恨は怨よりも重い。)

(3) 乞食——こじきのこと。ものもらひのこと。ほいと・かたゐともいふ。食を乞ひ歩くからである。乞丐に同じ。

(4) 非凡——すぐれてゐること。つねなみはづれたこと。なみなみでないこと。平凡の反である。

(5) 郎黨——郎等・郎從に同じ。武家の家來にいふ。黨も等も必ず濁つて、ダウ又はドウと讀む。(多く家子・郎黨と熟する場合が多い。家子も家來であるが、分家・一門で家來となつた者である。郎黨の方は身内の者ではない。漢字引には往々濁らずにラウタウ又はラウトウとある。注意ありたし。)

(6) 直垂——昔の服裝の名。初めは庶人の常服であつたが、後には武家の禮服となつた。(方領で無紋・菊綴・胸紐・袖括がある。袴は裸に及び、後には長袴をも用ふ。)



問(3) 次の語句中誤あらば之を訂正せよ。

- (1) 恐らく彼が第一番なり。  
(2) 豈に他人の力を借らん。

〔解答〕 (正誤) (1) 恐らくは彼が第一番なるべし。(或は一番ならむ。)

(2) 豈他人の力を借らんや。(■者) 豈にのにはない方がよい。

問(4) 次の語句を集めて文章とせよ。

どんなに、よく整頓してゐる中で、こんなに、  
氣持が、勉強したら、よいだろう。

〔解答〕 <sup>(4)</sup>どんなに、<sup>(3)</sup>よく整頓してゐる中で、<sup>(1)</sup>こんなに、

<sup>(5)</sup>氣持が、<sup>(8)</sup>勉強したら、<sup>(6)</sup>よいだろう。

<sup>(1)</sup>こんなによく整頓してゐる中で勉強したら、<sup>(4)</sup>こんなに氣持が

<sup>(6)</sup>よいだろう。

(■者) よいだろうは、よいだらうの誤りである。

—◁甲府運輸事務所▷—

(昭和8年4月16日施行)

小學校卒業者に對する分 (一時間)

問(1) 左ノ文中漢字=讀假名ヲ附シ且——線ノ解釋ヲナセ。

<sup>(1)</sup>山紫に水明らかなる處、唯夢の如く現の如く、三條を渡り四條を渡ること日に幾度ぞ。<sup>(2)</sup>つつじを柴

に折添へて、<sup>(3)</sup>戴き連れたる大原女も、何時しか我が友となれり。如意嶽より吹來る春風は、軽く我が<sup>(4)</sup>袖を拂ひ又堤の柳を吹く。

(解釋) (1) (2)  
(3) (4)

〔解答〕 (讀假名) 山紫に水明らかなる處、唯夢の如く現の如く、三條を渡り四條を渡ること日に幾度ぞ。つつじに柴を折添へて、戴き連れたる大原女も、何時しか我が友となれり。如意嶽より吹來る春風は、軽く我が袖を拂ひ又堤の柳を吹く。

(傍線解釋) (1) 山紫に水明らかなる處——山の色は紫色に見渡され、水は飽まで澄んでいよいよさわやかな場所との意。京都賀茂川畔の情趣を手短に言つたもの。頼山陽が居住して「山紫水明處」と稱した邊だからである。

(2) つつじを柴に折添へて——紅に染めなした脚躑を折つて、賣物の柴の束に差し添へてをる。(風情あれと折添へた譯ではないが、花が花、人が人、場所が場所故、言ひ知らぬ風情があると作者が見たから、而か言つたのだ。柴とは重に切り下した樹枝の、まだ葉の附いたのを言ふが、茲は枯れて葉の落ちた粗柴を指す。焚附としては殊に宜しい。)

(3) 大原女——京都附近大原の里から出で來る女。頭上に薪・柴・花等を戴いて、「黒木召せ……、……花召せ……」と賣り歩く者。

(4) 袖を拂ひ——春風が袖を吹き動かして。春風が袖をひるがへして。



(備考) 文章は少し異なるが、昭和七年度、122頁の大阪運輸事務所出題、小學校卒業者に對する分を参照のこと。大原は必ずオハラ。

問(2) 左ノ文字=讀方ヲ附セ。

讀經。 筏。 書肆。 麥稈。 金箭。  
朧月。 山椒。 高砂。 沛然。 闊大。

〔解答〕 (讀方) 讀經。 筏。 書肆。 麥稈。 金箭。  
朧月。 山椒。 高砂。 沛然。 闊大。

(備考) 讀經はドクキヤウと讀まぬこと。讀經・看經とも熟す。  
麥稈はムギガラとも訓む。音ではバクカンと讀んでも宜しい。

問(3) 左ノ文中片假名ヲ漢字ニ改メヨ。

- (A) エンダイのシバウを抱きてヨクカンクと戦ひ  
シユウキョクの勝利をキタイしてジキヤウ ヤ  
むとこなし。  
(B) 我がタンユウを示さんとして みだりにキケ  
ン恐るるに足らずといふものはひとり自らココ  
ロヨしとするもシキシヤの笑をマヌガレずキケ  
ンをアナドるものは眞の勇者にあらず。

〔解答〕 (A) 遠大の志望を抱きて能く艱苦と戦ひ終局の勝利  
を期待して自彊息むことなし。

(B) 我が膽勇を示さんとして みだりに危険恐るるに足らずと  
いふものは獨り自ら快しとするも識者の笑を免れず危険を侮  
るものは眞の勇者にあらず。

(備考) (A) ヨクは善くでもよささうであるが、善くはウマくとか  
上手にの意故、宜しくない。出来るの能くがよい。「艱苦と戦ふこ  
とが出来て」の意。 (B) のひとりを一入としてはならない。

## 綴 方

### 小學校卒業者に對する分

#### (題) 我が希望

今や世は非常時の聲に埋もれてゐる。右を見ても左を向いて  
も、發せらるる聲は皆是れである。そして世は一日一日と世智  
辛くなつて行く。何が世をしかくさせたか。言ふまでもなく著  
しい世の文明進歩が、其の裏面に於て恐ろしい生存競争を、劇  
甚に演ぜしむるからであつて、彼の滿洲・上海事變以來、聯盟  
の嫉視を買ひ、遂に脱退後甚大の壓迫となるや、我が國は政治  
的にも、經濟的にも、あらゆる方面に互つて、所謂「孤立無  
援」となり、上述の非常時局に遭遇してゐるのである。

此の間に在つて將來の目的を立て、方針を定めることは、全  
く容易なことでない。一步を誤つたら、自己だけではない、延  
いては國家の爲めにも、一大損失を招くに至るであらう。平時  
に於ての自己なら、取るにも足らぬ人間に過ぎないのだが、此  
の非常時に於ては、是れでも用ひ處によつては、打ち捨て置か  
れぬ男一匹なのだ。併し世の多くは眼前の生活の爲めに、自己  
の學力・才能の適・不適をも熟慮する所なく、此際教育家が比  
較的生活にも心配がなさうだから、師範學校の試験を受けよ  
うとか、何學校は卒業後月給がよいからそれにしようなどと、  
迷うて見たり極めて見たりして、確と決定し兼ねたりしてゐる  
様だが、自己の本當の目的に副はない方面に、已むなく方向轉  
換をやらさうものなら、遂には飛んでもないことに立ち至る



かも知れない。

何と言つても自己の目的は、自己が定めなくてはならない。已むを得ない場合の外、他人の容喙に左右せらるべきではないと思ふ。前述の通り自己の學力なり才能なり、或は趣味なり體格等の點から考へ、眼前の世の有様をも考慮に入れて、將來を過ることのないやうにしなくてはならない。諺にも「好きこそ物の上手なれ」とか、「下手の横好き」といふのがある通り、僕はどういふものか、子供の時から機械類をいぢくり廻すことが、三度の飯より好きである。よく玩具の汽車などを買つて貰つては、汽車ごつとしてを、興が<sup>ま</sup>つたことが、習<sup>なら</sup>ひ、性となつたのであらう。

随つて僕は平素から鐵道方面に奉職して、自己を磨き上げて見たいとの切なる念があつたのだが、何分にも家計に恵まれな<sup>い</sup>爲めに、友人等の様に十分の教育を受け得られないので、學力はなし、才能とてもお話にならず、希望は火となつて燃えても、目的への近路は見出すに由なく、苦しみ喘いでゐた矢先き、幸にも自己の日頃の趣味と、壯健な體格と恩師のお勧めとが、僕を驅つて此の試験場に臨み、此の文章に筆を走らせつつある次第である。

併し生存競争は茲にも劇しい。所謂「強食弱肉」なのだ。右を見ても左を向いても、前にも後にも出来さうな顔ばかりだ。學力・才能の不十分な僕の如きは、不合格には極つてゐるかも知れない。だが此の非常時に、自己だけの微力を國家に捧げようとの心は、何人にも劣るものでない。斯うと極めた男一匹ぢやないか、石にかぢりついても、希望を達しなくてはならな

い。二度三度失敗しようが儘である。「石に立つ矢」の試もあるのだから。 「終」

### —◁教員運輸事務所▷—

#### 小學校卒業者に對する分（四十分）

問(1) 左の文を解釋せよ。

至誠の極、或は輕率の舉動に出で、大事を誤る同胞なきを必せずと雖も、身を殺して仁を成すに於て極めて敏速に、死して悔なきもの、日本人の如きは世界國民中多くあらざる所なり。

〔解答〕（解釋）至極純粹なる真心の迸り出でた結果として、そんなことは無い筈だが、ことによると輕率の舉動をして、國家の一大事を仕損じてしまふ國民はないと、固くきめ定めることは出来ないけれども、論語に言つてある通り「自己の一身を投げ捨てて、人の爲め世に盡す」といふことになる、至つてスパヤク、死んでも何等クヤシガラナイ日本人の様な潔よい人間は、世界國民中に多くは無い。否々少いのである。

問(2) 左の語句を解釋し漢字には讀假名を付けよ。

- (イ) 異口同音。 (ロ) 螢雪の功。  
(ハ) 枚擧に違なし。

〔解答〕（讀假名・解釋）(イ) 異口同音——口は異つても音は同じき義。異つた口から同じ聲を發するにいふ。幾人もの語調が一致すること。或は衆人の所説が一致すること。即ち多



くの人が同じ説をなすにいふ。

(ロ) 螢雪の功——苦學の功果の義。辛苦して學問すること。

苦學にいふ。(螢や雪を燈火に代へて苦學した車胤・孫康の故事。晋の車胤・孫康の二人は、共に學を好んだが、家が貧乏な爲めに、夜間、胤は螢を集め康は雪を積んで、其のアカリで讀書したといふに據る。)

(ハ) 枚擧に違なし——數へ切れぬ程多くある。(一枚二枚と數へ擧げるのに、ヒマが無い程澤山であるとの義。)

問 (3) 左の文中片假名の部分を漢字に改めよ。

(イ) 月の光はキアの光である。ジアの光である。エンネツを伴なはない清冷の光である。

(ロ) 草のカンカクほどビメウな、そしてエイピンなものがあろうか。

〔解答〕 (イ) 月の光は慰安の光である。慈愛の光である。炎熱を伴なはない清冷の光である。

(ロ) 草の感覺ほど微妙な、そして鋭敏なものがあろうか。

## 仙臺鐵道局管内

### 數 學 之 部

—〈仙臺鐵道局庶務課〉—

(昭和8年5月7日施行)

給仕採用に對する分 (1 時間半)

問 (1) 次の式を計算せよ。

$$\left(\frac{5}{7} - \frac{3}{14}\right) \times \frac{2}{3} \div \frac{5}{6}$$

〔解答〕  $\left(\frac{5}{7} - \frac{3}{14}\right) \times \frac{2}{3} \div \frac{5}{6} = \frac{7}{14} \times \frac{2}{3} \times \frac{6}{5} = \frac{2}{5}$

答  $\frac{2}{5}$

問 (2) 次の式を計算せよ。

$$1\frac{5}{9} + 2\frac{1}{6} \times \frac{3}{7} + \left(\frac{5}{13} + \frac{8}{13} - 1\right) \times 9$$

〔解答〕  $1\frac{5}{9} + 2\frac{1}{6} \times \frac{3}{7} + \left(\frac{5}{13} + \frac{8}{13} - 1\right) \times 9$

$$= \frac{14}{9} \times \frac{6}{13} \times \frac{3}{7} + 0 = \frac{4}{13}$$

答  $\frac{4}{13}$

問 (3) 100 に何を掛けたら 25 になるか。



〔解答〕  $25 \div 100 = \frac{25}{100} = \frac{1}{4}$  又ハ 0.25 答  $\frac{1}{4}$  又ハ 0.25

問(4) 音は1秒間に約340m進む。花火が発火するのを見てから5秒の後爆発する音を聞いた。こゝから発火した所までの距離はどれだけあるか。

〔解答〕 光が発した所から目まで来るには時間を要しないものとする。

$$340m \times 5 = 1700m$$

答 1.7 軒

問(5) 地球ノ直径ヲ 12700 km トスレバ體積ハ幾立方米カ。

〔解答〕 球ノ體積公式 直径<sup>3</sup>×0.52 (小學校教科書ニヨル)

$$(12700000)^3 \times 0.52 = 10651591600000000000000 \text{ 立方米}$$

答 10651591600000000000000 立方米

問(6) 1袋入ノ同ジ茶  $7\frac{3}{8}$  袋ノ内 2袋半使フト幾袋残ルカ。

〔解答〕  $7\frac{3}{8} - 2\frac{1}{2} = 4\frac{7}{8}$  答  $4\frac{7}{8}$  袋

問(7) 或仕事ヲ甲ガスルト8日カカリ乙ガスルト6日カカル。甲乙2人デハ1日ニ此ノ仕事ノ何分ノ何出来ルカ。甲乙2人テ此ノ仕事ヲスルト幾日カカルカ。

〔解答〕 甲ハ一日ニ仕事ノ  $\frac{1}{8}$ 、乙ハ  $\frac{1}{6}$  出来ル。

故ニ甲乙2人デ一日ニスル仕事ハ  $\frac{1}{8} + \frac{1}{6} = \frac{7}{24}$

甲乙2人デ仕上ゲルニ要スル日數  $1 \div \frac{7}{24} = 3\frac{3}{7}$

答 一日ニハ  $\frac{7}{24}$ 、仕上ゲル日數ハ  $3\frac{3}{7}$  日

問(8) 中空ノ球ガアル。其ノ外側ノ直径ハ 22cm デ側ノ厚サガ 1cm デアル。此ノ球ノ容積ハ幾リットルカ。

〔解答〕 直径内法ハ  $22cm - 2cm = 20cm$

球ノ容積ハ (cc)  $(20)^3 \times 0.52 = 4160$

答 4.16 リットル

問(9) 大工4人7日ノ賃錢ガ 49圓デアルト 5人6日ノ賃錢ハ幾ラデアルカ。

〔解答〕 4人 7日 49圓  $4:5 \} = 49:x$   
5人 6日  $x$   $7:6 \}$   
正 正

$$x = \frac{49 \times 5 \times 6}{4 \times 7} = 52\frac{1}{2}$$

答 52圓50錢

問(10) 或人初メニ所持金ノ  $\frac{1}{4}$  ヲツカヒ次ニ初メニツカッタ金高ノ  $\frac{3}{5}$  ヲツカッタガ後ニ6圓殘ツテキタ、此ノ人ノ最初ノ所持金ハイクラカ。



〔解答〕 2回目=ツカッタ金高ハ  $\frac{1}{4} \times \frac{3}{5} = \frac{3}{20}$   
 残りノ金ハ  $1 - \left(\frac{1}{4} + \frac{3}{20}\right) = \frac{12}{20}$   
 初メノ所持金ハ  $6圓 + \frac{12}{20} = 10圓$

答 10圓

## —◁仙臺運輸事務所▷—

## 中等學校卒業者に對する分 (1時間)

問(1) 水夫アリ流水=逆ツテ或ル距離ヲ  $8\frac{4}{7}$ 分時  
 =テ達ス。而シテ此所ヲ流水ノ力=テ下ル時間ハ  
 同ジ距離=テ静水ノ所ヲ漕グ時間ヨリ7分多シト  
 云フ。同ジ距離ヲ流レ=順ツテ漕ギ下ル=ハ幾分  
 時ヲ要スルカ。

〔解答〕 同ジ距離=テ静水ヲ漕グ時間ヲ  $x$ 分トス

題意ヨリ次ノ方程式ヲ得ラル

$$\frac{1}{x} - \frac{1}{x+7} = \frac{1}{8\frac{4}{7}} \quad \text{之ヲ解ク}$$

$$x+7-x = \frac{7x(x+7)}{60}$$

$$420 = 7x^2 + 49x$$

$$7x^2 + 49x - 420 = 0$$

$$x^2 + 7x - 60 = 0$$

$$(x+12)(x-5) = 0 \quad x-5=0 \text{ トスレバ}$$

$$x = \underline{5} \text{ (負根ハトラズ)}$$

静水ナラバ5分=テ漕グヲ得

$$\text{同ジ距離ヲ流レル時間ハ} \quad 5\text{分} + 7\text{分} = 12\text{分}$$

$$\text{漕ギ下ル速サ} \quad \frac{1}{5} + \frac{1}{12} = \frac{17}{60}$$

$$\text{漕ギ下ル=要スル時間} \quad 1 \div \frac{17}{60} = 3\frac{9}{17}$$

答  $3\frac{9}{17}$ 分

問(2) 或ル試験=於テ受験者13人=對シ及第者11  
 人ノ割合ナリキ、而シテ落第者ノ内18人ハ答案  
 ヲ白紙=テ出セルモノアリキ、今若シ此ノ内9人  
 ガ及第シタルン=ハ受験者11人=對シ及第者10  
 人ノ割合トナルベシト云フ受験者ノ數ヲ問フ。

(参考) 此問題ノ白紙云々ト云フコトハ全ク關係ガナイ。シタガツテ  
 18人ト云フ數モ不要デアル。何故ナラバドンナ理由ニシテモ兎ニ  
 角落第者デアルカラ。

〔解答〕

受験者ノ數ヲ  $x$ 人トスレバ及第者ノ數ハ  $\frac{11}{13}x$ 

$$\left(\frac{11}{13}x + 9\right) : x = 10 : 11 \quad 10x = 11\left(\frac{11}{13}x + 9\right)$$

$$10x = \frac{121}{13}x + 99$$

$$10x - 9\frac{4}{13}x = 99$$

$$\frac{9}{13}x = 99$$

$$x = 99 \times \frac{13}{9} = 143$$

答 143人



問(3) 二数アリ其ノ差30ニシテ其ノ最小公倍数ハ225ナリト、二数ヲ求メヨ。

〔解答〕  $225=5 \times 5 \times 3 \times 3$  デアルカラ LCM ヲ求メルトキノ終ニ残ル素数ハ5及3デア。ソシテ GCM ハ  $3 \times 5=15$  デアル。

故ニ求ムル数ハ  $15 \times 5=75$  ト  $15 \times 3=45$  デアル。

答 75 45

問(4)  $\begin{cases} 2a-3b+14=0 \\ -4a+5b=26 \end{cases}$  ヲ解ケ。

〔解答〕  $2a-3b+14=0$  (1)

$-4a+5b=26$  (2)

(1)  $\times 2$   $4a-6b=-28$

(2)  $-4a+5b=26$

$-b=-2$

$b=2$   $b=2$  ヲ(1)式ニ代入ス

$2a-6+14=0$

$2a=-8$

$a=-4$

答  $\begin{cases} a=-4 \\ b=2 \end{cases}$

問(5) 次ノ方程式ヲ解キ  $x, y, z$  ノ値ヲ求メヨ。

$$xz=y^2 \cdots (1) \quad x+z=19-y \cdots (2)$$

$$x^2+z^2=133-y^2 \cdots (3)$$

〔解答〕 (2)ヲ2乗スレバ

$$x^2+2xz+z^2=361-38y+y^2$$

左邊ニ(1)ト(3)トヲ代入ス

$$133-y^2+2y^2=361-38y+y \quad \text{移項シテ}$$

$$-y^2+2y^2-y^2+38y=361-133$$

$$38y=228$$

$$y=6$$

之レヲ(2)ニ代入スレバ  $x+z=13$

$$(1) \quad \begin{cases} x \\ z \end{cases} \quad \begin{cases} xz=36 \end{cases}$$

和ガ13、積ガ36ニナル二数ヲ求ムレバ4ト9デア。

故ニ  $\begin{cases} x=4 \\ z=9 \end{cases}$   $\begin{cases} x=9 \\ z=4 \end{cases}$  ノ二組トナル

答  $\begin{cases} x=4 \\ y=6 \\ z=9 \end{cases}$   $\begin{cases} 9 \\ 6 \\ 4 \end{cases}$  ノ二組トナル

尋常小學校卒業者ニ對する分 (1時30分)

問(1) 甲乙兩人ノ所持金ノ和ハ600圓デ其ノ差ハ150圓デア。甲乙ノ所持金各何程カ。又若シ甲



ガ乙ヨリ多ク所持シテ居タトスレバ甲ガ乙ニ幾圓  
ヲ與フレバ兩人ノ所持金ガ等シクナルカ。

【解答】 カリニ甲ガ多イトスル

$$\text{甲ノ所持金ハ} \quad (600\text{圓} + 150\text{圓}) \div 2 = 375\text{圓}$$

$$\text{乙} \quad (600\text{圓} - 150\text{圓}) \div 2 = 225\text{圓}$$

$$\text{甲カラ乙ニ與ヘル金} \quad 150\text{圓} \div 2 = 75\text{圓}$$

答 { 甲 375 圓、乙 225 圓  
甲カラ乙ニ與ヘル金高 75 圓

問(2) 何人カノ生徒ヲ縦横ノ人数ガ等シイ方陣ニ  
並ベルト 11 人餘ル。又縦横ヲ之ヨリモ 1 人ツ、  
増シタ方陣ニナラベルト 4 人足ラヌ生徒ノ人数何  
程カ。

【解答】 縦横各 1 人増シタ方陣ト前ノ方陣トノ差

$$11\text{人} + 4\text{人} = 15\text{人}$$

$$\text{前ノ方陣ノ一邊ノ人数ハ} \quad (15\text{人} - 1) \div 2 = 7\text{人}$$

$$\text{生徒ノ数ハ} \quad 7\text{人} \times 7 + 11\text{人} = 60\text{人}$$

答 60 人

問(3) 甲ハ 1 時間 30 分デ行ク所ヲ乙ハ 1 時間 45  
分デ行ク、乙ノ速ハ甲ノ速サノ幾分ノ幾ツニ當ル  
カ。又乙ガ出發シテカラ 30 分徑テ甲ガ乙ニ追ヒ  
ツクトスレバ幾時カ、ルカ。

【解答】 甲ガ 90 分デ行ク所ヲ乙ハ 105 分デ行ク

$$\text{速サノ比ハ} \quad 105 : 90 \quad \text{甲ヲ 1 トスレバ乙ハ} \quad \frac{90}{105} = \frac{6}{7}$$

$$\text{乙ガ 30 分ニ行ク距離ハ} \quad 6 \times 0.5 = 3$$

$$\text{甲ガ追ヒツクニ要スル時間ハ} \quad 3 \div (7 - 6) = 3$$

答  $\frac{6}{7}$  3 時間

問(4) 3 デ割ツテモ、5 デ割ツテモ、6 デ割ツテ  
モ 1 ガ餘ル数ノ中デ一番小サイ数ヲ出セ。

【解答】 3, 4, 5, 6 ノ最小公倍数ヲ求ム

$$\begin{array}{r} 3) 3 \quad 4 \quad 5 \quad 6 \\ 2) 1 \quad 4 \quad 5 \quad 2 \\ 1 \quad 2 \quad 5 \quad 1 \end{array} \quad 3 \times 2 \times 2 \times 5 = 60$$

$$\text{求ムル数} \quad 60 + 1 = 61$$

答 61

問(5) 或ル廣サノ田地ヲ甲乙二人ニ分ケタ。甲ハ  
其ノ  $\frac{1}{2}$  ヨリ 6 ヘクタール多ク取り乙ハ其ノ  $\frac{2}{5}$  ヨ  
リモ 1.2 ヘクタール少ク取ツタ。甲乙ノ取分ハ  
各何程カ。

【解答】 甲ガ取ツタ残りハ全體ノ  $\frac{1}{2}$  ヨリ 6 ヘクタール少シ

之ガ 全體ノ  $\frac{2}{5}$  ヨリ 1.2 ヘクタール少シ

$$\text{故ニ} \quad \frac{1}{2} - \frac{2}{5} = \frac{1}{10} \quad \text{ハ} \quad 6\text{ha} - 1.2\text{ha} = 4.8\text{ha} \quad \text{ニア  
タル}$$

$$\text{田地ノ廣サ} \quad 4.8\text{ha} \div \frac{1}{10} = 48\text{ha}$$

$$\text{甲ノ取分} \quad 48\text{ha} \times \frac{1}{2} + 6\text{ha} = 30\text{ha}$$

$$\text{乙ノ取分} \quad 48\text{ha} - 30\text{ha} = 18\text{ha}$$

答 甲 30 ヘクタール、乙 18 ヘクタール



## —〈盛岡運輸事務所〉—

## 算 術

## 中等學校卒業者に對する分 (1時間)

問(1) 次ヲ簡單ニセヨ。

$$(イ) \left( \frac{2}{6.25} + \frac{2.55}{3.75} - \frac{4}{4.93} \right) \times 5.285714$$

$$(ロ) \frac{\frac{5}{7} - \frac{1}{3} \times \left( \frac{1}{2} + \frac{1}{7} \right)}{1 + \frac{1}{2 - \frac{1}{4}}}$$

$$〔解答〕 (イ) \left( \frac{2}{6.25} + \frac{2.55}{3.75} - \frac{4}{4.93} \right) \times 5.285714$$

$$= \left( \frac{200}{625} + \frac{255}{375} - \frac{4}{4 \frac{84}{90}} \right) \times 5 \frac{2}{7}$$

$$= \left( \frac{8}{25} + \frac{3}{5} - \frac{4 \times 90}{444} \right) \times 5 \frac{2}{7} = \left( \frac{23}{25} - \frac{30}{37} \right) \times 5 \frac{2}{7}$$

$$= \frac{101}{925} \times \frac{37}{7} = \frac{101}{175} \quad \text{答 } \frac{101}{175}$$

$$(ロ) \frac{\frac{5}{7} - \frac{1}{3} \times \left( \frac{1}{2} + \frac{1}{7} \right)}{1 + \frac{1}{2 - \frac{1}{4}}} = \frac{\frac{5}{7} - \frac{1}{3} \times \frac{9}{14}}{1 + \frac{1}{\frac{7}{4}}}$$

$$= \frac{\frac{5}{7} - \frac{3}{14}}{1 \frac{4}{7}} = \frac{\frac{7}{14}}{\frac{11}{7}} = \frac{7}{14} \times \frac{7}{11} = \frac{7}{22}$$

答  $\frac{7}{22}$ 

問(2) 或數ハ36ニテモ84ニテモ割リ切レ而シテ  
整商ノ差ハ20ナリト云フ。或數ヲ求ム。  
(解式ト答)

〔解答〕 36ニテモ84ニテモ割リ切レル數ノ最小ナルモノハ二  
數ノL.C.Mナル252ナリ。

$$\left. \begin{array}{l} 252 \div 36 = 7 \\ 252 \div 84 = 3 \end{array} \right\} \text{其ノ差ハ4ナリ}$$

$$\text{故ニ求ムル數ハ } 252 \times (20 \div 4) = 1260$$

答 1260

問(3) 甲ナラバ20日乙ナラバ30日ニテ仕上ゲ得  
ベキ仕事アリ。最初甲ガ此ノ仕事ニ従事シタル後  
乙之ニ代リ甲ヨリモ10日多ク働キテ其ノ仕事ヲ  
仕上ゲタリト云フ。甲ノ働キシ日數ヲ求メヨ  
(解式ト答)

〔解答〕 甲ハ一日ニ全體ノ $\frac{1}{20}$ ヲナス 乙ハ $\frac{1}{30}$ ヲナス

$$\text{乙ガ十日間ニナス仕事ハ } \frac{1}{30} \times 10 = \frac{1}{3}$$

甲ト乙ト同ジ日數ヅツニ分ケテナス仕事ハ

$$1 - \frac{1}{3} = \frac{2}{3}$$

甲乙ノ1日ノ仕事ノ比

$$\frac{1}{20} : \frac{1}{30} = 3 : 2$$

甲ノナスベキ仕事ハ

$$\frac{2}{3} \times \frac{3}{5} = \frac{2}{5}$$

之ヲナスニ要スル日數

$$\frac{2}{5} \div \frac{1}{20} = 8$$

答 8日



問(4) 茶3斤ノ價ハ番茶8斤ノ價ノ $\frac{15}{16}$ ニ等シク、  
番茶9斤ノ價ハ茶7斤ノ價ノ $\frac{1}{2}$ ヨリ5錢高シト  
云フ。各1斤ノ價幾何カ。(解式ト答)

[解答] 茶3斤ノ價ハ番茶 8斤 $\times \frac{15}{16} = \frac{15}{2}$ 斤ノ價ニ等シ  
故ニ1斤ノ價ハ  $\frac{15}{2}$ 斤 $\div 3 = \frac{5}{2}$ 斤ノ價ニ等シ  
茶1斤ノ價ト番茶1斤ノ價トノ比ハ  $1 : \frac{2}{5}$   
番茶9斤ノ價ハ  $\frac{2}{5} \times 9 = \frac{18}{5} = 3\frac{3}{5}$   
茶7斤ノ價ノ $\frac{1}{2}$ ハ  $\frac{1 \times 7}{2} = 3\frac{1}{2}$   
故ニ茶1斤ノ價ハ  $5\text{錢} \div (3\frac{3}{5} - 3\frac{1}{2}) = 50\text{錢}$   
番茶1斤ノ價ハ  $50\text{錢} \times \frac{2}{5} = 20\text{錢}$

答 茶50錢、番茶20錢

## 代 數

問(5)  $y^2 + 5xy + mx^2 + x + y - 2$  ガ  $x, y =$  就テ一  
次ノ二因數ニ分解セラル、タメニハ  $m$  ノ値ヲ如何  
ニ定ムベキカ。

[解答]  $y^2 + 5xy + mx^2 + x + y - 2$  ヲ因數ニ分解シテ  
 $(y + \alpha x - 1)(y + \beta x + 2)$  トシ再ビ之ヲ展開スレバ  
 $y^2 + (\alpha + \beta)xy + \alpha\beta x^2 + (2\alpha - \beta)x + y - 2$  トナル  
之ヲ原式ニアテハムルトキハ  
 $\alpha + \beta = 5 \quad \alpha\beta = m \quad 2\alpha - \beta = 1$  トナル。

$$\begin{array}{rcl} \alpha + \beta = 5 & \alpha + \beta = 5 & \alpha\beta = m \\ 2\alpha - \beta = 1 & 2 + \beta = 5 & 2 \times 3 = m \\ 3\alpha = 6 & \beta = 3 & m = 6 \\ \alpha = 2 & & \end{array}$$

答  $m = 6$

## 尋常小學校卒業者に對する分 (1時間)

注意 答ハ右下ノ方ニ(答)トシテ明瞭ニ書クコト

問(1) (イ)  $\frac{853}{284}$  ト  $\frac{1066}{355}$  トハ何レガ大ナリヤ  
又其ノ差ヲ求メヨ。  
(ロ) 次ヲ簡單ニシ答ヲ出セ  $\frac{965}{1 + 0.08 \times 3\frac{7}{12}}$

[解答] (イ)  $\frac{853}{284} = 3\frac{1}{284} = 3\frac{5}{1420}$   
 $\frac{1066}{355} = 3\frac{1}{355} = 3\frac{4}{1420}$   
 $3\frac{5}{1420} - 3\frac{4}{1420} = \frac{1}{1420}$

答  $\frac{853}{284}$  ノ方が大、差  $\frac{1}{1420}$

[解答] (ロ)  $\frac{965}{1 + 0.08 \times 3\frac{7}{12}} = \frac{965}{1 + \frac{8}{100} \times \frac{43}{12}}$   
 $= \frac{965}{1\frac{43}{150}} = \frac{965 \times 150}{193} = 750$

答 750

問(2) 上下二冊ヨリ成ル書籍5部ノ代價15圓50  
錢ニシテ上ハ下ヨリモ30錢高シト云フ、各一冊  
ノ代價何程カ。(解式ト答、以下同ジ)



〔解答〕 一部ノ代金 15圓50錢÷5=3圓10錢  
 上一冊ノ價 (3圓10錢+30錢)÷2=1圓70錢  
 下一冊ノ價 (3圓10錢-30錢)÷2=1圓40錢

答 上1圓70錢、下1圓40錢

問(3) 甲乙兩人所持金ヲ比較スル=甲若シ70圓ヲ得レバ11:3ノ如ク、又甲若シ240圓ヲ得レバ13:2ノ如クナルト云フ。其ノ所持金ハ各幾何カ。

〔解答〕 甲ガ70圓ヲ得タ後ノ乙:甲=3:11=1: $\frac{11}{3}$   
 甲ガ240圓ヲ得タ後ノ乙:甲=2:13=1: $\frac{13}{2}$   
 故=乙ノ所持金(240圓-70圓)÷( $\frac{13}{2}-\frac{11}{3}$ )=60圓  
 甲ノ初メノ所持金 60圓× $\frac{11}{3}$ -70圓=150圓

答 甲150圓、乙60圓

問(4) 定價1圓50錢ノ品ヲ定價ノ8分引=テ10個賣ルモ亦定價ノ1割引=テ12個賣ルモ其利益相等シト云フ、品1個ノ原價ヲ求ム。

〔解答〕 定價ノ8分引=テ10個ノ價  
 $150錢 \times 0.92 \times 10 = 1380錢$   
 定價ノ1割引=テ12個ノ價  
 $150錢 \times 0.9 \times 12 = 1620錢$   
 故=原價ノ2倍ハ  $1620錢 - 1380錢 = 240錢$   
 原價  $240錢 \div 2 = 120錢$

答 1圓20錢

問(5) 一立方糎ノ重サ金ハ19.2瓦銅ハ8.8瓦ナリ、茲=金ト銅トヲ目方等分=混ジタル合金塊アリ、其體積140立方糎ナルトキ各體積如何。

〔解答〕 金ト銅ト同體積ノ重サノ比ハ  $19.2 : 8.8 = 24 : 11$   
 又同重量ナルトキ體積ノ比ハ  $11 : 24$   
 故=金ノ體積ハ  $140 \text{ cc} \times \frac{11}{35} = 44 \text{ cc}$   
 銅ノ體積  $140 \text{ cc} \times \frac{24}{35} = 96 \text{ cc}$

答 金44cc、銅96cc

—◁秋田運輸事務所▷—

(昭和7年9月施行)

算術

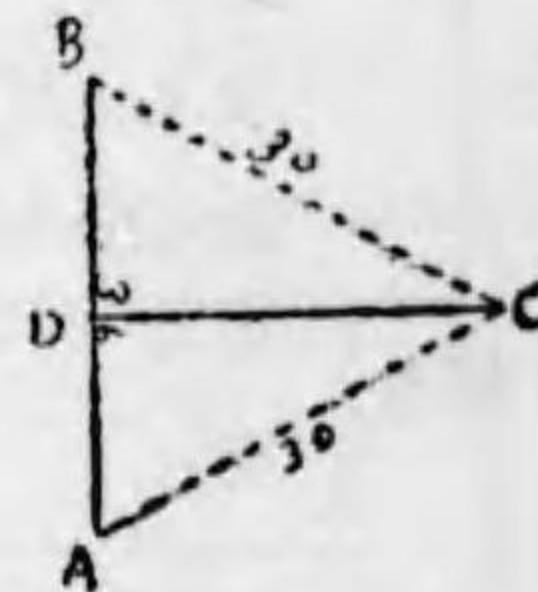
中學校卒業者に對する分(2時間)

問(1) 河岸=アル樓上ヨリ中流=於テ煙火ヲ揚グルヲ見ル=上ルトキモ開クトキモ其ノ光ヨリ6分ノ1秒間ヲ經テ各音響ヲ聞キタリ、若シ此ノ煙火36間上リシトスレバ河幅何間ナルカ。但シ音ハ1秒間=180間達スルモノトス。

〔解答〕 Aハ煙火打上ル點、Bハ開ク點、Cハ樓上ノ一點トス。

$$AC = 180 \text{ 間} \times \frac{1}{6} = 30 \text{ 間}$$

$$BC = 180 \text{ 間} \times \frac{1}{6} = 30 \text{ 間}$$





Dハ AB ノ中點 CDハ川幅ノ  $\frac{1}{2}$

$$CD = \sqrt{30^2 - 18^2} = 24$$

川幅 24間  $\times 2 = 48$ 間

**答** 48 間

代 數

問 (2) 
$$\left. \begin{aligned} \frac{yz}{y+z} &= \frac{5}{6} \\ \frac{xz}{x+z} &= \frac{3}{4} \\ \frac{xy}{x+y} &= \frac{15}{8} \end{aligned} \right\} x, y, z \text{ノ値ヲ求メヨ。}$$

[解答]

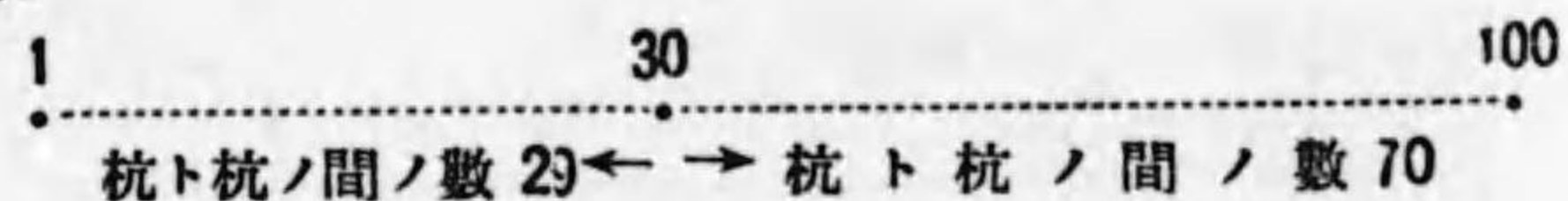
掛ケテ 5 = ナリ 足シテ 6 = ナル 數ヲ求ムレバ

$$\left. \begin{aligned} \frac{yz}{y+z} &= \frac{5}{6} & (1) & \text{ヨリ } y=5 \quad z=1 \\ \frac{xz}{x+z} &= \frac{3}{4} & (2) & \text{ヨリ } x=3 \quad z=1 \\ \frac{xy}{x+y} &= \frac{15}{8} & (3) & \text{ヨリ } x=3 \quad y=5 \end{aligned} \right\} \begin{array}{l} \text{同様に} \\ \end{array}$$

**答** 
$$\begin{cases} x=3 \\ y=5 \\ z=1 \end{cases}$$

問 (3) 100 本ノ杭ヲ 5 尺置キ = 一直線上 = 並ベタルアリ、今初メノ杭ヨリ第 30 番目ノ杭ノ處 = 人アリテ此等ノ杭ヲ悉ク 1 本ツツ其處 = 運バントス運ビ終ル迄 = 何尺ノ道ヲ歩ムベキカ。

[解答]



29 番ヲ運ブ = ハ往復 10 尺ヲ歩ミ 28 番デハ 20 尺次ハ 30 尺トナル。故 = 左側ヲ全部運ブ = ハ初項 10 項數 29 公差 10 ナル等差級數ノ總和丈ケヲ歩ム。右側ヲ運ブ = ハ同ジ級數項數 70 ノ總和ダケヲ歩ム

左側 
$$\frac{29}{2} \{ 20 + 28 \times 10 \} = 4350$$

右側 
$$\frac{70}{2} \{ 20 + 69 \times 10 \} = 24850$$

$$24850 \text{尺} + 4350 \text{尺} = 29100 \text{尺}$$

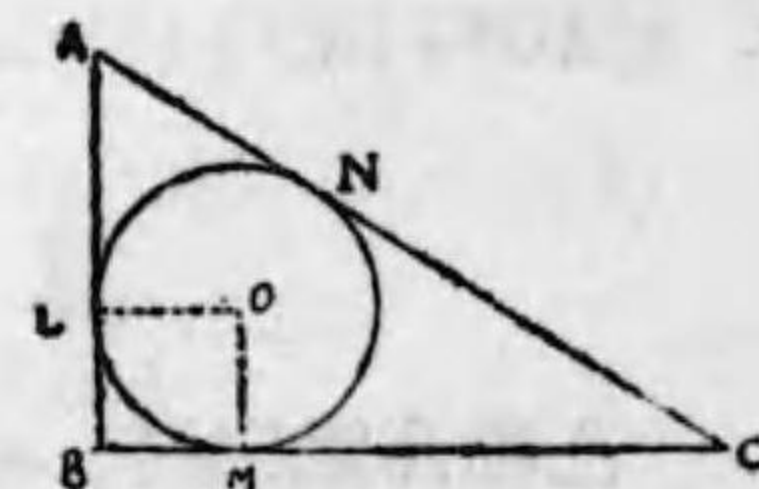
**答** 29100 尺

幾 何

問 (4) 直角三角形ノ内接圓ノ直徑ハ二邊ノ和ヨリ斜邊ヲ減ジタル差 = 等シキコトヲ證明セヨ。

[解答] (假设) 直角三角形 ABC

= 内接スル圓ノ中心ヲ O トシ LMN ヲ接點トス



(終結)  $2OM = AB + BC - CA$

(證明) OL, OM ヲ結ビツク。LBMO ハ正方形ナリ。

故 =  $LB = BM = LO \quad AL = AN \quad CM = CN$

故 =  $AB + BC - AC = LB + BM$

LB, BM ハ半徑 = 等シ。

故 =  $AB + BC - AC$  ハ半徑ノ 2 倍即チ直徑 = 等シ。

問 (5) O ヲ三角形 ABC ノ重心トスレバ

$$\overline{AB}^2 + \overline{BC}^2 + \overline{CA}^2 = 3(\overline{OA}^2 + \overline{OB}^2 + \overline{OC}^2) \quad \text{ナルコ}$$

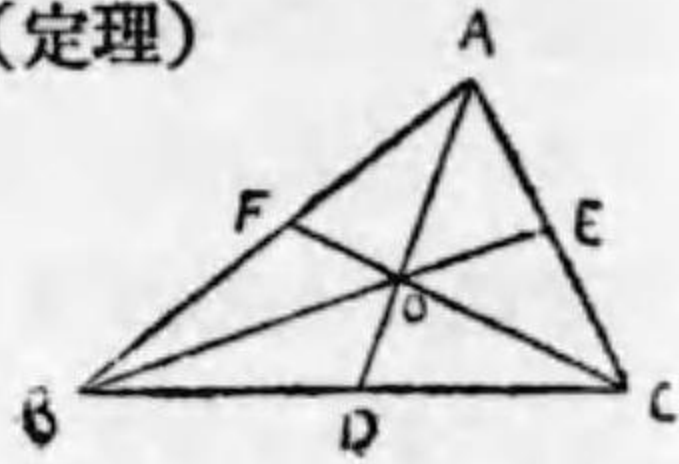
トヲ證明セヨ。



〔証明〕  $BO^2 + CO^2 = 2(BD^2 + OD^2) \dots$  (定理)

$$= 2\left(\frac{BC^2}{4} + \frac{AO^2}{4}\right)$$

$$= \frac{BC^2}{2} + \frac{AO^2}{2}$$



$$BO^2 + AO^2 = 2(AF^2 + OF^2) = 2\left(\frac{AB^2}{4} + \frac{OC^2}{4}\right) = \frac{AB^2}{2} + \frac{OC^2}{2}$$

$$AO^2 + OC^2 = 2(EC^2 + OE^2) = 2\left(\frac{AC^2}{4} + \frac{BO^2}{4}\right) = \frac{AC^2}{2} + \frac{BO^2}{2}$$

即ち  $BC^2 + CD^2 = \frac{BC^2}{2} + \frac{AO^2}{2}$

$BO^2 + AO^2 = \frac{AB^2}{2} + \frac{OC^2}{2}$

$AO^2 + OC^2 = \frac{AC^2}{2} + \frac{BO^2}{2}$

各邊ヲ 2 倍シテ加フ。

$$4(AO^2 + BO^2 + CO^2) = AB^2 + BC^2 + AC^2 + BO^2 + CO^2 + AO^2$$

$$\therefore 3(AO^2 + BO^2 + CO^2) = AB^2 + BC^2 + AC^2$$

### 算 術

乙種商業學校、中學三年修了者に對する分  
(2 時間)

問 (1) 銀ト銅トノ合金アリ其ノ中ニ含マレ居ル銀ハ全重量ノ  $\frac{3}{4}$  ヨリ 10 瓦少ク又銅ハ全重量ノ  $\frac{3}{8}$  ヨリ 30 瓦少イトノ事ナリ。此ノ合金ノ重量ハ何瓦ナルヤ。

〔解答〕 271 頁問 5 ト同一題ナリ参照セラレタシ

問 (2) 或ル數ト其ノ數ノ自乗トノ差ハ 3782 ナリト云フ。或ル數ヲ求メヨ。

〔解答〕  $\sqrt{3782} = 61$  — 殘 61

故ニ  $3782 = 61^2 + 61 = 61 \times 62$  デアル

或數ノ二乗ト其數トノ差ハ或數ト (或數-1) トノ積デア

故ニ或數ハ 62 ナリ

答 62

### 代 數

問 (3)  $\left. \begin{aligned} \frac{x}{a} = \frac{y}{b} = \frac{z}{c} \\ kx + my + nz = S \end{aligned} \right\} x, y, z$  ノ値ヲ求メヨ。

〔解答〕  $\left\{ \begin{aligned} \frac{x}{a} = \frac{y}{b} \\ \frac{x}{a} = \frac{z}{c} \\ kx + my + nz = S \end{aligned} \right. \left\{ \begin{aligned} bx = ay \dots\dots\dots (1) \\ cx = az \dots\dots\dots (2) \\ kx + my + nz = S \dots\dots\dots (3) \end{aligned} \right.$

(1) ヨリ  $y = \frac{bx}{a}$  之レヲ 3 = 代入ス

$$kx + \frac{mbx}{a} + nz = S$$

$$akx + mbx + anz = aS$$

$$x(al + bm) + anz = aS$$

$$\frac{cnx - anz = 0 \dots\dots\dots (2) \times n}{(al + bm + cn)x = aS}$$

$$x = \frac{aS}{al + bm + cn} \quad \text{之レヲ (1) = 代入ス}$$

$$\frac{abS}{al + bm + cn} = ay$$

$$\frac{bS}{al + bm + cn} = y \quad x \text{ ノ値ヲ (2) = 代入ス}$$



$$\frac{aS}{a+b+c} = az$$

$$\frac{cS}{a+b+c} = z$$

答

$$\begin{cases} x = \frac{aS}{a+b+c} \\ y = \frac{bS}{a+b+c} \\ z = \frac{cS}{a+b+c} \end{cases}$$

問(4) 二次方程式  $x^2 - p^2x - p = 0$  ノ兩根ハ  $x^2 + px - 1 = 0$  ノ兩根ニ夫々1ヲ加ヘタルモノニ等シト云フ。pノ値如何。

〔解答〕  $x^2 + px - 1 = 0$  ノ二根ヲ  $\alpha, \beta$  トスレバ  
 $x^2 - p^2x - p = 0$  ノ二根ハ  $\alpha+1, \beta+1$  ナリ  
 方程式ノ根ト係數トノ關係カラ  
 $\alpha + \beta = -p \dots\dots\dots(1)$      $\alpha\beta = -1 \dots\dots\dots(2)$   
 $\alpha + \beta + 2 = p^2 \dots\dots\dots(3)$   
 $(\alpha+1)(\beta+1) = \alpha\beta + \alpha + \beta + 1 = -p \dots\dots\dots(4)$   
 (2)ト(4)カラ                      (1)ト(3)カラ  
 $\alpha\beta + \alpha + \beta + 1 = -p$                        $\alpha + \beta + 2 = p^2$   
 $\frac{-) \alpha\beta}{\alpha + \beta + 1} = -1$                        $\frac{-) \alpha + \beta}{+ 2} = p^2 + p$   
 $\alpha + \beta = -p + 1 - 1$                        $p^2 + p - 2 = 0$   
 $\alpha + \beta = -p$                        $(p-2)(p+1) = 0$   
 (1)ニ等シ                       $p = 2$  又ハ  $p = -1$   
 答  $p = 2$  or  $-1$

問(5) 甲ハ初日一圓、第二日二圓、第三日三圓、ト云フガ如クニ毎日一圓ツツ増シテ貯蓄セリ。今

甲ガ貯蓄シ初メテヨリ5日ノ後乙ガ毎日12圓ツツ貯蓄スルトキハ乙ガ貯蓄シ初メテヨリ幾日ニシテ兩人ノ貯蓄高ガ相等シクナルカ。

〔解答〕 乙ノ日數ヲ  $x$  日トスレバ甲ハ  $(x+5)$  日  
 甲ノ貯金ノ初項1.公差1.項數  $(x+5)$  ノ等差級數デアル  
 故ニ次ノ方程式ヲ得  
 $12x = \frac{x+5}{2} \{2 + (x+4) \times 1\}$     之ヲ解ク  
 $24x = (x+5)(x+6)$   
 $24x = x^2 + 11x + 30$   
 $x^2 - 13x + 30 = 0$   
 $x = \frac{13 \pm \sqrt{13^2 - 120}}{2} = \frac{13 \pm 7}{2}$   
 $x = 10$  or  $3$                       答 3日、10日

尋常小學校卒業生に對する分 (2時間)

問(1) 甲乙兩地間ニハ峠アリ今自轉車ニテ此ノ兩地間ヲ往復スルニ下リ路ニテハ毎時12軒、上リ路ニテハ毎時8軒ノ速サニテ走レルニ14時間10分ヲ要セリト云フ。甲乙兩地間ノ距離ハ何軒ナルカ。

〔考へ方〕 往復デアルカラ往キニ上ツタ所ハ歸リニ下リ往キニ下ツタ所ハ歸リニ上ルコトニナル。ソレデ此問題ヲ次ノヤウニカヘテ考ヘルコトガ出來ル。即チ(往キハ12軒ノ速サデ往キ歸リハ8軒ノ速サデ歸ツテ往復ニ14時10分ヲ費シタ)コウシテ假リニ往キニ費シタ時間ト歸途ニ費シタ時間トニ分ケ、ソレカラ兩地間ノ距離ヲ出セバヨロシ。

〔解答〕 下リ途丈ケニ費シタ時間ト上リ途丈ケニ費シタ時間ト



ノ比ハ 8 : 12

$$\text{故=下リ=費シタ時間ハ} \quad 14\frac{1}{6}\text{時} \times \frac{8}{20} = 5\frac{2}{3}$$

$$\text{其ノ距離ハ} \quad 12\text{軒} \times 5\frac{2}{3} = 68\text{軒}$$

答 68軒

問(2) 二個ノ齒車アリ其ノ齒數ハ 80 ト 128 ナリ  
今一度嚙ミ合ヒタル齒ガ再ビ嚙ミ合フ迄ニハ小ナル齒車ハ何回轉スルカ。

〔解答〕 再ビ同ジ齒ガ嚙ミ合フマデニ數ヘル齒ノ數ハ兩齒車ノ齒ノ最小公倍數デアル

$$\begin{array}{r} 4 \ ) \ 80 \quad 128 \\ 4 \ ) \ 20 \quad 32 \\ \quad 5 \quad \quad 8 \end{array} \quad \text{最小公倍數} \quad 4 \times 4 \times 5 \times 8 = 640$$

$$\text{小齒車ノ回轉數} \quad 640 \div 80 = 8$$

答 8回轉

問(8) 重サ 200 匁ノ空桶ノ内ヘ比重 2 ナル液ヲ充タストキハ總重量 5 貫匁トナレリ。桶ノ容量幾何ナルカ。但シ水一升ノ重サヲ 480 匁トス。

$$\text{〔解答〕 液ノ重量} \quad 5000\text{匁} - 200\text{匁} = 4800\text{匁}$$

$$\text{モシ之ヲ水トスレバ其ノ重サ} \quad 4800\text{匁} \div 2 = 2400\text{匁}$$

$$\text{故=其樽目ハ} \quad 2400\text{匁} \div 480\text{匁} = 5$$

答 5升

問(4) 平行セル線路ヲ同方向ニ走ル急行列車ト普通列車トアリ急行列車ガ普通列車ニ追及シテヨリ

之レヲ追越ス迄 13 秒ヲ要シ、今普通列車ノ速度ヲ 3 倍ニスレバ急行列車ハ之レヲ追越スニ 52 秒ヲ要スルコトトナルト云フ。急行列車ノ長サヲ 140 米普通列車ノ長サヲ 120 米トスレバ兩列車ノ速度ハ毎時何軒カ。

〔解答〕 普通・急行兩列車ノ一秒ノ速度ノ差

$$(140m + 120m) \div 13 = 20m$$

$$\text{普通列車ノ速度ヲ三倍ニセル時ノ差} \quad 260m \div 52 = 5m$$

$$\text{故=普通列車ノ毎秒ノ速サ} \quad (20m - 5m) \div 2 = 7\frac{1}{2}m$$

$$\text{急行列車ノ毎秒ノ速サ} \quad 7\frac{1}{2}m + 20m = 27\frac{1}{2}m$$

$$\text{〃 毎時ノ速サ} \quad 27\frac{1}{2}m \times 3600 = 99000m$$

$$\text{普通列車ノ毎時ノ速サ} \quad 7\frac{1}{2} \times 3600 = 27000m$$

答 普通列車 27軒 急行列車 99軒

問(5) 銀ト銅トノ合金アリ銀ハ全重量ノ  $\frac{3}{4}$  ヨリ 10 瓦少ク銅ハ全重量ノ  $\frac{3}{8}$  ヨリ 30 瓦少シ合金ノ全重量ハ何瓦カ。

$$\text{〔解答〕 銅ノ量ハ全量ノ} \quad 1 - \frac{3}{4} = \frac{1}{4} \quad \text{ヨリ 10 瓦多シ}$$

$$\text{又 〃} \quad \frac{3}{8} \quad \text{ヨリ 30 瓦少シ}$$

$$\text{故=全量ハ} \quad (10\text{瓦} + 30\text{瓦}) \div \left(\frac{3}{8} - \frac{1}{4}\right) = 320\text{瓦}$$

答 320瓦



(昭和8年2月施行)

## 算術

## 中學校卒業者に對する分

(解法ハ代數方程式ニヨラザルコト)

問(1) 甲乙二人圓形ノ地ノ同一地點ヨリ反對ノ方向ニ發シ途中ニ於テ出會ヒ、ソレヨリ出發點ヘ甲ハ4分、乙ハ9分間ニテ着セリト云フ。各一周スル時間ヲ問フ。

[解答] 兩人ガ會フマデノ時間ヲ $x$ 分トスレバ

甲ガ $x$ 分ニ歩ム所ヲ乙ハ9分ヲ要シ

乙カ $x$ 分ニテ歩ム所ヲ甲ハ4分ヲ要ス

故ニ次ノ比例式ガ成立ツ

$$\text{甲} : \text{乙} = x : 9 = 4 : x \quad x^2 = 36 \quad x = 6$$

甲ガ一周スルニ要スル時間ハ  $6分 + 4分 = 10分$

乙ガ一周スルニ要スル時間ハ  $6分 + 9分 = 15分$

答 甲10分 乙15分

問(2) 某俱樂部ニ部員若干名アリ。其ノ一人ノ出金ノ圓ノ數ハ人數ニ等シ若シ部員ニ尙12名ヲ増ストキハ一人ノ出金ハ10圓ヲ減ズルモ金額ハ前ト同額トナルベシト云フ。部員ノ數如何。

[解答] 全體ノ人數カラ10圓ヅ、集メタモノヲ12人ニ分ケル

ト後ノ一人分ノ出金ニナル

前ノ出金ハ人數ニ等シク 後ノ出金ハ人數ノ $\frac{10}{12}$ ニアタル

前ノ出金ヲ1トスレバ 後ノ出金ハ $\frac{10}{12}$  其差ハ10圓

故ニ前ノ出金額  $10圓 \div \left(1 - \frac{10}{12}\right) = 60圓$

答 60人

## 代數

問(3)  $x, y$ ヲ未知數トスル聯立方程式

$$kx - 6y = 5k - 3$$

$$2x + (k-7)y = -7k + 29 \quad \text{アリ}$$

之レヲ解キテ  $x=y$  ナラシムル爲ニハ $k$ ノ値ノ

如何ニ定ムベキカ又此場合 $xy$ ノ値如何。

[解答]  $x$ ヲ $y$ ニ代入スレバ原式ハ次ノ如シ

$$kx - 6x = 5k - 3 \dots\dots(1) \quad 2x + (k-7)x = -7k + 29 \dots\dots(2)$$

$$x(k-6) = 5k-3 \quad \text{''} \quad x(2+k-7) = -7k+29$$

$$x = \frac{5k-3}{k-6} \quad \text{''} \quad x(k-5) = -7k+29$$

$$x = \frac{-7k+29}{k-5}$$

$$\text{故ニ} \quad \frac{5k-3}{k-6} = \frac{-7k+29}{k-5}$$

$$(5k-3)(k-5) = (-7k+29)(k-6)$$

$$5k^2 - 28k + 15 = -7k^2 + 71k - 174$$

$$12k^2 - 99k + 189 = 0$$

$$4k^2 - 33k + 63 = 0 \quad \text{左邊ヲ因數ニ分解ス}$$

$$(k-3)(4k-21) = 0 \quad k=3 \text{ or } 21$$

$k=3$  トスレバ原式ハ次ノ如シ

$$3x - 6y = 15 - 3 \quad (1)$$

$$3x - 6y = 12$$

$$x - 2y = 4$$

$$x = y \quad \text{トシテ}$$



$$x - 2x = 4$$

$$-x = 4$$

$$x = -4$$

$k=21$  トスレバ原式ハ次ノ如シ

$$21x - 6y = 105 - 3$$

$$21x - 6y = 102$$

$$7x - 2y = 34 \quad x = y \text{ トシテ}$$

$$5x = 34 \quad x = \frac{34}{5} = 6\frac{4}{5}$$

$$\text{答} \begin{cases} k=3 \text{ ノトキ } x=y=-4 \\ k=21 \text{ ノトキ } x=y=6\frac{4}{5} \end{cases}$$

問(4) 三角形ノ三邊ガソレソレ  $a, b, c$  ナルコトヲ知リテ一頂點ヨリ底邊ニ下ス垂線ノ長サヲ求メヨ。

〔解答〕 垂線  $h$  ノ長サハ  $\sqrt{c^2 - x^2}$  又ハ  $\sqrt{a^2 - (b-x)^2}$

トナル

$$\text{故} = \sqrt{c^2 - x^2} = \sqrt{a^2 - (b-x)^2}$$

$$c^2 - x^2 = a^2 - b^2 + 2bx - x^2$$

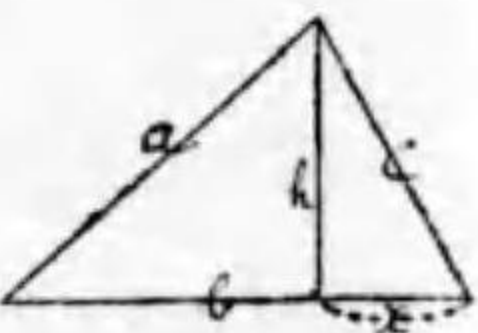
$$-x^2 + x^2 - 2bx = a^2 - b^2 - c^2$$

$$-2bx = a^2 - b^2 - c^2$$

$$x = \frac{a^2 - b^2 - c^2}{-2b}$$

$$\text{故} = h = \sqrt{c^2 - \left(\frac{a^2 - b^2 - c^2}{-2b}\right)^2}$$

$$\text{答} \quad h = \sqrt{c^2 - \left(\frac{a^2 - b^2 - c^2}{-2b}\right)^2}$$



問(5) 甲自動車ハ午前5時ニA地ヲ發シテB地ニ向ヒ、乙自動車ハ甲ヨリ大ナル速サデ午前7時ニ同ジクA地ヲ發シテB地ニ向ツタ所ガ午前ノ11時20分及ビ午後0時40分ニ於テ兩者ノ間ノ距離ガ何レモ12kmデアツタト云フ。兩車ノ速サ毎時何程カ。

〔解答〕 1時20分間ニ乙ハ甲ニ12km追ヒツキ更ニ12km進

出シタカラ乙ハ甲ヨリ24km多ク進ンダコトニナル。

$$\text{故} = \text{一時間ノ差ハ} \quad 24\text{km} \div 1\frac{1}{3} = 18\text{km}$$

$$12\text{kmヲ追ヒツク時間} \quad 12\text{km} \div 18\text{km} = \frac{2}{3} \quad 40\text{分}$$

$$\text{故} = \text{乙ガ甲ニ追ヒツキタ時ハ} \quad 11\text{時}20\text{分} + 40\text{分} = 12\text{時}$$

$$\text{甲乙等距離ヲ行ク時間ノ比} \quad 7 : 5$$

$$\text{甲乙ノ毎時ノ速サノ比} \quad 5 : 7 \quad \text{差ハ} \quad 7 - 5 = 2$$

$$\text{甲ノ速サ} \quad 2 : 5 = 18\text{km} : x \quad x = \frac{5 \times 18}{2} = 45\text{km}$$

$$\text{乙ノ速サ} \quad 2 : 7 = 18\text{km} : x \quad x = \frac{7 \times 18}{2} = 63\text{km}$$

答 甲 45 km、乙 63 km

乙種商業學校、中學三年修了者ニ對する分

算術 (解法ハ代數方程式ニヨラザルコト)

問(1) 長サ7寸2分、幅3寸2分、厚サ1寸8分ノ煉瓦石ヲ以テ最小ナル立方體ヲ積立テントス。依ツテ問フ煉瓦幾何ヲ要スルヤ。

〔解答〕 立方體ノ一稜ハ長サ、幅、厚サノ最小公倍数ナレバヨシ



$2 \overline{) 72}$	$32$	$18$	最小公倍数	$2 \times 2 \times 2 \times 9 \times 4 = 288$
$2 \overline{) 35}$	$16$	$9$	長サヲ並ベル數	$288 \div 72 = 4$
$2 \overline{) 18}$	$8$	$9$	幅ヲ並ベル數	$288 \div 32 = 9$
$9 \overline{) 9}$	$4$	$9$	厚サヲ並ベル數	$288 \div 18 = 16$
$1$	$4$	$1$		

煉瓦ノ總數  $4 \times 9 \times 16 = 576$       答 576 個

問(2) 二數アリ其差ハ18ニシテ平方ノ差ハ576ナリト云フ各數ヲ求メヨ。

[解答]



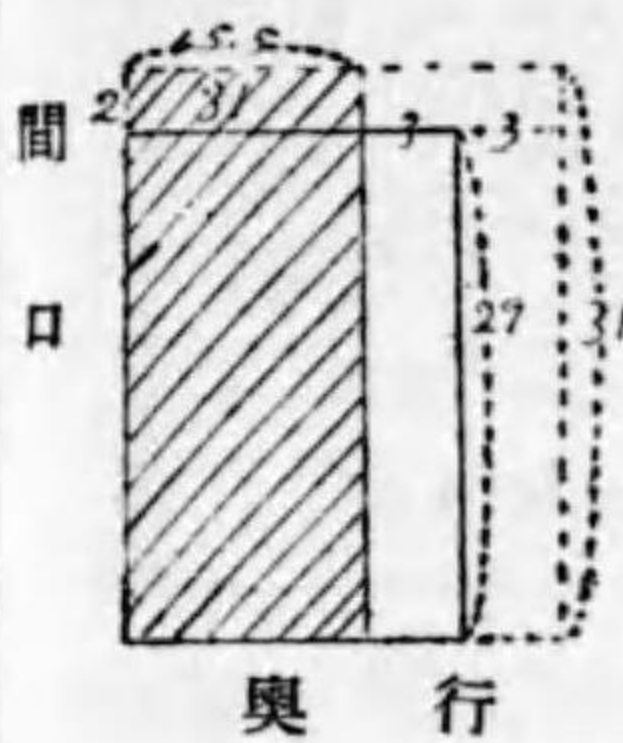
圖=見ル如ク二數ノ平方ノ差カラ差ノ平方ヲ減ズレバ、小ナル數ト差トノ積ノ二倍トナル。

差

$576 - 18^2 = 252$	小數 $\times$ 差 $\times 2 =$ アタル
$252 \div 2 = 126$	小數 $\times$ 差
$126 \div 18 = 7$	小 數
$7 + 18 = 25$	大 數      答 <u>25 ト 7</u>

問(3) 矩形ノ宅地二ヶ所アリ、甲ハ乙ヨリ間口2間長ク、奥行3間短カク、面積56坪狭シ、若シ甲ガ乙ヨリ間口ニ於テ2間長ク、奥行ニ於テモ3間長カリセバ面積130坪廣シト云フ。甲地ノ間口及ビ奥行ヲ問フ。

[解答] 下ノ圖ト算式トヲ對照セラレタシ。



太イ線内ハ乙 斜線ノ部ハ甲  
 $(130 + 56) \div (3 + 3) = 31 \dots\dots$  甲ノ間口  
 $29 \times 3 - 56 = 31 \dots\dots$  甲ノ間口ノ方ニ廣ガツタ面積  
 $31 \div 2 = 15.5 \dots\dots$  甲ノ奥行  
 答 甲間口31間、奥行15.5間

### 代 數

問(4)  $\frac{y+z-x}{b+c} = \frac{z+x-y}{c+a} = \frac{x+y-z}{a+b} = 1$

[解答]  $\frac{y+z-x}{b+c} = 1 \quad y+z-x = b+c \dots\dots(1)$

$\frac{z+x-y}{c+a} = 1 \quad z+x-y = c+a \dots\dots(2)$

$\frac{x+y-z}{a+b} = 1 \quad x+y-z = a+b \dots\dots(3)$

(1) $y+z-x = b+c$	(2) $z+x-y = c+a$
(2) $+) z+x-y = c+a$	(3) $+) x+y-z = a+b$

$2z = a+b+2c$	$2x = 2a+b+c$
$z = \frac{a+b}{2} + c$	$x = a + \frac{b+c}{2}$

(1)  $y+z-x = b+c$

(3)  $+) x+y-z = a+b$

$2y = a+2b+c$
$y = b + \frac{c+a}{2}$

答  $\begin{cases} x = a + \frac{b+c}{2} \\ y = b + \frac{c+a}{2} \\ z = c + \frac{a+b}{2} \end{cases}$



問(5) 甲乙丙三工夫アリテ或仕事ヲナスニ、甲乙共ニ働クトキハ48日ニテ此仕事ヲ成就シ、甲丙共ニ働クトキハ30日ニテ成就シ、乙丙共ニ働クトキハ $26\frac{2}{3}$ 日ニテ成就スベシト云フ。今此三人單獨ニテ働クトキハ各幾日ニテ成就スベキカ。

〔解答〕 甲、乙、丙各單獨ニテ成就スルニ要スル日數ヲ $x, y, z$ トス

$$\frac{1}{x} + \frac{1}{y} = \frac{1}{48} \dots\dots(1) \quad \frac{1}{x} + \frac{1}{z} = \frac{1}{30} \dots\dots(2)$$

$$\frac{1}{y} + \frac{1}{z} = \frac{1}{26\frac{2}{3}} = \frac{3}{80} \dots\dots(3)$$

$$(1) \quad \frac{1}{x} + \frac{1}{y} = \frac{1}{48} \quad (3) \quad \frac{1}{y} + \frac{1}{z} = \frac{3}{80}$$

$$(2) -) \quad \frac{1}{x} + \frac{1}{z} = \frac{1}{30} \quad +) \quad \frac{1}{y} - \frac{1}{z} = \frac{-1}{80}$$

$$\frac{1}{y} - \frac{1}{z} = \frac{-1}{80} \dots\dots(4) \quad \frac{2}{y} = \frac{2}{80}$$

$$\frac{1}{y} = \frac{1}{80}$$

$\frac{1}{y}$ ノ値ヲ(1)ニ代入ス

$$\frac{1}{x} + \frac{1}{80} = \frac{1}{48}$$

$$\frac{1}{x} = \frac{1}{48} - \frac{1}{80} = \frac{2}{240} = \frac{1}{120}$$

$\frac{1}{x}$ ノ値ヲ(2)ニ代入ス

$$\frac{1}{120} + \frac{1}{z} = \frac{1}{30}$$

$$\frac{1}{z} = \frac{1}{30} - \frac{1}{120} = \frac{3}{120} = \frac{1}{40}$$

答 甲120日 乙80日 丙40日

### 尋常小學校卒業者に対する分

(解法ハ代數方程式ニ依ラザルコト)

問(1) 絹435反ト木綿401反ト著荷セリ、依リテ之ヲ若干人ニソレゾレ等シク分配セントセシニ各10反殘レリ。其ノ人數如何。

〔解答〕 絹ノ分配セル反數 435反-10反=425反

木綿 401反-10反=391反 人數ハ兩反數ノ最大公約數ナリ

答 17人

(参考) 此ノ最大公約數ノ求メ方ハ次ノ様ニスルト早ク求メラレル。假リニ最大公約數ヲ $x$ トスレバ425モ $x$ デ割レ391モ $x$ デワレル、ダカラ其差モ $x$ デ割レルコトニナル。(即チ差モ $x$ ノ倍數デアル)ソレ故 425-391=34 34=2×17 故ニ17ガ $x$ ニアタル。

問(2) 園中ノ樹木ヲ算フルニ松梅合セテ43株、櫻桃合セテ42株アリ、而シテ松ハ櫻ヨリ2株多ク、梅ヨリ7株少ナシト云フ。株數各如何。

〔解答〕 梅+松=43 梅-松=7

$$\text{梅} = (43+7) \div 2 = 25 \quad \text{松} = (43-7) \div 2 = 18$$

$$\text{櫻} = 18 - 2 = 16 \quad \text{桃} = 42 - 16 = 26$$

答 梅25株、松18株、櫻16株、桃26株

問(3) 定價1圓ノ書籍若干部ヲ2割引ニテ買入レ其部數ノ $\frac{3}{5}$ ト尙10部トヲ定價ニテ賣リ總買價ヲ得タリト云フ。買入レシ部數如何。

〔解答〕 8割デ買ヒ定價ニテ賣レバ買ツタ部數ノ $\frac{8}{10}$ 賣リテ買



價ヲ得ラレル

$$\text{故=買ヒ入レタ部數ハ} \quad 10 \div \left( \frac{8}{10} - \frac{3}{5} \right) = 50$$

答 50部

問(4) 甲ハ乙ノ所持金ノ4倍ヲ有セリ、然ルニ甲ハ8圓ヲ得乙ハ2圓ヲ失ヒシヲ以テ甲ハ乙ノ6倍トナレリ、元ノ所持金高各如何。

〔解答〕 前ノ甲乙ノ差ハ乙ノ3倍 後ノ甲乙ノ差ハ後ノ乙(即チ乙-2)ノ5倍デアル。

$$\text{故=後ノ乙ノ所持金ハ} \quad (8\text{圓} + 2\text{圓} \times 4) \div (5 - 3) = 8\text{圓}$$

$$\text{前ノ乙ノ所持金ハ} \quad 8\text{圓} + 2\text{圓} = 10\text{圓}$$

$$\text{前ノ甲ノ所持金ハ} \quad 10\text{圓} \times 4 = 40\text{圓}$$

答 甲40圓 乙10圓

問(5) 或ル人或ル川ヲ上下スルニ毎時水流ノ速サハ2.5糎デ下リニ要スル時間ハ上リニ對スル時間ノ $\frac{3}{8}$ テアルト云フ。毎時ノ漕グ速サハ何程カ。

〔解答〕 下ル速サト上ル速サノ比  $1 : \frac{3}{8}$

$$1 - \frac{3}{8} = \frac{5}{8} \text{ハ水流ノ速サノ2倍ニアタル}$$

$$\text{故=下ル速サハ} \quad (2.5\text{糎} \times 2) \div \left( 1 - \frac{3}{8} \right) = 8\text{糎}$$

$$\text{此人ノ漕グ速サハ} \quad 8\text{糎} - 2.5\text{糎} = 5.5\text{糎}$$

答 5.5糎

## 新津運輸事務所

(昭和7年7月9日施行)

### 代 數

中等學校卒業者に對する分 (一時間)

問(1) 次ノ無理式ヲ簡單ニセヨ。

$$2\sqrt{3} + 3\sqrt{\frac{4}{3}} - \sqrt{\frac{16}{3}}$$

$$\begin{aligned} \text{〔解答〕} \quad & 2\sqrt{3} + 3\sqrt{\frac{4}{3}} - \sqrt{\frac{16}{3}} = 2\sqrt{3} + 3 \frac{2}{\sqrt{3}} - \frac{4}{\sqrt{3}} \\ & = 2\sqrt{3} + 6 \frac{1/\sqrt{3}}{3} - \frac{4\sqrt{3}}{3} = \frac{6\sqrt{3}}{3} + \frac{6\sqrt{3}}{3} - \frac{4\sqrt{3}}{3} \\ & = \frac{8\sqrt{3}}{3} \end{aligned}$$

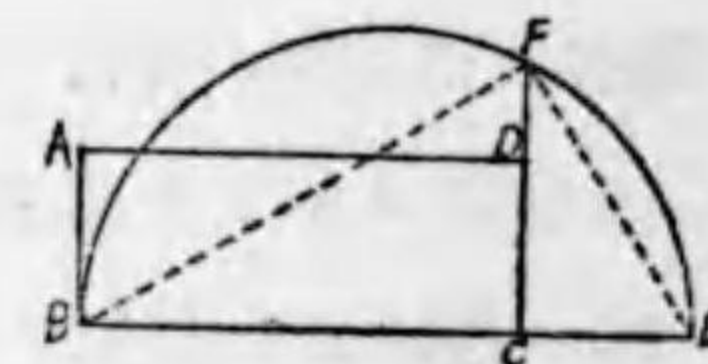
答  $\frac{8\sqrt{3}}{3}$

### 幾 何

問(2) 與ヘラレタル矩形ACト等積ナル正方形ヲ作レ。

〔解答〕 (題意) 與ヘラレタル矩形ヲ

ABCDトシ之レト等積ナル正方形ヲ作ルコト。



(作圖) BCヲ延長シテ  $CE = CD =$

Eヲトル。

BEヲ直徑トスル圓ヲ畫キCDガ圓周ト交ハル點ヲFトス



CFハ求ムル正方形ノ一辺ナリ。

(證明)  $\triangle BEF$  ハ直角三角形ナリ

$\triangle BCF, \triangle CEF$  ハ直角三角形ニシテ且相似形ナリ

故ニ  $BC : CF = CF : CE$

$$\overline{CF}^2 = BC \cdot CE = BC \cdot CD \text{ナリ}$$

### 算 術

問(3) 或ル家ニ兄弟四人アリ其年齢順次ニ3歳違ヒニシテ長男ノ年齢ハ四男ノ年齢ノ2倍ナリト云フ、年齢各幾歳ナルカ。

[解答] 長男ト四男トノ年齢ノ差  $3 \times 3 = 9$   
 四男ノ年齢  $9 \div (2-1) = 9$   
 三男以上順ニ  $9+3 = 12, 15, 18$

答 長男18歳、次男15歳、三男12歳、四男9歳

(昭和8年7月施行)

### 中學校卒業生に對する分(1時間)

問(1) 時計ノ長短兩針ガ正午ニ重ナリ合フテヨリ後第三回目ニ短針長針ガ直角ヲナス時刻ヲ問フ。

[解答] 12時ノ後第一回ニ直角ヲナストキハ長針ガ短針ヨリ15分進メルトキ第二回ハソレヨリ約30分ノ後、第三回ハ1時ノ後始メテ直角ヲナス時デアル。故ニ1時ノ後直角ヲナストキヲ求ムレバヨイ。

直角ニナルマデニ長針ガ短針ヨリ多ク進ム時間ハ  
 $5分 + 15分 = 20分$

1分間ニ長針ガ短針ヨリ多ク進ムハ

$$1分 - \frac{1}{12}分 = \frac{11}{12}分$$

求ムル時刻ハ

$$20分 \div \frac{11}{12}分 = 21\frac{9}{11}$$

答 1時21 $\frac{9}{11}$ 分

問(2) 甲乙丙三人アリ自轉車ニテ周圍1哩ノ池ノ周リヲ走行スルニ甲ハ3分、乙ハ4分、丙ハ6分ニテ一周スベシト云フ、今三人同時ニ同所ヲ同方向ニ向ヒテ出發スルトキハ三人再ビ相遇フマデニ幾分ヲ要スベキヤ。

[解答] 三人相遇フトキハ3分、4分、6分ノ最小公倍数ナルトキナリ

3, 4, 6ノL.C.Mハ12、故ニ12分後ニ會ス。

答 12分

問(3) 偶數ノ右ニ零1個ヲ附シタル數(例ヘバ220)ハ必ズ4ニテ除セラレ、2個ヲ附シタルモノ(例ヘバ9800)ハ8ニテ除シ得ルコトヲ證明セヨ。

[解答] 偶數ニ零ヲ附シタルモノノ最小ナルハ20ニシテ他ハ其ノ倍数ナリ。 $20 = 4 \times 5$  即チ4ノ倍数 故ニ20ノ倍数ハ皆4ノ倍数ナリ。故ニ4ニテ除セラレル。

偶數ニ零ヲ2ツ附シタルモノ、最小ナル數ハ200ニシテ他ハ皆其ノ倍数ナリ。 $200 = 8 \times 25$  即チ8ノ倍数ナリ。故ニ200ノ倍数(偶數ノ右ニ0ヲ二ツ附シタルモノ)ハ8ノ倍数ナリ



## 尋常小學校卒業者に對する分 (一時間)

問 (1)  $\frac{355}{113}$  ト 3.1416 トハ何レが大ナルカ。

〔解答〕  $\frac{355}{113} = 3.1415\dots\dots$  故 = 3.1416 ノ方大ナリ。

答 3.1416 ノ方が大

問 (2) 甲乙二數アリ 其和ハ 48 ニシテ甲ハ乙ノ 4 倍ヨリ 13 多シト云フ、二數各如何。

〔解答〕 48 ハ乙ノ 5 倍ヨリ 13 多シト云ヘル

故 = 乙ハ  $(48 - 13) \div 5 = 7$

甲ハ  $7 \times 4 + 13 = 41$  答 甲 41、乙 7

問 (3) 63 貫ノ氷ヲ金 15 圓 75 錢ニテ買ヒ 1 貫目ニツキ金 50 錢ニ賣リシニ純益 2 割ヲ得タリト云フ、融解セシ目方如何。

〔解答〕 賣價總數  $15\text{圓}75\text{錢} \times 1.2 = 18\text{圓}90\text{錢}$

賣ツタ貫數  $18\text{圓}90\text{錢} \div 50\text{錢} = 37.8$

融ケタ貫數  $63\text{貫} - 37.8\text{貫} = 25.2\text{貫}$

答 25 貫 200 匁

## —〈青森運輸事務所〉—

(昭和 7 年 11 月 20 日施行)

(1 時間半)

問 (1) 甲乙二數アリ甲ハ 112 乙ハ 12 ナリ。今コノ二數ニ同ジ數ヲ加ヘテ甲數ヲ乙數ノ 5 倍ニスルニハ如何ナル數ヲ加フベキカ。

〔解答〕 甲乙ノ差  $112 - 12 = 100$  (コノ差ハ不變)  
甲ガ乙ノ 5 倍ノ時ノ乙數  $100 \div (5 - 1) = 25$   
加ヘベキ數  $25 - 12 = 13$

答 13

問 (2) 金 396 圓ヲ甲乙丙三人ニ分ツニ其所得ハ甲ト乙トハ 3:2、乙ト丙トハ 5:4 ナラシメントス。各々ノ所得何程ナルカ。

〔解答〕 甲乙丙ノ連比

甲 乙 丙

3 : 2

5 : 4

15 : 10 : 8  $15 + 10 + 8 = 33$

甲ノ所得  $396\text{圓} \times \frac{15}{33} = 180\text{圓}$

乙ノ所得  $396\text{圓} \times \frac{10}{33} = 120\text{圓}$

丙ノ所得  $396\text{圓} \times \frac{8}{33} = 96\text{圓}$

答 甲 180 圓 乙 120 圓 丙 96 圓



問(3) 或書籍ヲ定價ノ2割引ニテ買ヒ郵便料金20錢ト合セテ3圓8錢ヲ拂ヘリ、此ノ書籍ノ定價如何。

〔解答〕 書籍ノ買價 308錢-20錢=288錢  
定 價 288錢÷(1-0.2)=360錢

答 3圓60錢

問(4) 五十錢銀貨ト二十錢銀貨ト取り混ゼ12個アリ其總金高ハ3圓90錢ナリト云フ。各銀貨ノ個數ヲ求ム。

〔解答〕 12個ヲ全部五十錢銀貨ト見レバ金高

$$50\text{錢} \times 12 = 600\text{錢}$$

$$\text{其差ハ} \quad 600\text{錢} - 390\text{錢} = 210\text{錢}$$

$$\text{二十錢銀貨ノ數} \quad 210\text{錢} \div (50\text{錢} - 20\text{錢}) = 7$$

$$\text{五十錢銀貨ノ數} \quad 12 - 7 = 5$$

答 五十錢銀貨5個 二十錢銀貨7個

問(5)(イ) 4. 6. 14ノ何レデ割ツテモ3餘ル様ナ數ノ中デ1000ニ最モ近イモノハ何カ。

〔解答〕 條件ニ適スル數ノ最小ナモノハ L. C. M. (84) = 3ヲ加ヘタル(87)デアル。

$$1000 \text{ 中} = 84 \text{ ノ含マル、數} \quad 1000 \div 84 = 11 \cdots \cdots \text{殘} 76$$

$$1000 = \text{近イ數二ツハ} \quad 84 \times 11 + 3 = 927$$

$$84 \times 12 + 3 = 1011$$

1011ノ方ガ近シ

答 1011

問(5)(ロ) 100未満ノ素數ヲ舉ゲヨ。

〔解答〕 1. 3. 5. 7. 9. 11. 13. 15. 17. 19. 21. 23. 25.  
27. 29. 31. 33. 35. 37. 39. 41. 43. 45. 47.  
49. 51. 53. 55. 57. 59. 61. 63. 65. 67. 69.  
71. 73. 75. 77. 79. 81. 83. 85. 87. 89. 91.  
93. 95. 97. 99.

上ノ表ノ内3ノ倍數ヲ順ニ消ス (3カラ三ツ目毎)

次ニ5ノ倍數(5カラ五ツ目毎)ヲ消ス。

次ニ7ノ倍數(7カラ七ツ目毎)ヲ消ス。

9ノ倍數ハ3ノ倍數ノ時消シテアル故見ル必要ナシ。

故ニ消シタ殘リハ素數デアル。

答 1. 2. 3. 5. 7. 11. 13. 17. 19. 23. 29. 31. 37.

41. 43. 47. 53. 59. 61. 67. 71. 73. 79. 83.

89. 97.

問(5)(ハ) 10平方米ト10米平方トハ何坪ノ相違アルカ。

〔解答〕 10平方米ヲ坪ニナラス  $\frac{33}{60} \times \frac{33}{60} \times 10 = 3.025$

10米平方ヲ坪ニナラス  $\frac{33}{6} \times \frac{33}{6} = 302.5$

其ノ差 302.5坪 - 3.025坪 = 299.475坪

答 299.475坪



問(6) 甲が徒歩ニテ某地ヲ出發シテ若干日經テカラ乙が毎日 8 里ヅ、ノ速サニテ之ヲ追ヒ行ケバ 15 日デ追ヒツク。又毎日 16 里ヅ、ノ速サデ自轉車ニ乗ツテ追ヒ行ケバ 3 日デ追ヒツクト云フ。然ラバ毎日何里ノ速サデ追ヒ行ケバ 2 日デ追ヒツクカ。

〔解答〕

追ヒツクマデニ甲乙ガ歩ンダ里數ハ  $8\text{里} \times 15 = 120\text{里}$   
 自轉車デ乙ガ走ツタ里數ハ  $16\text{里} \times 3 = 48\text{里}$   
 甲ガ(15日-3日)ニ歩ム里數ハ  $120\text{里} - 48\text{里} = 72\text{里}$   
 甲一日ノ速サ  $72\text{里} \div 12 = 6\text{里}$   
 甲ガ乙ヨリ先ニ進ンダ里數  $(8\text{里} - 6\text{里}) \times 15 = 30\text{里}$   
 30里ヲ二日デ追ヒツク速サ  $30\text{里} \div 2 + 6\text{里} = 21\text{里}$

答 21里

問(7) 或人金1000圓デ甲乙二ヶ所ニ土地ヲ買ヒ甲地ハ 2 割ノ利ヲ得テ賣リ乙地ハ 3 割ノ損ヲシテ賣ツタガ結極 50 圓ノ利ヲ得タト云フ。甲乙兩地ノ買價ヲ問フ。

〔解答〕 モシ 1000 圓ニ買ヒ全部 2 割ヲ利スレバ

$1000\text{圓} \times 0.2 = 200\text{圓}$   
 實際トノ差  $200\text{圓} - 50\text{圓} = 150\text{圓}$   
 乙地ノ元金  $150\text{圓} \div (0.2 + 0.3) = 300\text{圓}$   
 甲地ノ買價  $1000\text{圓} - 300\text{圓} = 700\text{圓}$

答 甲700圓 乙300圓

問(8) 或 6 位ノ數ノ左端ノ數字ハ 1 デアル。之ヲ右端ニ移ストキハ元ノ數ノ 3 倍トナル數ニナルト云フ。元ノ數ヲ求メヨ。

〔解答〕 6 位ノ數ヲ 100000 ト $x$ トノ和ト見テ考ヘルト左端ノ 1 ヲ右端ニヤツタメ數ニ次ノヤウナ變動ガオコル。即 100000 ガ 1 ニナルカラ 99999 ヘル。  $x$  ノ 9 倍フェル。之ガ又

$$\frac{100000 \times 2 \text{ 増シ}}{299999 \text{ ハ}} \quad \frac{x \text{ ノ } 2 \text{ 倍モ増ス}}{x \text{ ノ } 7 \text{ 倍トナル}}$$

故ニ  $x$  ハ  $299999 \div 7 = 42857$   
 原數ハ  $100000 + 42857 = 142857$

答 142857

問(9) (イ) 圓周率ハ 3.1415926535 …… デアルコレヲ大約  $\frac{22}{7}$  ト見レバ其誤差幾何カ

〔解答〕  $\frac{22}{7} = 3.142857$

誤差  $3.142857 - 3.1415926 = 0.0012644$

答 0.0012644

問(9) (ロ)  $35 \times 27 + 56 - 21 \div 3 \times 9 =$

〔解答〕  $35 \times 27 + 56 - 21 \div 3 \times 9 = 945 + 56 - 63 = 998$

答 998

問(9) (ハ)  $\frac{7}{16} \times \frac{5}{6} + \frac{1}{9} \div \frac{4}{5} =$



〔解答〕  $\frac{7}{16} \times \frac{5}{6} + \frac{1}{9} + \frac{4}{5} = \frac{35}{96} + \frac{5}{36}$   
 $= \frac{105+40}{288} = \frac{145}{288}$   
 答  $\frac{145}{288}$

問(9) (=)  $7.57 + 1.73 \times 9 - 18.14$

〔解答〕  $7.57 + 1.73 \times 9 - 18.14 = 7.57 + 15.57 - 18.14 = 5$   
 答 5

問(10) 下記ヲ説明セヨ。

リットル センチメートル 匁 直線  
 圓錐 菱形 帯小數 通分 重心 半徑

〔解答〕 リットル 柵目ノ單位(メートル度量衡) 1000 cc  
 センチメートル メートル法長サノ一單位  $\frac{1}{100}$  米  
 匁 重量ノ單位(尺貫法) 1匁 =  $\frac{15}{4}$  瓦  
 直線 始終方向ノ變ラザル線ヲ直線ト云フ。  
 圓錐 一ツノ圓ト曲面トニテ圍ンタル形ヲ圓錐形ト云フ。  
 菱形 四邊ノ長サ等シキ平行四邊形  
 帯小數 小數 = 整數ヲ合セタモノ  
 通分 異分母分數ヲ同分母ノ分數トナスコト  
 重心 三角形ノ中線ノ交點  
 半徑 圓ノ中心ヨリ周ニ引ケル直線

(昭和8年7月1日施行)

(2時間)

問(1)  $(1.25 - \frac{35}{36} + 2\frac{5}{9}) + 0.68 \times (2 - \frac{8}{15})$  ヲ  
 計算セヨ。

〔解答〕  $(1.25 - \frac{35}{36} + 2\frac{5}{9}) + 0.68 \times (2 - \frac{8}{15})$   
 $= (1\frac{9}{36} - \frac{35}{36} + 2\frac{20}{36}) + \frac{68}{100} \times \frac{22}{15}$   
 $= 2\frac{30}{36} \times \frac{100}{68} \times \frac{22}{15} = 6\frac{1}{9}$  答  $6\frac{1}{9}$

問(2)  $0.75 + 7\frac{1}{5} \times \frac{5}{21} \div (0.5 - \frac{2}{7})$  ヲ計算セヨ

〔解答〕  $0.75 + 7\frac{1}{5} \times \frac{5}{21} \div (0.5 - \frac{2}{7})$   
 $= \frac{3}{4} + \frac{36}{5} \times \frac{5}{21} \div \frac{3}{14} = \frac{3}{4} + 8 = 8\frac{3}{4}$   
 答  $8\frac{3}{4}$

問(3)  $\frac{7\frac{2}{3} + 4\frac{1}{2} - (2.13 \times 3\frac{1}{2})}{11\frac{1}{20} - \{1.48 \div (6\frac{1}{6} + 2\frac{1}{3})\}}$  ヲ計算セヨ

〔解答〕  $\frac{7\frac{2}{3} + 4\frac{1}{2} - 7\frac{91}{200}}{11\frac{1}{20} - \{1\frac{12}{25} \div \frac{37}{14}\}} = \frac{4\frac{427}{600}}{11\frac{1}{20} - \frac{14}{25}}$



$$= \frac{4 \frac{427}{600}}{10 \frac{49}{100}} = \frac{2827}{600} \times \frac{100}{1049} = \frac{2827}{6294} \quad \text{答} \quad \frac{2827}{6294}$$

問(4) 「ボート」競漕=於テ甲艇ガ乙艇=追ヒツキテヨリ全ク離ル、迄1分30秒ヲ要セリ、若シ甲艇ノ速サヲ1分間=2間増シタランニハ18秒ダケ早く追セ越シ得タリシナラント云フ、甲艇ノ長サ乙艇ノ長サヨリ2尺長キトキハ兩艇ノ長サ各何程ナルカ。

〔解答〕 甲乙ノ速サノ差ヲ毎分 $x$ 間トスレバ  $x \times 1 \frac{1}{2}$  ト  
 $x \times 1 \frac{1}{5} + 2 \text{間} \times 1 \frac{1}{5}$  トハ等シイカラ  $2 \text{間} \times 1 \frac{1}{5} = 2 \frac{2}{5} \text{間}$   
 ハ甲乙ノ差ノ $(1 \frac{1}{2} - 1 \frac{1}{5})$ 倍=アタル。

故=甲乙ノ速サ(毎分)ノ差ハ  
 $(2 \text{間} \times 1 \frac{1}{5}) + (1 \frac{1}{2} - 1 \frac{1}{5}) = 8 \text{間}$

兩艇ノ長サノ和ハ  $8 \text{間} \times 1 \frac{1}{2} = 12 \text{間}$

甲艇ノ長サ  $(72 \text{尺} + 2 \text{尺}) \div 2 = 37 \text{尺}$

乙艇ノ長サ  $(72 \text{尺} - 2 \text{尺}) \div 2 = 35 \text{尺}$

答 甲 37尺 乙 35尺

問(5) 時計ノ兩針ガ三時ノ後始メテ重ナリ合フ時ヲ問フ。又其一直線ヲナス時間如何。

〔解答〕 三時=長針ハ短針ヨリ15分オクレテ居ル。兩針ガ重ナル=ハ其ノ15分ダケヲ長針ガ短針ヨリ多クス、メバヨ

イ。

長針ガ一分行ク間=短針ハ $\frac{1}{12}$ 分行ク

求ムル時間ハ  $15 \text{分} + (1 - \frac{1}{12}) = 16 \frac{4}{11} \text{分}$

一直線ヲナスニハ15分追ヒツキ更=30分先=進マネバナラス

求ムル時間ハ  $45 \text{分} + \frac{11}{12} = 45 \text{分} \times \frac{12}{11} = 49 \frac{1}{11} \text{分}$

答  $\left\{ \begin{array}{ll} \text{重ナル時刻} & 3 \text{時} 16 \frac{4}{11} \text{分} \\ \text{1直線ヲナス時刻} & 3 \text{時} 49 \frac{1}{11} \text{分} \end{array} \right.$

問(6) 或人所持金ノ $\frac{1}{3}$ ヲ以テ甲株ヲ賣買シテ2割8分ノ利ヲ得、残リヲ以テ乙株ヲ賣買シテ1割6分ヲ損シ、結局80圓ノ損ヲナセシガ、若シ反對=所持金ノ $\frac{1}{3}$ ヲ以テ乙株ヲ賣買シ、残リヲ以テ甲株ヲ賣買セバ損益如何。

〔解答〕 所持金ヲ1トスレバ利益ハ  $0.28 \times \frac{1}{3} = \frac{0.28}{3}$

損失ハ  $0.16 \times \frac{2}{3} = \frac{0.32}{3}$

故=所持金ハ  $80 \text{圓} + (\frac{32}{300} - \frac{28}{300}) = 6000 \text{圓}$

反對=セルトキノ利益  $4000 \text{圓} \times 0.28 = 1120 \text{圓}$

〃 損失  $2000 \text{圓} \times 0.16 = 320 \text{圓}$

故=利益  $1120 \text{圓} - 320 \text{圓} = 800 \text{圓}$

答 800圓



問(7) 何レモ7ヨリ大ナル2ツノ數アリ、其ノ最小公倍數ハ105ニシテ其ノ最大公約數ハ7ナリ。此二數ヲ求ム。

〔解答〕 2 數ヲ最大公約數デ割ツタ商ノ積  $105 \div 7 = 15$   
 $15 = 5 \times 3$   
 求ムル2數  $7 \times 5 = 35$  及ビ  $7 \times 3 = 21$   
 答 35, 21

問(8) 井戸ノ深サヲ測ラントシテ繩ヲ2ツ折ニシテ入レタルニ9尺餘レリ。又3ツ折ニシテ入レタルニ今度ハ1尺餘レリ、井戸ノ深サ如何。

〔解答〕 繩ノ長サハ井戸ノ深サノ2倍ト  $9 \text{尺} \times 2 = 18 \text{尺}$  トノ和  
 又 井戸ノ深サノ3倍ト  $1 \text{尺} \times 3 = 3 \text{尺}$  トノ和  
 故ニ井戸ノ深サハ  $(18 \text{尺} - 3 \text{尺}) \div (3 - 2) = 15 \text{尺}$   
 答 15尺

問(9) 甲乙ノ會社員アリ、毎月ノ收入4:3ニシテ又支出ノ比ハ18:13ナリ。而シテ一ケ年間ニ兩人各々144圓ヲ殘セリト云フ。毎月ノ甲乙ノ收入如何。

〔解答〕 一ケ月ノ兩人ノ殘金ハ各  $144 \text{圓} \div 12 = 12 \text{圓}$   
 收入ノ比  $4:3 = 36:27$   
 支出ノ比  $18:13 = 36:26$   
 甲ノ收入ヲ1トスレバ乙ハ  $\frac{27}{36}$

支出ハ 甲:乙 =  $1 : \frac{26}{36}$

モシ收入ト同シ割ニ支出スレバ乙ノ殘金ハ

$$12 \text{圓} \times \frac{3}{4} = 9 \text{圓}$$

故ニ甲ノ支出  $(12 \text{圓} - 9 \text{圓}) \div \frac{1}{36} = 108 \text{圓}$

カ 收入  $108 \text{圓} + 12 \text{圓} = 120 \text{圓}$

乙カ  $120 \text{圓} \times \frac{3}{4} = 90 \text{圓}$

答 甲120圓、乙90圓

問(10) 或人資本金ヲ甲乙ノ二部ニ等分シテ營業シタルニ、甲部ハ2割ノ利ヲ得、乙部ニテハ1割5分ノ利ヲ得タルニ其利益金ノ差30圓ナリト云フ。此ノ總資本金如何。

〔解答〕 甲乙ノ資本ハ各  $30 \text{圓} \div (0.2 - 0.15) = 600 \text{圓}$   
 總資本  $600 \text{圓} \times 2 = 1200 \text{圓}$   
 答 1200圓

### — < 福島運輸事務所 > —

#### 中學校卒業者に對する分 (1時間30分)

問(1) 或仕事ヲスルニ甲ダケデハ6時間、乙ダケデハ8時間、丙ダケデハ9時間カカル。此仕事ヲ甲ガ  $1\frac{1}{2}$  時間、乙ガ2時間シテ殘リヲ丙ガスルト丙ハ幾時間働カネバナラヌカ。

〔解答〕 甲乙二人ガ成シタ殘リハ  
 $1 - \left( \frac{1}{6} \times 1\frac{1}{2} + \frac{1}{8} \times 2 \right) = \frac{1}{2}$



丙ガナン終ル時間  $\frac{1}{2} \div \frac{1}{9} = 4\frac{1}{2}$  答  $4\frac{1}{2}$ 時

問(2) 横ト縦トノ比ガ 2:3 = シテ 54 平方米ノ  
面積アル矩形ノ横縦各幾米ナルカ。

[解答]  $54 \div (2 \times 3) = 9$   $\sqrt{9} = 3$   
横  $2 \times 3 = 6$  縦  $3 \times 3 = 9$

答 横 6米、縦 9米

## 代 數

問(3) 次式ヲ因數ニ分解セヨ。

$$a^2 + b^2 + c^2 + 2ab + 2bc + 2ca$$

[解答]  $a^2 + b^2 + c^2 + 2ab + 2bc + 2ca$   
 $= (a^2 + 2ab + b^2) + 2bc + 2ca + c^2 = (a+b)^2 + 2c(a+b) + c^2$   
 $= \{(a+b) + c\}^2 = (a+b+c)^2$

答  $(a+b+c)^2$

(備考) 此ノ因數分解ハ公式トシテ記憶シテオクベキモノデアルカラ  
公式ニヨリ  $a^2 + b^2 + c^2 + 2ab + 2bc + 2ca = (a+b+c)^2$  ト答ヘテ  
モヨイ。

問(4) 次ノ聯立方程式ヲ解ケ。

$$\begin{aligned} 2x - 3y + z &= 1 & 3x - 4y - 2z &= 20 \\ 5x - 7y + 3z &= 5 \end{aligned}$$

[解答]  $2x - 3y + z = 1 \dots\dots(1)$   
 $3x - 4y - 2z = 20 \dots\dots(2)$

$$5x - 7y + 3z = 5 \dots\dots(3)$$

$$\begin{aligned} (1) \times 2 & \quad 4x - 6y + 2z = 2 \\ (2) & \quad +) 3x - 4y - 2z = 20 \\ & \quad \quad 7x - 10y = 22 \dots\dots(4) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (1) \times 3 & \quad 6x - 9y + 3z = 3 \\ (3) & \quad -) 5x - 7y + 3z = 5 \\ & \quad \quad x - 2y = -2 \dots\dots(5) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (4) & \quad 7x - 10y = 22 \\ (5) \times 5 & \quad -) 5x - 10y = -10 \\ & \quad \quad 2x = 32 \end{aligned}$$

$$x = 16$$

$x = 16$  ヲ 5 = 代入ス

$$\begin{aligned} 16 - 2y &= -2 \\ -2y &= -18 \\ y &= 9 \end{aligned}$$

$x, y$  ノ値ヲ (1) = 代入ス

$$\begin{aligned} 32 - 27 + z &= 1 \\ z &= -4 \end{aligned}$$

答  $x = 16$   $y = 9$   $z = -4$

問(5) 次式ヲ簡單ニセヨ。

$$\frac{\frac{a}{b} + \frac{b}{a} + 2}{\frac{1}{a} + \frac{1}{b}}$$

[解答]  $\frac{\frac{a}{b} + \frac{b}{a} + 2}{\frac{1}{a} + \frac{1}{b}} = \frac{\frac{a^2 + b^2 + 2ab}{ab}}{\frac{b+a}{ab}} = \frac{(a+b)^2}{ab} \times \frac{ab}{(a+b)}$   
 $= (a+b)$  答  $a+b$



## 尋常小學校卒業者に對する分 (1時間 30分)

$$\text{問 (1)} \quad \frac{7\frac{1}{2}}{3 + \frac{2}{5 - \frac{2}{1 - \frac{1}{7}}}}$$

〔解答〕

$$\begin{aligned} \frac{7\frac{1}{2}}{3 + \frac{2}{5 - \frac{2}{1 - \frac{1}{7}}}} &= \frac{7\frac{1}{2}}{3 + \frac{2}{5 - \frac{2}{\frac{6}{7}}}} \\ &= \frac{7\frac{1}{2}}{3 + \frac{2}{5 - \frac{14}{6}}} = \frac{7\frac{1}{2}}{3 + \frac{2}{2\frac{2}{3}}} = \frac{7\frac{1}{2}}{3 + \frac{3}{4}} \\ &= \frac{7\frac{1}{2}}{3\frac{6}{8}} = \frac{15}{2} \times \frac{8}{30} = 2 \end{aligned}$$

答 2

問 (2) 或人工事ヲナス = 最初ノ日大工 5 人ト人夫 4 人ヲ雇フテ其賃金 12 圓 40 錢ヲ支拂ヒ、次ノ日左官 3 人ト大工 2 人ヲ雇ヒ 賃金 7 圓 50 錢ヲ支拂ヒ、更ニ次ノ日ハ人夫 5 人ト左官 2 人ヲ雇ヒテ其賃金 6 圓 85 錢ヲ支拂ツタト云フ。然ラバ大工左官人夫各一日ノ賃錢幾何カ。

〔解答〕 大工 5 人左官 7.5 人ニテハ  $750\text{錢} \times 2.5 = 1875\text{錢}$ 

左官 7.5 人分ト人夫 4 人分ノ差  $1875\text{錢} - 1240\text{錢} = 635\text{錢}$   
 左官 30 人分ト人夫 16 人分トノ差  $635\text{錢} \times 4 = 2540\text{錢}$   
 左官 30 人分ト人夫 75 人分トノ和  $685\text{錢} \times 15 = 10275\text{錢}$   
 人夫 91 人分ハ  $10275\text{錢} - 2540\text{錢} = 7735\text{錢}$   
 人夫 1 人分ハ  $7735\text{錢} \div 91 = 85\text{錢}$   
 大工 1 人分ハ  $(1240\text{錢} - 85\text{錢} \times 4) \div 5 = 180\text{錢}$   
 左官 1 人分ハ  $(750\text{錢} - 180\text{錢} \times 2) \div 3 = 130\text{錢}$

答 大工 1 圓 80 錢 左官 1 圓 30 錢 人夫 85 錢

問 (3) 或列車ガ或驛間ヲ走ル = 毎時 50 秆ノ速サナル時ハ 2 分遅延スベキヲ以テ毎時 60 秆ノ速サニテ走ツタラ 2 分早く着シタト云フ。兩驛間ノ距離如何。

〔解答〕 50 秆ノ速サデ定刻マデ進メバ着驛ノ手前ニアルコト

$$\frac{50}{60}\text{秆} \times 2 = 1\frac{2}{3}\text{秆}$$

60 秆ノ速サデ定刻マデ進メバ着驛ヨリ先ニ行クコト

$$\frac{60}{60}\text{秆} \times 2 = 2\text{秆}$$

兩驛間ノ豫定時間ハ  $(2\text{秆} + 1\frac{2}{3}\text{秆}) \div (1\text{秆} - \frac{5}{6}\text{秆}) = 22$ 兩驛間ノ距離  $\frac{5}{6}\text{秆} \times (22 + 2) = 20\text{秆}$ 

答 20 秆

問 (4) 金 250 圓ヲ甲乙丙 3 人ニテ出金スルコトアリ其ノ割合甲ノ出金ノ 9 倍ハ乙ノ出金ノ 10 倍ニ等シク乙ノ出金ノ 2 倍ハ丙ノ出金ノ 3 倍ニ等シト云フ。甲乙丙 3 人ノ出金額各幾何。



〔解答〕 甲乙丙出金ノ連比ヲ求ム

|    |   |   |             |
|----|---|---|-------------|
| 甲  | 乙 | 丙 |             |
| 10 | 9 |   | $10+9+6=25$ |
|    | 3 | 2 |             |
| 10 | 9 | 6 |             |

甲ノ出金  $250\text{圓} \times \frac{10}{25} = 100\text{圓}$

乙ノ出金  $250\text{圓} \times \frac{9}{25} = 90\text{圓}$

丙ノ出金  $250\text{圓} \times \frac{6}{25} = 60\text{圓}$

答 甲 100 圓 乙 90 圓 丙 60 圓

問(5) 或ル人金若干圓ヲ所持セシニ更ニ 60 圓ヲ得其現在高ノ  $\frac{1}{5}$  ヲ消費シ次ニ又 96 圓ヲ得、其現在高ノ  $\frac{1}{8}$  ヲ消費セシニ最初ノ所持金ヨリ  $\frac{1}{6}$  ダケ多クナレリト云フ。最初ノ金高幾何ナルカ。

〔考へ方〕 此種ノ問題ハ問題ヲ其礎一ツノ式ニ表ハシテ見ルトヨクワカル初メノ所持金ヲ 1 トスルト次ノ様ニナル。

$$\left\{ (1+60\text{圓}) \times \frac{4}{5} + 96\text{圓} \right\} \times \frac{7}{8} = 1 - \frac{1}{6}$$

$$\left\{ \right\} \text{ノ中ハ } 1 - \frac{1}{6} + \frac{7}{8} = 1 - \frac{1}{3} \text{ トナルカラ}$$

$$\frac{4}{5} + 60\text{圓} \times \frac{4}{5} + 96 = 1 - \frac{1}{3} \text{ トナル。}$$

$$\text{故ニ } 1 - \frac{1}{3} \text{ ト } \frac{4}{5} \text{ トノ差ガ } 48\text{圓} + 96\text{圓} \text{ ニアタル。}$$

〔解答〕 最初ノ所持金ヲ 1 トスレバ最後ノ所持金ハ  $1 - \frac{1}{6}$  トナル

$$96\text{圓ヲ得タ時ノ所持金ハ } 1 - \frac{1}{6} \div \frac{7}{8} = 1 - \frac{1}{3}$$

$$\text{第一回ニ費シタ残リハ } \frac{4}{5} \text{ ト } 60\text{圓} \times \frac{4}{5} = 48\text{圓}$$

故ニ最初ノ所持金ハ

$$(48\text{圓} + 96\text{圓}) \div \left( 1 - \frac{1}{3} - \frac{4}{5} \right) = 270\text{圓}$$

答 270 圓

— ◁ 山形運輸事務所 ▷ —

(昭和7年9月11日施行)

(1時間30分)

問(1) 次ノ式ヲ計算セヨ。

$$2657 - 168 \div 12 + 132 \times 7 - 56 \times 13 =$$

〔解答〕  $2657 - 168 \div 12 + 132 \times 7 - 56 \times 13$

$$= 2657 - 14 + 924 - 728 = 2839$$

答 2839

問(2) 或會合デ來會者 26 人一同記念寫眞ヲ撮リ各 1 枚ヲ買フコトニシタ、寫眞料ハ原版 3 枚ガ 3 圓 50 錢デ焼増料ハ 1 枚毎ニ 30 錢デアルト云フ、平均 1 人カラ幾ラノ寫眞料ヲ集ムレバヨイカ。

〔解答〕 焼増料金  $30\text{錢} \times (26 - 3) = 690\text{錢}$

$$\text{平均 1 人ノ出金額 } (350\text{錢} + 690\text{錢}) \div 26 = 40\text{錢}$$

答 40 錢

問(3) 48 間ツツ隔テ、立テル 64 本ノ電柱ノ兩端ノ 2 本ヲ殘シ置キ其ノ他ヲ取り除キ更ニ此兩柱ノ間ニ逐次等距離ヲ隔テ、83 本ノ電柱ヲ樹ツルトキハ柱ト柱トノ距離幾何カ。



〔解答〕 両端ノ2本ノ電柱間ノ距離  $48間 \times 63 = 3024間$   
 後ノ電柱間ノ距離  $3024間 \div 84 = 36間$   
 答 36間

問(4) 財布ノ中ニ金若干圓アリ其半額ヲ費シタル  
 後3圓68錢ヲ入レ更ニ現在額ノ半分ト1圓27錢  
 トヲ消費シタル後尙3圓殘レリト云フ、最初財布  
 ノ中ニ幾何アリシカ。

〔解答〕 3圓68錢ヲ入レタ後ノ金高ハ  $(3圓 + 127錢) \times 2 = 854錢$   
 3圓68錢ヲ入レナイ前  $854錢 - 368錢 = 486錢$   
 最初ノ金高  $486錢 \times 2 = 972錢$   
 答 9圓72錢

問(5) 5個ノ連続整数アリ其ノ和ハ80ナリト云  
 フ各數幾何。

〔解答〕 5個ノ内最小ナル數ノ5倍ハ  $80 - 4 - 3 - 2 - 1 = 70$   
 最小ナル數ハ  $70 \div 5 = 14$   
 他ハ順ニ 15, 16, 17, 18 ナリ  
 答 14, 15, 16, 17, 18ノ5個ナリ

(昭和8年11月5日施行)

## 算術

中學校卒業者に對する分 (2時間)

問(1) 一直線上ニA, B, C, Dノ四驛アリ。ADノ  
 間ハ19秆、BCノ間ハ8秆トス。今甲ハAヨリ  
 乙ハDヨリ同時ニ出立シ、乙ガBヨリ1秆手前  
 ノ某所ニ着セシトキ甲ハCヲ過グルコト  $3\frac{1}{3}$ 秆  
 ナリキ、然ラバAB及CDノ距離如何。但シ毎時  
 ノ速サ甲ハ2.5秆、乙ハ1.5秆トス。

〔考へ方〕 甲ハEマデ、乙

ハFマデ同時ニ着イタト

スル。

$BF = 1$ 秆、 $CE = 3\frac{1}{3}$ 秆、 $BC = 8$ 秆

$EF = 8$ 秆 +  $3\frac{1}{3}$ 秆 - 1秆 =  $10\frac{1}{3}$ 秆、コレダケハ甲モ乙モ歩イタ。

〔解答〕  $8$ 秆 +  $3\frac{1}{3}$ 秆 - 1秆 =  $10\frac{1}{3}$ 秆、甲乙兩人共歩イタ部分

$19$ 秆 +  $10\frac{1}{3}$ 秆 =  $29\frac{1}{3}$ 秆 二人デ或時間ニ歩イタ長サ

$2.5$ 秆 +  $1.5$ 秆 = 4秆 二人ガ1時間ニ進ム和

$29\frac{1}{3}$ 秆 + 4秆 =  $7\frac{1}{3}$  二人ガ歩イタ時間

$2.5$ 秆  $\times 7\frac{1}{3}$  =  $18\frac{1}{3}$  甲ノ歩イタ距離

$19$ 秆 -  $18\frac{1}{3}$ 秆 +  $3\frac{1}{3}$ 秆 = 4秆 CDノ距離

$19$ 秆 - ( $8$ 秆 + 4秆) = 7秆 ABノ距離

答 AB間7秆、CD間4秆



## 代 數

問(2)  $(a-b)^4 - 2(a^2+b^2)(a-b)^2 + 2(a^4+b^4)$  の平方根ヲ求メヨ。

〔解答〕  $(a-b)^4 - 2(a^2+b^2)(a-b)^2 + 2(a^4+b^4)$

第二項マデハ  $\{(a-b)^2 - (a^2+b^2)\}^2 =$  アテハマルガ第三

項ハハマラナイソレデ全部ヲ一度展開シテ整理スルト

$a^4 + 2a^2b^2 + b^4$  トナル之ヲ開平スルト

$(a^2+b^2)$  トナルコトハ一見シテ誰モモワカルコトデアル

答  $a^2+b^2$

## 幾 何

問(3) 同ジ底ノ上ニ立ツ2ツノ二等邊三角形ノ頂點ヲ結び付ケル直線ハ共通ノ底ノ垂直二等分線ナルコトヲ證明セヨ。

〔解答〕 (假説)  $\triangle ABC$

$\triangle BCD$  ハ同ジ底  $BC$  上ニ

立ツ三角形ナリトス

(終結)  $AD$  ハ  $BC$  ヲ直角ニ

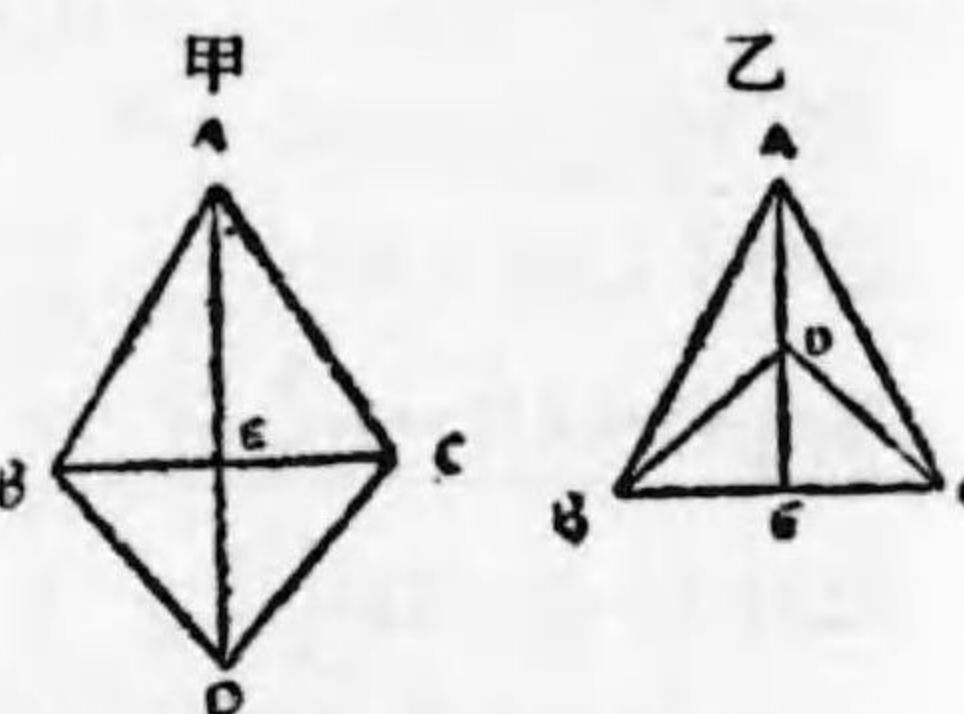
二等分ス

(證明)  $\triangle ABD$  ト  $\triangle ACD$  トハ合同 (三邊相等シ)

故ニ  $\angle BAD = \angle CAD$

$\triangle BAE$  ト  $\triangle ACE$  トハ合同 (二邊狹角等シ)

故ニ  $BE = CE$   $\angle AEB = \angle AEC = 90^\circ$



## 三 角

問(4)  $\frac{1 - \tan^2(45^\circ - A)}{1 + \tan^2(45^\circ - A)} = \sin 2A$  ヲ證セヨ。

〔解答〕

$$\begin{aligned} \frac{1 - \tan^2(45^\circ - A)}{1 + \tan^2(45^\circ - A)} &= \frac{1 - \frac{\sin^2(45^\circ - A)}{\cos^2(45^\circ - A)}}{1 + \frac{\sin^2(45^\circ - A)}{\cos^2(45^\circ - A)}} \\ &= \frac{\cos^2(45^\circ - A) - \sin^2(45^\circ - A)}{\cos^2(45^\circ - A) + \sin^2(45^\circ - A)} \\ &= \cos^2(45^\circ - A) - \sin^2(45^\circ - A) = \cos^2(45^\circ - A) \\ &= \cos(90^\circ - 2A) = \sin 2A \end{aligned}$$

## 尋常小學校卒業者に對する分 (1時間 30分)

問(1) 次ノ式ヲ計算セヨ。

(a)  $(3\frac{2}{3} - 2.6 + 1\frac{3}{5}) + 5\frac{1}{3} =$

(b)  $7.6 \times 3.24 \div 0.259 =$   
(小數三桁未滿ヲ切捨テヨ)

〔解答〕 (a)  $(3\frac{2}{3} - 2.6 + 1\frac{3}{5}) + 5\frac{1}{3} =$

$$= (3\frac{2}{3} - 2\frac{3}{5} + 1\frac{3}{5}) + 5\frac{1}{3} = 2\frac{2}{3} + 5\frac{1}{3}$$

$$= \frac{8}{3} \times \frac{3}{16} = \frac{1}{2} \quad \text{答 } \frac{1}{2}$$

(b)  $7.6 \times 3.24 \div 0.259 = 95.073 \quad \text{答 } 95.073$



問(2) 長さ80メートルノ汽車ガ640メートルノ  
鐵橋ヲ通過スルニ要シタル時間ハ45秒ナリシト  
云フ。然ラバ其ノ汽車ノ毎秒ノ速サハ如何。

[解答]  $80m + 640m = 720m$       45秒間 = 進ンダ長さ  
 $720m \div 45 = 16m$       1秒ノ速サ

答 16米

問(3) 水道ノ管カラ1時20分間 = 16キロリットル  
ノ水ヲ出セバ8時間 = 幾ラノ水ガ出ルカ。

[解答]  $1\frac{1}{3} : 8 = 16kl : x$        $x = \frac{8 \times 16 \times 3}{4} = 96kl$

答 96キロリットル

問(4) 甲乙二人各々等額ノ金ヲ有ス。甲ハ之ヲ以  
テ商業ヲ營ミ金94圓ノ利益ヲ得。乙ハ之ヲ以テ  
株券ヲ買ヒ金71圓ノ損ヲナセリ。依リテ乙ノ所  
有金ハ甲ノ $\frac{13}{18}$ トナレリト云フ、始メノ所有金ヲ  
問フ。

[解答]  $94圓 + 71圓 = 165圓$       後ノ甲乙ノ所持金ノ差  
 $165圓 \div \left(1 - \frac{13}{18}\right) = 594圓$       後ノ甲ノ所持金  
 $594圓 - 94圓 = 500圓$       始メノ所持金

答 500圓

問(5) 甲ノ3倍ト乙ノ $2\frac{1}{5}$ 倍ト其ノ數相等シ、  
而シテ甲乙ノ差ハ80ナリト云フ各數如何。

[解答] 甲乙ノ比ハ  $2\frac{1}{5} : 3 = 11 : 15$

甲ヲ1トスレバ乙ハ $\frac{15}{11}$       甲乙ノ差  $\frac{15}{11} - 1 = \frac{4}{11}$

甲ハ  $80 \div \frac{4}{11} = 220$

乙ハ  $220 \times \frac{15}{11} = 300$       答 甲 220、乙 300



## 國語作文之部

### —〈仙臺鐵道局庶務課〉—

(昭和8年5月7日施行)

#### 給仕採用に對する分 (1時間)

問(1) 次の語に讀假名をつけて下さい。

1. 雜木。
2. 蕎麥。
3. 體裁。
4. 秩序。
5. 硫黃。
6. 需要。
7. 習慣。
8. 團扇。
9. 手向山。
10. 三顧。

〔解答〕 (讀假名) 1. 雜木。<sup>ヤブキ(ヤブキ)</sup> 2. 蕎麥。<sup>ソバ(クワバク)</sup> 3. 體裁。<sup>タイサイ</sup> 4. 秩序。<sup>チヨジヨ</sup>

5. 硫黃。<sup>ユロウ</sup> 7. 習慣。<sup>レフクワン</sup> 8. 團扇。<sup>ウチハ(ダンセン)</sup> 9. 手向山。<sup>テムケヤマ</sup> 10. 三顧。<sup>サンコ</sup>

(備考) (1)(2)(8)の如きは括弧内の音讀を前にすべきであるが、出題者の求むる所は、訓讀にあるのだから、訓讀に従ふべきである。(5)(7)の如きは其の儘でもよいが、括弧内にリウワウ又はナラハシとしても宜しい。

問(2) 次の語を書取りなさい。

1. キケン (あぶないこと)
2. シウキ (まはり)
3. サイバン (さばくこと)
4. カンゲキ (ひじやうにかんしんすること)
5. シユミ (おもしろみ)
6. キソ (どだい)
7. セイトン (ととのへること)
8. オモカゲ (やうす。ありさま)
9. タンケン (さぐりしらべる)
10. ピンソク (すばやいこと)

〔解答〕 1. 危険。 2. 周囲。 3. 裁判。 4. 感激。 5. 趣味  
6. 基礎。 7. 整頓。 8. 面影。 9. 探検。(探險)。 10. 敏速。

(備考) 探險とは險難を侵して、實地を取調ぶること。

問(3) 次の語句を解釋せよ。

1. 寢食を忘れる。
2. 男子の面目。
3. 名残を留む。
4. 多少の相違。
5. 勤儉の美風。
6. 防備をさをさ怠なし。
7. 中正不偏。
8. 喜捨。
9. 立春。
10. いたましい報知。

〔解答〕 1. 寢食を忘れる——寝ることも食ふことも忘れること。仕事や勉強等に熱心な時の形容に用ひる。  
2. 男子の面目——男子としてのほまれ。男子たる者の名譽。  
3. 名残を留む——餘情を残す。時はたつても餘韻の未だ掬すべきものあるにいふ。  
4. 多少の相違——いくらかのちがひ。  
5. 勤儉の美風——仕事につとめ、物をつづまやかにして、奢らないことの美しいならし。  
6. 防備をさをさ怠なし——防禦の準備が大方怠りがない。  
7. 中正不偏——どちらにも片寄らず正しきにいふ。(不偏は餘分である。中正だけでも其意味がある。)  
8. 喜捨——喜んで財寶を棄てる義。貧人に物を施し與へること。めぐむこと。佛に物を供ふることにもいふ。  
9. 立春——大寒の次に來る氣節で、春の節に入つた第一日のこと。(陰曆ならば正月節、陽曆ならば二月三日頃。二十四氣の第一。)  
10. いたましい報告——悲しみなげくべき知らせ。(訃報など。)



問(4) 左の語を使つて短文を作りなさい。

1. 意氣揚々。 2. 満足な結果。 3. つつがなく。
4. 寢食を忘れて。 5. なるべし。 6. ならん。
7. 甚だ切なり。 8. 結果。

〔解答〕(短文) 1. 意氣揚々——「意氣揚々として、馬上に鞭を揮ふは誰だ。」

2. 満足な結果——「あんな遣り方で、満足な結果が得られよう筈がないではないか。」

3. つつがなく——「つつがなく御到着遊ばされました由、何より悦ばしきことに存じ上げます。」

4. 寢食を忘れて——「彼や寢食を忘れて事業に勤む。成功は必ず近きにあるべし。」

5. なるべし——「此の空模様にては明日は必ず雨天なるべし。」  
「學生たる者は常に勤勉なるべし。」

6. ならん——「明日は天氣ならん。星透間もなく出でたれば。」

7. 甚だ切なり——「相別れて早くも半歳、君を思ふの情や甚だ切なり。」

8. 結果——「原因はよくても結果が悪るけりや何にもなるまい。」

### —▷仙臺運輸事務所◁—

(昭和8年5月7日施行)

中學校卒業者に對する分(1時間)

問(1) 左ノ語句ノ讀ミ假名ヲ( )内ニ、其ノ意味ヲ下ニ書ケ。

述懐( ) 戮力( ) 版圖( )  
巷説( ) 曠日彌久( )

〔解答〕(讀ミ假名・意味) 述懐——自分の思ひを述べること  
所懐を述ぶること。

戮力——(力をあはせること。一致協力すること。)勦力も同じ

版圖——戸籍と地圖との義から、(領分・領地)の意に用ふ。

巷説——(風説・下世話。町とか村で噂せられる話のこと。)巷談・街談・巷語等皆同義。

曠日彌久——(日をむなしくして、久しきにわたること。無駄に月日を過すにいふ。ベンベンと長びくこと。)積日累久に同じ。

問(2) 左ノ片假名ノ部ヲ漢字ニ改メ( )内ニ書ケ  
キヨシウに迷ふ( ) クワツモクして待て  
( ) 赤心をヒレキせよ( ) 人材をカンバツする( ) 財政ハタンした( )

〔解答〕キヨシウに迷ふ——(去就) クワツモクして待て——(刮目) 赤心をヒレキせよ——(披瀝) 人材をカンバツする——(簡拔) 財政ハタンした——(破綻)

問(3) 左ノ文ヲ解釋セヨ。

(イ) 若シ成者皆是ニシテ敗者必ズ非ナラバ君子不遇ノ歎アラズシテ正人雪冤ヲ後代ニ望ム慨ナカルベシ

(ロ) 俗識ハ直覺ト經驗カラ生ジ學識ハ概括ト分析トカラ生ズル學問ハ事物ノ組織成分ヲ明カニ



シ共通ノ點ヲ概括綜合シテ其ノ原則ヲ知ルノデア  
アル

- [解答] (イ) 若しも世の中の成功者なる者が、皆一人残らず  
ヨクテ、失敗者なる者が屹度ワルイのであるならば、學徳具  
備した所謂君子は、世の中に容れられず、用ひられぬといふ  
數ぎもなく、心正しき人が無實の罪に陥れられたのを、後世  
の人に依つて雪いで貰はうと希望するが様な慨はないであら  
う。(然るに世の中は逆で、成者が寧ろ非で、敗者は兎角是  
と見られるのはどしたことか。)
- (ロ) 俗識といふものは、自己が直接に知るといふこと、實  
際に見聞した知識とから生ずるものであるが、學識といふも  
のは、學んだ所をひとまとめにくるめると、種々に分解  
して見ることとから生ずるものである。故に學問をすれば事  
物の組立や、其れを組成する分子をはつきり分るやうにし  
て、双方の共通點を、或はくるめてひとまとめにしたり、或  
はすべあはせたりして、學問の根本となる規則を知ることが  
出来るのだ。

### 尋常小學校卒業者に對する分 (1時間)

問(1) 左ノ語句ノ右側ニ讀ミ假名ヲ附ケ、下ニ意  
味ヲ書ケ。  
勸誘。 沒收。 精巧。 遊説。 聯盟。

- [解答] (讀ミ假名・意味) 勸誘——<sup>カウレイウ</sup>すゝめさそふこと。  
沒收——<sup>モツレユ(ボツレウ)</sup>裁判所又は政府で物品を取上げるにいふ。但し朋友間  
等に於て、相手の物品を取上げるのに、軽く用ふることもある。

精巧——組織がこまかでたくみなこと。細工のこまかなること。

手馴れて巧みなのにいふ。

遊説——政黨員等が自黨を有利に導かうとして、四方を説き廻  
ること。(もと四方の國君・諸侯を説廻つて、是非利害をさ  
とし、自説を述べたこと。)

聯盟——一同が共に誓ふこと。心を同じうする人々とか國家等  
が、申合せて誓ふこと。

問(2) 左ノ語句ト反對ノ意味ノ熟語ヲ漢字ニテ  
( )内ニ書ケ  
光明。 平凡。 貧賤。 成功。 怠惰。

- [解答] (反對語) 光明——(暗黒) 平凡——(非凡) 貧賤  
——(富貴) 成功——(失敗・不成功) 怠惰——(勤勉)

問(3) 左ノ文ノ意味ヲ下ニ書ケ  
理非自ラ明カナリ。 餘生ヲ安樂ニ送ル。  
消息絶エタリ。 過ギタルハ及バザルガ如シ。

- [解答] (意味) 理非自ラ明カナリ——道理に叶つてゐるか否か  
が、自然と分つてゐる。

餘生ヲ安樂ニ送ル——今後の生涯を安らかに楽しく暮す。

消息絶エタリ——音信がすっかり無くなつた。

過ギタルハ及バザルガ如シ——物事は中庸を貴ぶとの意。物事  
は中道を過ぐれば、却つて及ばないのに等しいから、過不足  
なきが宜しい。



## 作文

### 中學校卒業者に對する分 (1時間)

#### 『題』 吾が社會觀 (文體隨意)

現代社會は複雑にして、一概に之を論ずることは出来ない。學問の道開け、西洋文明の輸入と共に、赤といひ黒といひ、右といひ左といひ、ブルといひプロといひ、エロといひグロといふもの、輸入若くは國內に生じて、之れを單純なりし以前に比すべくもない。而して浮華輕佻の風は、衣・食・住の上に、日を逐うて吹き荒んで居る。斯くて名利にのみあこがる徒輩が、堅實なるべき日本魂を傷つけ、國民精神は日に萎靡しつゝあるではないか。

かるが故に、是れを憂へさせ給へる、國民精神作興に關する上御一人の詔書は、世々に幾度煥發せられたか。畏くも

「輓近學術益々開ケ人智日ニ進ム。然レトモ浮華放縱ノ習漸ク萌シ輕佻詭激ノ風モ亦生ス」

と仰せられてある。接するに「學術の進歩は喜ばしいが、之れに伴ふ副産物の浮華輕佻の惡風が恐ろしい」との大御心に外ならぬと、拜察し奉られるのである。又、

「今ニ及ンテ時弊ヲ革メスムハ或ハ前緒ヲ失墜セムコトヲ恐ル」

とも、御軫憂遊ばされてある。前者といひ後者といひ、現今の忌はしき世態を變ずにつけ、將來の日本は如何に轉變すべきかに、想ひ到らせ給ひし時、恐多くも慄然として、玉體に粟を

生じ給はせての御綸言と、拜し奉らざるを得ないのである。

熟々世上を見るに、上下負けじと華美を競つてゐる。明日の生活には事を缺いても、今日の悅樂に耽らねば損だといふ觀を呈してゐる。上は質素を旨と遊ばされ國産品を奨勵し給うても、下は知らぬ顔して、浮華輕佻に浮身を扮してゐる。何たる世相。心細い浮世であらう。識者が如何に慨いて、舌に筆に書き連ね喋り續けたとて、馬耳東風である。蛙面に水である。何の効果が其處にあらうぞ。赤の注入に至つては、此等を矯正すべき教導すべき立場に在る教育者が、寧ろ之を謳歌宣傳しつつ有る者さへあるではないか。甚だしきは手をかへ品をかへて、頑是無い小學生にまで、手を伸ばしてゐると聞くに至つては、沙汰の限りである。世は澆季である。末世である。濁世である。

此は是れ果して何に原因するか。問ふを止めよ。是は實に各自の責任觀念の薄弱なるに因るのだ。自制の念の缺乏せるに因るのだ。刹那を享樂して永遠を失念せるに因るのだ。男女の性を省みないのに因るのだ。特に甚だしきは日本國民としての自己を忘れ、國體の他に懸絶せる所以を思はざるに因るのだ。旭に匂ふ山櫻と、國歌の尊嚴とを仰がざるに基因するのである。

然らば此等の諸弊を如何して芟除すべきか。困難なるが如くして實は易々たりである。要は國民各自が剛健なる精神に蘇ることである。若し夫れ此の剛健なる精神に蘇ることなくんば、日本は遂に救ふべからざるに立ち至るであらう。併し言ふは易く行ふは難いけれども、人に強ふるよりは、自己が苦しきに堪へて率先實行し、他に範を示すの覺悟を以て、國民各自が精神の修養に努めたならば、良風美俗は日ならずして至り、陛下



の大御心に副ひ奉ることが必ずや、出来るであらう。「終」

尋常小學校卒業者に對する分 (1時間)

「題」 目上ノ人ニ就職ヲ依頼スル手紙  
(文體候文)

拜啓。一筆申上げ候。承はれば、御尊家皆々様御達者の由、拙家一同喜び居り候。當方も打ち揃ひ無事にて候間、御安心願上げ候。

さて先日は御心に懸けさせられ、私の將來の事に付き御尋ねを戴き、感涙に咽び居り候。五年生當時までは両親も中學へ入れ、専門學校位までは勉強させても宜しき様申し居り候へば、私も其の積りにて幾らか準備も致し居り候處、昨年の銀行潰れの爲め、僅かばかりの預金も拂戻し不能との事にて、之れが爲め私の希望も達し得られぬ事と相成り、残念至極に存じ居り候。随つて學校は小學校卒業のままに止め、何れにか就職して、僅かづつにても両親の爲めに働きたしと存じ居り候間、御周旋願上げ度候。役所、銀行邊の給仕位ならば、暇々に勉強も出来るとの事、其邊に御知人等も御座しまさば、何卒御聞合せ給はり度候。

甚だ恐入り候へども、窮狀御察し下され候て、就職相出來候やう御骨折り願上げ度候。何れ近日中に參上の上、細々しきことは御話し申上ぐべき心算に候へども、取敢へず一筆御願ひ甲上げ置き候。先は御依頼旁々斯くの如くに御座候。敬具。

年 月 日 . 何 の 某

何 の 誰 様

玉 案 下

— ◁ 盛岡運輸事務所 ▷ —

中學校卒業者すに對する分 (50分)

問 (1) 左ノ文中傍線ヲ附シタル字句ニ振假名ヲ附シ其ノ意味ヲ解釋セヨ。

曩に君の故山に歸省せしより久しく<sup>(イ)</sup>警款に接することを得ざりしかど舊友の情豈一日も余の懐に往來せざらんや<sup>(ロ)</sup>圖らざりき一旦滄桑の變に遭ひここに君と<sup>(ハ)</sup>旗鼓の間に見ゆるに至らんとは。

(イ) (ロ) (ハ)

〔解答〕 (讀假名・解釋) (イ) 警款——面會すること。警款はセキバラヒの意。シバブキ。軽いのを警といひ、重いのを款といふ。款は咳にも作る。

(ロ) 滄桑の變——世の大事變。時勢の甚だしき變遷にいふ。(「滄海が變じて桑田となる」といふ句から出來た語。)

(ハ) 旗鼓の間——戰場を指す。(旗や鼓は戰爭に用ゆる道具だからである。旗鼓の間に見ゆるとは、敵・味方となつて戰場で相戦ふこと。鼓が正字、款は俗字。)

問 (2) 左ノ語ニ振假名ヲ附シ意味ヲ其ノ下ニ書ケ

(イ) 操觚者。(ロ) 尸位素餐。(ハ) 權家に詔はず。(ニ) 剽竊。(ホ) 骸骨を乞ふ。(ヘ) 象牙の塔を出る。(ト) 汗午充棟。(チ) 首鼠兩端(リ) 熟柿主義。(ヌ) 風聲鶴唳。

〔解答〕 (振假名・意味) (イ) 操觚者——新聞・雜誌等の文筆



に従事する者のこと。觚は木の角な札。古は紙が無がつたから、古人は事を記すに之を用ひた。操はトルで、文を作ること。「翰を染め觚を操る」といつた。

(ロ) 戸位素餐——<sup>ろくぬすびま</sup>禄盛人。才能・功績なく、徒に俸給を受くる者をののしりていふ。(戸位は人が神の形代となつて假りに神位につく義。素餐は空しく食ふこと。即ち其器で無くて高位厚禄を食ふからである。)

(ハ) 権家に諂はず——<sup>ケンカ</sup>権力のある家柄の者にこびおもねらない。権力者の気に入るやうにつとめない。

(ニ) 剽竊——<sup>ヒョウキョウ</sup>他人の詩文をぬすんで自己の作とすること。他人の説をぬすむにもいふ。

(ホ) 骸骨を乞ふ——<sup>ガイコツ</sup>官職を辭する。辭職・辭任すること。(任官中の身體は君主の所有物だからである。故に、乞・賜或は請といふ。)

(ヘ) 象牙の塔を出る——<sup>ゾウガク</sup>自我の靜寂な生活を楽しむ詩美の境を見捨てること。

(ト) 汗牛充棟——<sup>カンギウジュウトウ</sup>藏書の甚だしく多きにいふ。(車で引かせると牛が汗をかき、積上げると、ムナギにとどく程、書物を多く藏する義。)

(チ) 首鼠兩端——<sup>シュソ</sup>どちらとも決せずグズグズすること。洞ヶ峠。日和見。(鼠が穴から首を出して様子を見る義。)

(リ) 熟柿主義——<sup>ジュクシ</sup>利權が自己に歸する時機を隱忍して待つやり方。

(ヌ) 風聲鶴唳——<sup>フウセイカクレイ</sup>おち氣づいた人が、あらぬ物事におちおそるること。オドオドしてチヨツトしたことに驚くこと。

(風の聲にも鶴のこゑにも驚くとの義。) 唳はナクこと。)

問(3) 左ノ文中ノ片假名ノ部分ニ漢字ヲ當テヨ。

(イ) 乃木將軍曰く頃日世に生活難の<sup>コエカマビ</sup>スレソモソモは何に因つて然るかユライ人情はアンイツをムサボリエイグワをホツするのヘイあり惟ふに物質文明は動もすれば人心をゲンワクし往々ハクシジャクカウの徒をしてハンモンクナウせしむ人イヤシクもジセイコクキの精神を高めキンケン力行其の分をツクさば何ぞ必ずしも生活を難しとせんや。

(ロ) 維新皇運リュウコウし聖詔をクワンパツして立憲の洪猷を宣へたまひ上元首の大權を統へ下ココウの力を展へ大臣のホヒツと議會のヨクサンとに依り機關各其の所を得たり。

[解答] (イ) 乃木將軍曰く頃日世に生活難の聲喧し抑は何に因つて然るか由來人情は安逸を貪り榮華を欲するの弊あり惟ふに物質文明は動もすれば人心を眩惑(幻惑)し往々薄志弱行の徒をして煩悶苦惱せしむ人苟も自制克己の精神を高め勤儉力行其の分を盡さば何ぞ必ずしも生活を難しとせんや。

(ロ) 維新皇運隆興し聖詔を煥發して立憲の洪猷を宣へたまひ上元首の大權を統へ下股肱の力を展へ大臣の輔弼と議會の翼賛とに依り機關各其の所を得たり。

### 尋常小學校卒業者に對する分(50分)

問(1) 左の字句ヲ解釋シナサイ。

(イ) 幾程もなくして身まかりぬ。(ロ) 月常住の燈を掲ぐ。(ハ) もだしがたし。



- 〔解答〕(解釋) (イ) 幾程もなくして身まかりぬ——いくらかも立たぬうちに死んだ。(身まかるは身罷るで身がアノヨに行く義、即ち死ぬること。假死から生氣づくを蘇るといふ。世ニカヘルの義である。)
- (ロ) 月常住の燈を掲ぐ——月は何時でも照つて居る。(月は絶えず燈火をつけてあるやうに、照つて居るとの義。)
- (ハ) もだしがたし——黙し難しで、ダマツテは居られぬ。

問(2) 左ノ語ニ振假名ヲツケ意味ヲ其ノ下ニ書キナサイ。

- (イ) 豹變。(ロ) 有無相通ず。(ハ) 御内帑金  
(ニ) 裨益。(ホ) 真相を把握す。(ヘ) 禍は蕭牆の内より起る。(ト) 溢美の言。(チ) 救恤品  
(リ) 講筵に赴く。(ヌ) 篡奪相踵ぐ。

- 〔解答〕(振假名・意味) (イ) 豹變——豹の斑紋の明かなるやうに、舊惡を捨てて善に遷ることの著しきこと。今は卒然と態度を一變するにいふも、「君子豹變」といふ故、實は不可。
- (ロ) 有無相通ず——互に融通し合ふこと。有ると無きとで、互に無い方に有る物を送つて、過不足ないやうにすること。
- (ハ) 御内帑金——皇室の御手もと金。
- (ニ) 裨益——ためになること。たすけとなること。おぎなひ益すること。
- (ホ) 真相を把握す——眞實の有様をにぎる。本當の様子をとりにぎる。
- (ヘ) 禍は蕭牆の内より起る——兎角災難・不幸・凶事等は垣根の内、即ち一家内から起るとの意。

- (ト) 溢美の言——ホメスギのことば。溢惡之言の反。
- (チ) 救恤品——救ひあはれむ品物。助け賑はす物品。人々に恵む品物。
- (リ) 講筵に赴く——學術・道義などの講義をする場所に行くこと。
- (ヌ) 篡奪相踵ぐ——次に次にと君の位を奪ふこと。臣が君の位を奪つて君となると、其臣が代つて又位を奪ふこと。

問(3) 左ノ文中ノ片假名ヲ漢字ニ改メナサイ(傍線ノ右ニ書クコト)

ピンセウでキチに富み時に臨み變に應じて宜しきに處しユウワウマイシンして勝を一舉に制するのは其の最もトクイとする所であるがしかしながらタイキウジチヨウのコンキがトボしく事業を經營するにしても一度つまづけばイキソソウしてまた起つことが出来ない風があるレイジヨウの心が厚くザサシンのタイのレイギサホウは備つてゐるが一般コウシユウに對する公德心は甚だヨウチなやうである。

〔解答〕敏捷で機智に富み時に臨み變に應じて宜しきに處し勇往邁進して勝を一舉に制するのは其の最も得意とする所であるがしかしながら耐久自重の根氣が乏しく事業を經營するにしても一度つまづけば意氣沮喪してまた起つことが出来ない風がある禮讓の心が厚く坐作進退の禮儀作法は備つてゐるが一般公衆に對する公德心は甚だ幼稚なやうである。

(備考) 敏捷はピンセフ。沮喪はソサウ。禮讓はレイジャフ。作法はサハフ。幼稚はエウチである。



## 作 文

### 中等學校卒業者に對する分 (50分)

#### 『題』 非常時ヲ論ズ (文體隨意)

學問に政治に經濟に外交に、將又軍事に、我が大日本帝國は、今や世を擧げて、非常時の暗礁に乗り上げて居る。随つて學者も爲政者も經濟家も、外交官も將又軍人も、如何にして此の非常時を切抜くべきか、此の暗礁を乗切るべきかに就いて、腐心してゐる。そして如何なる滿潮を得、如何なる順風を待受けて、離礁すべきかに、苦慮慘憺・頭痛鉢巻といふ有様なのだ。

併し非常時は、日本にだけ限られて居る譯ではない。今や世界が此の非常時に襲はれてゐるのだ。だから見やうによつては、大したことではないやうでもある。だがだが、だからと言つて、決して安堵すべきではないのだ。歐米の白人種には、利害を以て離れても、利害を以て合致すべき惡血が通つてゐる。東洋の日本は、從來黄色人種の故を以て、排斥せられて來た。而も滿洲・上海事變後は、遂に聯盟をさへ脱退せざるを得ない状態となつた。同種族に支那はあつても、歐米の傀儡に過ぎない。縱令滿洲國が行動・運命を共にして呉れるとしても、我國は殆ど孤立無援を免がれないのである。

此時此際、唯頼むは、國民全體の決意である。協力である。奮起である。陸海軍の軍人にも重責を負はすべきではない。戦線の御苦勞は無理にも願はなくはないが、一絲亂れざ

るの銃後の務めは、非軍人たる國民の雙肩に擔はなければならぬのだ。此時赤もなく青もなく黒もなく紫もなく、唯々純白でありたい。人間だもの平素は不平・不満もあらうけれども、此の良土に生れ、此の大君を仰いでゐる以上、突如國體の精華に目覺めなければならない。

併し非常時は戦争に依つてのみ、解決せらるべきものでない。我に誠心誠意があり、苟くも正道を踏み違へることさへなかつたら、如何に疑心暗鬼を生じてゐても、成る程さうであつたかと、疑を晴させることは出来ると思ふ。餘りに興奮してはならない。早まつては兎角事を爲損ずる虞がある。東洋永遠の平和を思ふ時、中華民國が自らの非を悟つて、共に提携を申込むの機を待たなくてはならない。だが、それに先きんじて、歐米に事を誤られはしないかといふ懸念・心配がある。支那と我國とは古來交友の間柄である。言はば兄弟の國同志である。些細の事から牆に闘いではないのだ。

而も此際、米露は國交を舊に復した。我が大日本帝國に取つては、非常時+非常時である。それに中華民國も仲間入を企畫しつつあるとの噂もある。或は日本を嫌やがらせの宣傳かも知れない。宣傳と見せかけて置いて、實は既に相談が纏つてゐるのかも知れない。

何れにしても日本には一大打撃である。併し敢へて恐るるには足りない。上御一人に對し奉る、國民の至誠に訴へる時、國民は一人残らず起つであらう。非常時は實に吾人國民への意志の試金石なのだ。非常時恐るるに足らず、唯だ民心の動搖向背を恐るるのみだ。須らく國體の精華・尊嚴を思へ、然らば民心



の動搖向背はない筈だ。随つて非常時は瞬く間に解消する筈である。「終」

### 尋常小學校卒業者に對する分

#### 『題』我が生立（文體隨意）

僕の生れた處は極々片田舎です。縦令片田舎でも生活さへ豊なら、何も悲觀することはないのですが、何分にも兩親は貧のドン底に喘いで居たのです。子供心にはそんなことが分らう筈がなく、今日まで世間の子供並みに、愜しいものなら何でもねだつて居たのです。そしてそれが爲めに随分兩親を泣かしたらしいのです。

それでも兩親は心で泣いても顔では笑つて、僕の望を叶へて呉れました。大きくなつてから聞かされたんですけれども、随分無理な算段をしたんださうです。僕はそれを聞いて相済まぬことをしたと、思ふんです。だが今更後悔したつて、何にもなりませんけれども、これに報ゆる方法は、孝行より外致し方がないので、ドンな困難にも堪へ、立派な人間となつて、御恩報じをしようと思ふのです。

併しそれは將來の話、幼なかつた頃の僕は、散々兩親を困らせて、小學校にも人並みに上げて貰ひました。一年生・二年生、何を習つたのか覚えはありませぬ。徒坊主いたづらぼうずとして先生の厄介者だつたことだけは、三つ子の魂とかでハツキリと覚えて居ます。三年生になつた時、何となしに家の生活苦が感ぜられるやうになりました。それからの僕はスツカリ生れ變つたやうになつて、兩親は勿論先生からまで、不思議がられる位になりました。

四年生になりますと、どうした都合でか一家は片田舎を引拂つて、或る市街地へと出て來ることとなりました。父は某會社の下働きに、母は弟や妹の世話をしながら、駄菓子だか子を賣つて生計を支へようといふのです。斯うなると長男の僕たる者も、じつとしては居られません。早速新聞社へ駈けつけて、夕刊を賣らせて貰ふことにしました。

「夕刊・夕刊、夕刊は一錢」

最初は耻かしかつたんですけれども、馴れば何でもありません。同じ境遇の友達が、最初の晩から何人も出來ました。

「オイ君、君は何といふ名だい。何處から來たんだい。君はしんまいだから、餘計賣つて行き給へ、ソレあの人あの人が欲しいつてよ、買つて貰ひ給へ。」

といつた具合に、始めての僕に賣らして呉れるのです。何といふ人情の温かさ、僕は感謝しました。泣きました。それからの僕は、雨にも風にも如何な夕方でも、六年生まで續けました。そして一家の生活の一部を助けました。其間弟妹の世話、頼まれれば餘所の走り使ひとか、仕事の手傳などもやりました。

これが僕の『生ひ立ち』です。筆には十分に書き表はせませんが、實際は並み一通りの苦しみではありませんでした。此れからは目的の鐵道に入つて、兩親を安心させようと思ひます。今度失敗したつて、來年も受験します。來年駄目なら、屹度きつと明後年らいねんも受験します。「思ふ一念岩をも通す」といふこともあるのですから。「終」



## —〈秋田運輸事務所〉—

(昭和7年9月施行)

## 中學校卒業者に對する分 (1時間)

問(1) 左ノ文中傍線ノ所=假名ヲ振り且全文ノ解釋ヲ左方ノ空所=記入セヨ。

彼の誦詐を以て物に當り僞妄を以て事を處し糊塗苟も免れ依違輒ち避け朝三暮四首鼠兩端の模稜手を常套として却て嘘も方便と空嘯くが如きは倭その陋豈に唾棄すべきものならずや。

〔解答〕(振假名) 誦キツサ(クツサ)詐ギ。僞イ妄キ。依スナハ違テカサシ。輒シユソち。朝三暮四。首鼠。  
模稜手。常套。倭。陋。

(解釋) 彼のやうなイツハリの心で物事をしたり、イツハリの心を以て事を取計らひ、何事もゴマカシて少しでも自己の責任を免がれようとし、ドチラトモツカズに容易く避け、人を愚弄しゴマカシて、どちらつかずグツグツしたといふので名づけられた模稜手、即ち蘇味道のやつたことを改めもせず、其のまま守りそれをいいこととして、あべこべに嘘をつくのも間に合せの好手段とばかり、空とぼけをするがやうなのは、そのネデケ根情といひ、そのミニクイ心情といひ、何と唾を吐き棄てるがやうに、忌みすつべきものではあるまいか。

問(2) 左ノ歌ノ解釋ヲ左方ノ空所=書ケ。

春の夜のやみはあやなし梅の花  
いろこそ見えねかやはかくるる

〔解答〕(解釋) 春の夜の闇ばかりは、何だかワケの分らぬものだ。なぜなら梅の花の色は暗くて見えないが、あのいい香だけは少し程も隠れない。隠すでもなく隠さないでもなく、一向ワケの分らないものだから。

(備考) かやはかくるるのかは香で匂のこと。やはは反語で而も倒置法で上に用ひたのだ。當り前なら香は隠るるやはとあるべきで、「色は暗くて見えないが、香は隠れようや隠れはしない」との意。

問(3) 左ノ漢字ノ右側=假名ヲ振り下方=意味ヲ書ケ。

- 1、保障。 2、倚藉。 3、隨喜。 4、粗笨。
- 5、功利的。 6、秋毫を析つ。

〔解答〕(振假名・意味) 1、保障——小城ととりで。城塞。他から障害せられぬといふことの保證。租税を軽減し、民を保護する政治。  
2、倚藉——慰藉と同意に取らせる爲めの出題であらう。慰藉はなぐさめること。なぐさめたすけること。(倚藉の熟語は見當らぬ。)  
3、隨喜——喜んで信仰すること。歸依して有難がること。他人のなす善根功德に隨ひ喜んで賛成すること。(隨喜の涙に咽ぶ等用ふ。)  
4、粗笨——粗末でつたないこと。あらくてつたないこと。  
5、功利的——てがらとためになることを、ひたすら眼中に置いてすること。功績と利益とを眼中に置くにいふ。  
6、秋毫を析つ——極めて小さいものをときわける。(秋毫とは秋になると獸の毛がかはり生じて、其の末端が小さくなる



こと。)

問(4) 左ノ片假名ヲ漢字ニ直シ其ノ右方ニ書ケ。  
1、シウウ(俄か雨) 2、シソウ(けしかけること) 3、シンイ(いかり) 4、チミツ(こまかくくわしいこと) 5、ジツコン(親しきこと)

〔解答〕 1、驟雨。2、指喉(使喉) 3、瞋恚。4、緻密。5、昵懇。

(備考) 指喉が正しい。使喉は俗用、シソクと讀むは誤り、教唆に同じ、昵懇はヂツコン。

### 乙種商業學校中學校三年修了者に對する分

(1時間)

問(1) 左ノ文中傍線ノ所ニ假名ヲ振リ且全文ノ解釋ヲ左方ノ空所ニ記入セヨ  
人之を是といへば之を是とし人之を非といへば之を非とし泛々然として人と共に浮沈し飄々乎として世と共に昇降し社會の桎梏に甘んじ他人の縲紲に安んずる者之を凡人といふ。

〔解答〕 (振假名) 泛々然。飄々乎。桎梏。縲紲。

他人が之をよいといふと自分も之れをよいとし、他人が之をわるいといふと自分も之をわるいとするなど、フハフハとして確乎たる一定の心なく、世人と浮き沈みを一緒にし、ヒラヒラとして世の中と共に昇つたり降つたりして、世間のアシカセテカセの束縛にも満足し、他人のナハメの苦しめにも満足して、何等氣概のない者を、悟道に入らないなみなみの人間といふのだ。

問(2) 左ノ漢字ノ右側ニ假名ヲ振リ下方ニ意味ヲ書ケ

1. 嗚咽。
2. 綸言。
3. 戒嚴令。
4. 綺語。
5. 銃後。
6. 蒸溜。

〔解答〕 (振假名・意味)

1. 嗚咽——むせびなき。むせぶこと。むせび悲しむ。
2. 綸言——天子のおほせ。天子のおことば。
3. 戒嚴令——戒嚴宣告の勅令。戦争・内亂・天災等の非常時變の勃發に際し、警察力だけでは社會の治安維持が不十分な場合に、軍隊を警備に充て、行政權・司法權の一部又は全部を、軍隊即ち戒嚴司令官に委ねること。
4. 綺語——面白くあやなした言葉。巧にかざりなした言葉。偽りかざつた言葉。(狂言綺語——小説類にいふ。)
5. 銃後——肉彈に對して用ひられ、軍醫・輜重兵等の戰場後方に勤務する兵員をいふが、非戦闘員たる國民全體をも指すことがある。
6. 蒸溜——液體を蒸發させ、其の氣を冷して又液體となし、まざりものを取除くこと。液體を煮沸し蒸發せしめ、其の蒸氣を冷して再び液體とすること。

問(3) 左ノ語ヲ用キテ簡單ナル文ヲ綴リ左方ノ空所ニ記入セヨ

1. 進出。
2. 強調。

〔解答〕 1. 進出——「聯盟脱退後、却つて我が製品の進出著しきものがある。」



2. 強調——「大に我が正を強調し、彼の非を摘く。」

問(4) 左ノ片假名ヲ漢字ニ直シ其ノ右側ニ書ケ

1. レウラン (花などの咲きみだるさま)
2. キベン (非を理にいひまぐること)
3. ロウダン (利益を専有すること)
4. オクソク (心にておしはかること)
5. バンサン (夕食)

〔解答〕 1. レウラン (撩亂)——(撩亂——マツハリミダル)

2. キベン (詭辯)

3. ロウダン (壟斷)

4. オクソク (臆測)

5. バンサン (晚餐)

#### 尋常小學校卒業者に對する分 (一時間)

問(1) 左ノ文中傍線ノ所ニ假名ヲ振り且全文ノ解釋

ヲ左方ノ空所ニ記入セヨ

惟ふに産業の振興は固より自然の力に俟つこと多しと雖も地の利は人の和に如かず努力はよく天與の菲薄を補ふに足る徒に萎縮退嬰するは大和民族の爲すべき所にあらず宜しく進取の大策を立てて華を去り實に就き勇往邁進すべきのみ。

〔解答〕 (振假名) 振興。 菲薄。 萎縮退嬰。 勇往邁進

(解釋) 思ひ考へて見るに、産業の振興するのは、言ふまでもなく、自然の力をあてにすることが多いとはいふものの、地の利は人の和に及ばぬといふが如く、自然の土地柄のよいのよりは、

人間が和合努力して仕事に當りさへすれば、天から與へられた薄い恵を十分に補ふことが出来る。だから無駄になえちぢんでしりごみするなんてことは、我々日本民族の爲すべき所ではない。宜しく産業振興の爲めには、進んで事を行ふといふ大きなはかりごとを立てて、表面のみえを去り、偽りのない眞心を以て、ひた進みに進むだけである。

問(2) 左ノ歌ノ解釋ヲ左方ノ空所ニ記入セヨ

久方の光のどけき春の日に

しづどころなく花の散るらん

〔解答〕 (解釋) 空の彼方からさし來る日光の、ゆつたりと靜かなる此の春の日に、どうしてかまあ櫻の花はザワザワと落付いた心なく、忙がしさうに散るのであらう。何と心もとないことではあるよ。

問(3) 左ノ漢字ノ右側ニ假名ヲ振り下方ニ意味ヲ書ケ

1. 批准。 2. 白壁。 3. 騰勢。 4. 松魚。
5. 高調。 6. 徂來。

〔解答〕 (振假名・意味) 1. 批准——主權者が條約の案文を喜納採用することをいふが、此の批准を経た條約書を、當事國が互に交換するでなければ、効力を奏しない。之を批准交換といふ  
2. 白壁——シラタマ。色の白い玉。(壁は外邊圓く、内の孔の四角な玉。)

3. 騰勢——をどり上るいきほひ。とび上るいきほひ。

4. 松魚——ショウギョと音讀してもよい。かつをのこと。ナマ



でも食べ、フシにしても調味に用ふ。

5. 高調——聲高きしらべ。高い調子。  
6. 徂來——徂徠にも作る。ゆくときたると。ゆきき。往來・去來と同意。

問(4) 次ノ片假名ヲ漢字ニ直シ其ノ右側ニ書ケ

1. 心中をヒレキす。
2. クンイチダツせらる。
3. 他のセイチウを受けず。
4. シヤウグワン (もてはやすこと。)
5. タンケン (實地につきさぐりしらべること)

〔解答〕 1. 心中を披瀝す。 2. 勳位褫奪せらる。 3. 他の掣肘を受けず。 4. 賞翫。 5. 探檢。(探險——危険を冒して、しらぶること。)

(昭和8年2月施行)

### 中學校卒業生に對する分 (1時間)

問(1) 左ノ文中漢字ノ右側ニ假名ヲ振り傍線アル箇所ハ其ノ意義ヲ左側空所ニ記シ且全文ノ解釋ヲ文ノ末尾ニ記入セヨ

老將は兵を談ぜず、良賈は深く藏す。言多きものは卑しとせられ、語少なきものは憚らる。言を以て招くは、無言を以て招くに如かず。語を以て斥くるは、無言を以て斥くるに如かず。桃李そもそも何を言ひて、下自ら蹊をなせるや。宗廟そもそも何を語つて、人敢て瀆さざるや。

〔解答〕 (振假名) 老將は兵を談ぜず、良賈は深く藏す。言多きものは卑しとせられ、語少なきものは憚らる。言を以て招くは、無言を以て招くに如かず。語を以て斥くるは、無言を以て斥くるに如かず。桃李そもそも何を言ひて、下自ら蹊をなせるや。宗廟そもそも何を語つて、人敢て瀆さざるや。

(傍線意義) 老將は兵を談ぜず——經驗を積んだ大將は、戰術などのことに就いては、どうのかうのと鼻に掛けるやうなことは言はない。寧ろ謙遜して、何等知らないもののやうである。良賈は深く藏す——商賣上手なよい商人は、商品を奥にしまひこんで、ろくな品物もないがやうに、店頭に出して示さないものだ。(此言たるや君子は盛徳あるも、見かけは愚人の如くして、其の賢きことを悟られないことの喩)。桃李そもそも……下自ら蹊云々——彼の物の言へない桃や李は、何を物語つて人々を呼び寄せて、斯くは其の下に小道をつける程にしたのであらう。(花實あるが故といふことを、暗に匂はせたのだ。) 宗廟——祖先の御魂屋、祖先を祀つた所。

(全文解釋) 十分に經驗を積んだ駈引きのうまい大將といふ者は、決して戰術等のことについては自慢しないものであるし、よい商人といふ者は、決して店頭の商品を並べるやうなことをせず、何物もないがやうに、深くしまつて置くものである。それにつけても、餘りに多辯の者は卑しめられ、口數の少ない者は却つて敬服せられるものである。それぢやから、言葉で招くのはだまつて招くには及ばない。言葉で以て斥けるのはだまつて斥けるには及ばない。彼の桃や李はそれとも何と言つて人々を呼び寄せて、其の下に小道をつけさしたのであらう。是れ



一に花實あるが故に、招かずとも自然に道が出来たのである。先祖の御魂屋は、それとも何と言つたが爲に、人が押切つて、其の御前をけがさないものであらう。是れ一に盛徳の有つた方を祀つた處であるから、不言の内に人々を心服せしめたるに因るのである。

問(2) 左ノ片假名ヲ漢字ニ直シ其ノ右側ニ書ケ。

1. キンセンメイ。 2. タイカコウロウ。 3. ザンゲ
4. ガラン。 5. タンデキ。 6. ゲンシユク。
7. ヘイガイ。 8. レイメイ。 9. ザンゼン。
10. レイロウ。 11. ハイキョ。 12. ジユソ。
13. シユンジユン。 14. ボンノウ。

〔解答〕 1. 旗幟鮮。 2. 大廈高樓。 3. 懺悔。 4. 伽藍。 5. 耽溺。  
6. 嚴肅。 7. 弊害。 8. 黎明。 9. 嶄然(殘喘一餘命のこと。)  
10. 玲瓏。 11. 廢墟。 12. 呪咀(受訴)。 13. 逡巡。 14. 煩惱。

(備考) 高樓はカウロウ。煩惱はボンノウ。

### 乙種商業學校、中學校三年修了者に對する分

(1時間)

問(1) 左ノ文中漢字ノ右側ニ假名ヲ振り傍線アル箇所ハ其ノ意義ヲ左側空所ニ記シ且全文ノ解釋ヲ文ノ末尾ニ記入セヨ。

筆墨の靈妙活動、殆ど天馬空を行く趣あり。叙事或は精、或は疎、或は長、或は短。精にして長なる時は、微として穿たざるなく、細として及ばざるなし。疎にして短なる時は、或は脈々の餘情を含み、或は翳々の餘韻を存す。

〔解答〕(振假名) 筆墨の靈妙活動、殆ど天馬空を行く趣あり。叙事或は精、或は疎、或は長、或は短。精にして長なる時は、微として穿たざるなく、細として及ばざるなし。疎にして短なる時は、或は脈々の餘情を含み、或は翳々の餘韻を存す。

(傍線意義) 靈妙——くしきこと。不可思議にして、たへなること。不可思議で、人智を以て測り知ることの出来ないこと。天馬空を行く——奇變出沒、つなぎとめることの出来ないのに喩へる。

脈々の餘情——續いて絶えず、忘れかねる程に残つたおもむき。  
翳々の餘韻——澄みわたつた聲音が、何時までも絶えないで響く長い響。

(全文解釋) 此の文章に對すると、筆のコナシが不思議な程巧みで生々として、今にも天馬空を行くといふが如く、自由自在に何等の束縛を受けず、奔放な面白味がある。随つて叙述してある事柄が、或る處は細密に述べてあるかを見ると、或る處は精しくなく、又或る處は長々しいかを見ると、或る處は簡潔である。細密にして長々しい時は、どんなに微細な點でも述べ盡さないといふことがなく、どんなに些細のことでも言ひ足りないといふことはない。其の反對に精しくなく簡潔な時は、或る處は何時までも續いて絶えない所の、盡きせぬおもむきを持ち、或る處は何時までも澄み切つて絶えない所の、盡きせぬひびきを持つてゐる。

(備考) 本文は解し易いやうで、實は困難な文である。大意をいふと、「此の文章は測り得ぬほど生き生きして、精・疎・長・短、要を得て居る。精・長なるは細大漏す所なく、疎短なるは含蓄がある。」との意に外ならない。



問(2) 左ノ假名ヲ漢字ニ直シ其ノ右側ニ書ケ。

1. イシンデンシン。
2. キドアイラク。
3. ガイネン。
4. ジュンクワン。
5. ヒツキヨウ。
6. セツナ。
7. リンカク。
8. ユウツウ。
9. シヤウヘキ。
10. エンキヨク。
11. テンタン。
12. ガイセン。
13. キヤウタン。

〔解答〕 1. 以心傳心。 2. 喜怒哀樂。 3. 概念。 4. 循環。  
 5. 畢竟。<sup>ヒツキヤウ</sup> 6. 刹那。<sup>リンカク</sup> 7. 輪郭。<sup>ユウツウ(ユウツウ)</sup> 8. 融通。<sup>(かきまかへ)(しきりのかへ)</sup> 9. 牆壁(障壁)  
 10. 婉曲。<sup>エンキヨク</sup> 11. 恬澹。(恬淡・恬澹) 12. 凱旋。 13. 驚歎。

### 尋常小學校卒業者に對する分(1時間)

問(1) 左ノ文中漢字ノ右側ニ假名ヲ振り傍線アル箇所ハ其ノ意義ヲ左側空所ニ記シ且全文ノ解釋ヲ文ノ末尾ニ記入セヨ。

祖先崇拜なるかな、これ獨り原始の觀念のみにあらず。祖先の勳功は後人奮勵の料たり、子孫の名譽心を發揮すべき興奮劑たり。ただその崇拜をして保守的たらしむる勿れ。回顧的たらしむる勿れ、進歩的たらしめざるべからず、自覺的たらしめざるべからず。

〔解答〕 (振假名) 祖先崇拜なるかな、これ獨り原始の觀念のみにあらず。祖先の勳功は後人奮勵の料たり、子孫の名譽心を發揮すべき興奮劑たり。ただその崇拜をして保守的たらしむる勿れ、回顧的たらしむる勿れ、進歩的たらしめざるべからず、自覺的たらしめざるべからず。

(傍線解釋) 原始的の觀念——原始時代、即ち世の中の立ち始

まりに於ける人々が、祖先は崇拜しなければならないといふ觀念。即ち「祖先を崇拜すると共に孝道の忽にしてはならないといふ考」といふ程の意。

興奮劑——きづけ藥。元氣づける藥の義。精神を興し奮はせるに用ふる藥。

保守的——進歩・改良の對。在來の状態を共儘保持すること。舊態を持続するにいふ。

回顧的——ふりかへりみること。昔の事などを思ふこと。茲は昔のことに戀々たるを指す。

自覺的——自我を認めること。自ら自己の位置又は價值を知ること。

(全文解釋) 日本國民たる以上、何と言つても祖先あつての我々であるから、祖先を崇め尊ばなければならない。さうだ祖先崇拜だ。祖先崇拜に越したことはないわい。是れはただ原始時代に於ける人々の考へだけではない。祖先の方々の立てられた勳<sup>いさをし</sup>や功<sup>てがら</sup>は、後世の人々が、其の勳功を恥かしめないやうにと奮ひ勵むのたねでもあり、血筋を引いたその子孫の名譽を得たいと思ふ心を、勵まし振ふ氣付け藥である。但しその祖先崇拜といふことを、單にお祭をして靈魂を慰めるだけに止めたり、祖先の功業などを振りかへつて見るといふだけに止めてはならない。必ずや祖先崇拜といふことによつて、祖先に劣らぬやうな働きをして、祖先を恥かしめまいといふ進歩的の考を持つやうにしなければならない。そして立派な價值ある自己を作り上げようとの、自覺心を持つやうに心懸けなければならない。



問(2) 左ノ文中片假名ヲ漢字ニ直シ其ノ右側ニ記セ。

1. ミガかざれば玉もグワレキにヒトシ、テンプのサイノウと云へどもコツクセイレイせざればナラズ。
2. ゼントにキバウを有して、人生をヒクワンせず。不幸にサウグウするもラクタンすることなく、必ず新進路をモトめてウンメイのテングワイをハかる。

- 〔解答〕 1. 磨かざれば玉も瓦礫に等し、天賦の才能と云へども刻苦精勵せざれば成らず。
2. 前途に希望を有して、人生を悲觀せず、不幸に遭遇するも落膽することなく、必ず新進路を求(覓・索)めて運命の轉回を計(圖)る。

### —◁新津運輸事務所▷—

(昭和7年7月9日施行)

#### 中等學校卒業者に對する分 (一時間)

問(1) 左ノ文ヲ解釋セヨ

家にありたき木は、松、櫻、松は五葉もよし、櫻はひとへなるよし。梅は白き、うす紅梅。ひとへなるがとくさきたるも、重なりたる紅梅のほひめでたきも、みなをかし。おそき梅は櫻に咲きあひておぼえ劣り、けおされて、枝にしほみつきたる、心うし。

〔解答〕 (解釋) 自分の家に植ゑて置きたい木は、松と櫻とであるが、松は五葉の松もよし、櫻の花は一重の方がよい。梅は白いのも薄紅梅なもの、又一重なのが早く咲いたのも、八重の紅梅の色澤が濃く立派なもの、みんな趣があつて面白い。遅く咲く梅は、櫻の咲くのと一緒になつて、見所が劣り、櫻に壓倒せられて、枝に花がしほみついてゐるのは、見つともない嫌なものである。

問(2) 左ノ文ヲ解釋セヨ

蘇子曰、春亦知夫水與月乎。逝者如斯。而未嘗往也。盈虛者如彼。而卒莫消長也。蓋將自其變者而觀之。則天地曾不能以一瞬。自其不變者而觀之。則物與我皆無盡也。而又何羨乎。

〔解答〕 (解釋) そこで私(蘇東坡自身)が答へて、貴君は何もそんなに悲觀せらるることはあるまい。一例を挙げると、貴君も亦彼の水と月とを御存じであらう。水はあの通り混々と流れ流れて已まないけれども、未だ嘗つて行き切るといふことはなく、見方によつては、相變らず流れてゐるとさへ言へる。月もあの通り満ちたり虧けたりするけれども、本體は別段大きも小さくもなりはしない。想ふに物は相對的方面から變化するものとして觀察すると、天地は悠久だと認めて居るが、實際はほんの一瞬の間も保たない短い生命であり、一方絶對的方面から、變化しないものとして觀察すると、天地萬物は言ふまでもなく、我々人間に至るまで、次に次にと出來て、其の生命は無窮なのだ。それだから何で水や月をそんなに羨んだりすることがありませうか。



問(3) 左ノ文ヲ解釋セヨ

螢雪之功。竹帛。雞肋。國是。出藍。  
一衣帶水。一炊之夢。溫故知新。他山石  
田山石、田山石、田山石、田山石

〔解答〕 (解釋) 螢雪之功——螢や雪を燈火に代へて苦學するをいふ。苦學のいさを。晋の車胤・孫康の故事。竹帛——書物をいふ。竹は竹簡。帛は繪絹。古は紙なく竹帛に書きしに因る。竹帛之功とは、歴史に記され後世に傳はるべきいさを。雞肋——雞の肋骨のこと。棄てるには惜しき意。棄て兼ねる意。食ふ程の肉は無いけれども、多少附著して居るからだ。轉じて物の必要なきも猶ほ棄てるには惜しきにもいふ。國是——輿論が是として取るべき國政の方針。其國の立國上の大方針。出藍——師匠よりも弟子の方が優れたのをいふ。荀子「學不可已、青出干藍而青干藍」より出づ。一衣帶水——細い流れ、帯ほどのせまい川。帯の如く細い一筋の狭い川。一葦帶水は誤り。一炊之夢——浮世の頼み難く、人生の果敢なきを歎くに喩へる。盧生之夢・邯鄲之夢に同じ。唐の開元中盧生といへるが邯鄲の里に於て、道士呂翁の枕に臥し、臆て夢を見、榮華の夢が黃梁一炊の間に在つたとの故事に出づ。溫古知新——古きをたづねて新しきを知るの義。古いことを研究して、新知識を得ること。他山石——他山から出る石は粗悪でも、我が玉を磨くに足る義。他人の言行も我が徳を磨くよすがになるといふ喩。互に心を知り合はないと、老人になるまで交つても、新しい友の如くであり、互に心を知る時は、途中で始めて面會しても、舊友の如くであるとの意。

## 作文 (一時間)

### 『題』 現下國民ノ覺悟

今春三月二十七日、國際聯盟脫退以來、我が日本帝國は、宛然敵の重圍の中に陥つたかの觀がある。東西南北、洋を隔ててこそあれ、一國劍を執つて立てば、歐米各國は、我も我もと之れに應ぜんとするの形勢に在る。米と謂ひ英と謂ひ、佛と謂ひ露と謂ひ、支と謂ひ獨と謂ひ、伊に至るまでが、貪婪飽くなき虎狼の牙を露して、我に薄らんこと、火を踏るよりも明かである。是れ果して何に因つて然るか、我を恐ると共に、有色人種の存在を忌むに在る。口に正義を唱へても、眞の正義を蹂躪せんと欲するに在る。強食弱肉に非ずして、道義絶滅に在るのだ。平和を好愛するを名として、擾亂を醸さんとするに在るのだ。斯くの如くにして、我國を危地に陥るるの日あらんか、吾人帝國臣民たる者は、如何にして其の國難を救ふべきか。

言は多くを要しない。唯だ「斃れて後已まんのみ」の一語あるのみである。男も女も老も若も、兵を執つて立つの覺悟が無くてはならない。だが併し時局は未だ其所までは切迫して居ない。兵を執つて立つには、未だ時日がある。然らば今日に於ては如何の覺悟を必要とすべきか、言ふまでもなく聖訓に基き、「華ヲ去リ實ニ就キ、荒怠相誠メ」て以て、専ら各自の業務に勵み「自彊息マサル」の覺悟を固めて、「一旦緩急アラン」の



時に備へなければならぬ。「方今列國ハ稀有ノ世變=際會シ、帝國亦非常ノ時艱=遭遇シ」て居るのである。正しく「學國振張ノ秋」でなくして何であらう。吾人國民たる者は宜しく、「各其ノ業務=淬勵シ、嚮フ所正ヲ履ミ、行フ所中ヲ執リ」て、「協戮邁往以テ此ノ世局=處シ」なければならぬのである。

是れ吾人國民が、大君の聖慮を安んじ奉ると共に、國家に報ずる所以であらう。水漬く屍草産す屍は素よりの覺悟ではあるが、此際穩忍自重、克己自制、艱難を厭はず、勞苦に堪へ、勤儉實行以て、各其の業務に勉勵することも、朝夕に忘れてはならない。

吾人國民たる者は、聯盟脱退に際して賜はつた上述の聖旨に副ひ奉り、一意時局の重大なるに鑑み、輕舉妄動を誡めて、眞に大國民たるの襟度を持することに、努めなくてはならない。是れが却つて、國家の進展に資する所以ではあるまいか。「終」

(昭和8年7月施行)

### 中學校卒業者に對する分 (一時間)

問 (1) 左ノ文ヲ解釋シ傍線ヲ附セル字句ノ讀方ヲ記セ

灌佛の頃、祭の頃、若葉の梢すずしげに、茂りゆく程こそ、世のあはれも、人のこひしさもまされと、人の仰せられしこそ、げにさるものなれ。(1)五月あやめふく頃、(2)早苗とる頃、(3)水鶏のたたくなど、心ほそからぬかは。(4)六月の頃、あやしき家に夕顔の白く見えて、蚊やり火ふすぶるもあはれなり。(5)六月被またをかし。

〔解答〕 (解釋) 四月八日の佛生會の頃、或は四月半の賀茂の祭の頃、若葉の梢が、だんだん涼しさうに、茂つて行く時分が、世の中の悲しさも、人の戀しさも増すものであると、或人が言つたのは、成程尤もつともなことである。何時か五月となつて、端午の節句に、家々の軒に菖蒲を葺き渡す頃や、苗を取る頃に、水鶏が門をたたくやうに鳴くのなども、至極心細いものである。六月の頃、見すばらしい賤が家に、夕顔の花が、眞つ白く咲いて居るのが見えて居るあたりで、蚊いぶしの火をいぶらすのも、趣のあるものである。あの六月の晦日みそかに行はれる大被も、亦面白く感ぜられる。

(讀方) (1) 五月 (2) 早苗 (3) 水鶏 (4) 六月の頃 (5) 六月被

(備考) 問題に誤りがあつた。訂正して置いた。あわれはあはれである。心ほそからぬかはは、心ほそからぬかはである。後のあわれもあはれである。心ほそからぬかはのかはは、反語である。

問 (2) 左ノ熟語ノ讀方及解釋ヲ施セ

- (イ) 忽諸。 (ロ) 先考。 (ハ) 兵站。  
(ニ) 輪廻。 (ホ) 匪賊。 (ヘ) 落首。  
(ト) 二豎。 (チ) 客氣。 (リ) 衣鉢ヲ傳フ。  
(ヌ) 光風霽月。

〔解答〕 (讀方・解釋) (イ) 忽諸コフショ——既出 參照のこと。ほろび盡きるさま。消滅するさまである。諸は助辭で、無意味た。忽略と誤り轉じて、おろそか。なほざりの義にも用ふる。俄の義ともある。

(ロ) 先考ヒンカウ——死んだ父。亡父。或は祖先の義とする場合もあ



る。尊んで皇考ともいふ。

(ハ) 兵站——戦場で、策線上、又は交通線上に設置する宿驛のこと。兵站地に設け、軍隊の後方に在つて、軍需品の輸送、又は收容を取扱ふ所を、兵站部といふ。(ニ) 輪廻——既出参照のこと。因果報のめぐり、めぐつて窮まりなきこと。(恰も車輪の廻轉するが如き故である。)

(ホ) 匪賊——世に害をなす者。悪人兇人のこと。(満洲の曠野に在つて、害をなす悪人などの稱。)

(ヘ) 落首——匿名の諷刺歌。嘲弄・滑稽等の意を含めて、わざと路傍等に落し置く歌のこと。

(ト) 二豎——病氣又は病魔にいふ。二人の子供の義。(晋の景公病むの時、夢に病が二豎となつて現はれた故事に本づく。)

(チ) 客氣——一時のカラゲンキ。血氣の勇にいふ。

(リ) 衣鉢ヲ傳フ——既出参照のこと。師から其道の妙義を受けたのにいふ。(衣鉢とは、袈裟と應器との稱。)

(ヌ) 光風霽月——既出参照のこと。天性のさつぱりとして、胸中の清らかな人の形容。(うらかな風や、雨後の月の義。)

問(3) 左ノ文中片假名ノ部ヲ漢字ニ改メヨ

(1) クワガクは人のチシキを廣め(2) ダウトクは社會生活(4) のキハンを示すけれども人間の心は弱いものである(5) からヤヤもすれば(6) リヨクに(7) マヨ(8) ひイウワクにオ(9) チイリ易い。その時モクサウジユクリヨの落ちつきを與へ、又正を(12) フんで(13) オソれざる勇氣を與ふる(14) ものは、實に(15) シユウケウ上のシンカウである。

[解答] 科學は人の知識を廣め(1) 道德は社會生活の規範(軌範でも許されよう。)を示すけれども人間の心は弱いものであるから(2) 動もすれば利欲(慾)に迷ひ誘惑に陥り易い。その時(3) 默想(4) 熟慮(5) の落ちつきを與へ、又正を踏(履)んで(6) 恐れざる勇氣を與ふる(7) ものは、實に(8) 宗教上の信仰である。(9) (10) (11) (12) (13) (14) (15)

### 尋常小學校卒業者に對する分(一時間)

問(1) 左ノ全文ヲ解釋セヨ。

水の豪壯は天をうつ怒濤に見るべく、地を震はす飛瀑に見るべく、岩石を提げてはしる急流に見るべし。平和は洋々たる春の海にあり、岸遠く山遙かにして白帆風をはらんで下るの長江にあり。静寂は水面鏡の如くにして蘆荻岸に疎に、山禽時に來つて翼を洗ふの沼澤にあり。

[解答] (解釋) 水の勢の盛んなのは、怒つて大空をうつ大濤を見ても分るし、地を震はして岩角を飛び下る瀑布を見ても分るし、又岩や石を轉ばして奔り下る急流を見ても分るであらう。所でさしにも強い水の勢でも、穩かにをさまつた時は、實に静かだ、其の平和な姿は、ひろびろと潮を湛へた、春の海原にもあれば、岸から離れ山から遠ざかつて、白い帆掛け舟が、風を一杯受けて下る彼の長い川にもある。又其の静寂な姿は、水面が鏡の面の様に淀んで、蘆や荻が岸に疎に生えて、山禽が時々來て、翼を洗ふ沼や澤にもあるのである。

問(2) 左ノ漢字ニ片假名ヲ附シ且ツ意義ヲ記セ。

(イ) 貢獻。 (ロ) 頭角。 (ハ) 隴畝。



- (ニ) 陶冶。 (ホ) 緊急。 (ヘ) 恍惚。  
 (ト) 崛起。 (チ) 矛盾。 (リ) 潑刺。  
 (ヌ) 俯仰懷古。

〔解答〕(イ) 貢獻——貢物を奉る意。轉じて世の爲め人の爲めに盡すこと。其の事業の爲めに力を盡し、寄與する所があること。著作などの上にもいふ。

(ロ) 頭角——はじめ。頭のさき。きはだつて才學の優れ、ぬきんでたのに「頭角を見はす」といふ。

(ハ) 隴畝——はたけ。轉じて田舎・百姓・民間の義。

(ニ) 陶冶——人才を養成し性格をきたへる意味。(陶器を焼くと金屬を鑄て物の形を作る義から轉じたのだ。)

(ホ) 緊急——急に迫る事柄。必要にさし迫ること。

(ヘ) 恍惚——うつとりすること。ほれほれすること。微妙幽玄のさまにもいふ。

(ト) 崛起——そばだち起る。聳え立つこと。

(チ) 矛盾——言ふことのつじつまのあはぬこと。自家撞著。

(リ) 潑刺——魚のをどりはねるさま。元氣のよいのにもいふ。刺は刺にも作る。

(ヌ) 俯仰懷古——うつむいたり、あふむいたりして、昔を偲ぶこと。

問(3) 左ノ文中片假名ノ部ヲ漢字ニ改メヨ。  
 1. ゲス<sup>2</sup>イ<sup>3</sup>のハイ<sup>4</sup>ジ<sup>5</sup>ョ、デンアイ<sup>6</sup>のショ<sup>7</sup>ブン<sup>8</sup>などエイ<sup>9</sup>セイ<sup>10</sup>に關するジ<sup>11</sup>ョウ<sup>12</sup>にチ<sup>13</sup>ウ<sup>14</sup>イ<sup>15</sup>し殊<sup>16</sup>にデン<sup>17</sup>セン<sup>18</sup>ビヤ<sup>19</sup>ウ<sup>20</sup>リ<sup>21</sup>ウ<sup>22</sup>コウ<sup>23</sup>の際<sup>24</sup>には其<sup>25</sup>のヨ<sup>26</sup>バウ<sup>27</sup>にジン<sup>28</sup>リ<sup>29</sup>ヨク<sup>30</sup>すべし。

〔解答〕<sup>1</sup>下水の<sup>2</sup>排除、<sup>3</sup>塵埃の<sup>4</sup>處分など衛生に關する事項に注意し殊<sup>5</sup>に傳染病流行の際には其の豫防に盡力すべし。

(備考) 下水はゲスキ。排除はハイヂョ。流行はリウカウ。

## 作 文

### 中學校卒業生に對する分 (一時間)

#### 『題』 鐵道志願ニ對スル我が覺悟 (文語體)

苟くも鐵道に志す者は、彼の兒輩の遊戯を試みるが如き、出來心を以てしては不可なり。必ずや軍人が命を的として、戰陣に望むの覺悟なかるべからず。一朝一夕は疎か、心に寸時の油斷にてもあるが如きは、鐵道志願者として、不適任者と謂はざるべからず。如何となれば、鐵道は尊き人命を預かるものなればなり。

嘗て門鐵管下に於て、小山某は、明治皇帝が、九州方面の大演習御統監として行幸の御砌り、線路に故障を生ぜしとかの故を以て、身の責任を痛感し、遂に自らが列車に觸れて、御申譯の自殺をなし、以て自己の職責を全うしたり。此は唯一例に過ぎざれども、鐵道關係者たる者は、常に此の覺悟を、抱かざるべからず。

苟くも鐵道に従事せんと欲すも者は、必ずや此の覺悟を以て、志願の手續を了すべきなり。鐵道に志願すれば、「採用の曉に於ては、自らは勿論、父母兄弟までも、汽車には乗車賃を要せずとか、旅行も自由にして、名所・古蹟をも思ふがままに訪ね得べし」等の欲心より、志望を抱くが如きこと有りとせば、



此は實に唾棄すべき、見當違ひと謂はざるべからず。

必ずや、鐵道従業員の使命の、那邊に有るかを思ひ、人間相互の交通の爲めに、貨物輸送の便宜を計る爲めに、將又有無相通ぜしむる爲めに、物資の供給を速ならしめんが爲めに、僻地開發の爲めに、一旦緩急有らん時、軍隊・輜重を迅速に輸送するが爲めに、身命を堵して、事に當るの覺悟を持せざるべからず。故に鐵道員たらん者は、彼の小山某の如きを、常に腦裡に描き、責任以て事に當らんことを要す。「終」

### 尋常小學校卒業者に對する分（一時間）

#### 『題』 鐵道志願ニ就テノ感想ヲ恩師ニ報ズル文 （書簡文）

拜啓。其後先生には、定めし御健勝に涉らせられ候御事と存じ上げ候。一度御訪問の上、御教へを願はんと存じ乍ら、遂ひ遂ひ御申譯けなき御無沙汰仕り、御詫びの申上げ様も御座なく候。何卒惡からず御容赦願上げ候。幸ひ私事も無事に消光罷在り候間、憚りながら、左様思召し給はり度候。

却説、先生には在學當時より、小生の將來に就いて、種々御注意を給はり候まま、茲に小生の志望を定むるに當り、先生の御意見をも承はり度、惡筆を揮ひ申し候へば、御判讀の上、小生の向ふ所を御示し給はり度候。

實は在學當時より、鐵道に奉職したしとの念は、臚げながら腦裡に萌し居り候ひしかども、確と定めたる譯にては候らはざりし爲め、先生にもそれと打明け兼ね、今日に立ち至り候處、

愈々將來の方針を定め置く場合に差し迫まれ、已にこれならばと、自己一人だけは相極め候ものの、矢張り先生の御意見を承はり候方、至極宜しからんと存じ、御多忙中をも顧みず筆執り申し候。

小生としては高等の學府に、最高の學を修めんよりも、早速社會に役立つ、鐵道方面に志願致す方が、一家の爲めにも自己の爲めにも、宜しきやう感ぜられ候。其の理由は、別に大したる物にては無之、唯だ鐵道は理論でなく、學問を實際に應用する處なることは、今更申すまでもなく、交通が社會に及ぼす利益の甚大なるを思ひ候時、鐵道の恩惠をつくづくと思はされ、自己が身を立つるには、之れに越したるもの無しとさへ感じ候につけ、先生は如何思召さるやらんと、茲に御教示を仰ぐ次第に御座候。

幸にも鐵道方面には、友達の父君も御奉職にて、先日友達の手引きにて御目にかかり、種々と希望をも述べ、御話をも承はり候處、一方ならぬ御好意を寄せられ、爲めに小生の心も動きたる次第に御座候。併し斯様のことは、先生の御指圖に限ると存じ、御手紙を差上ぐることに致し候。何卒御遠慮なく、御腹藏無き所を御漏らし給はり度候。

先は一筆御願ひ申上げ度、如斯に御座候。敬具。「終」

### —◁ 青森運輸事務所 ▷—

（昭和7年11月20日施行）

（一時間半）

問(1) (イ) 次ノ漢字ニ振假名ヲ附シ解釋スベシ。  
行脚。 異同。 雲烟過眼。 既望。 狐疑。



(ロ) 左ノ假名ニ漢字ヲアテハムベシ  
アツセン。 セツナ。 キリン。 ケンケンフ  
クヨウ。 ソホウカ。

〔解答〕(イ) (振假名・解釋) 行脚<sup>アンバヤ</sup>——僧侶が諸國を廻り歩いて、佛法を修業すること。

異同<sup>イドウ</sup>——異なると同じと。ちがひ。同じくないこと。同は單に附帶の字で、意味がない。

雲烟過眼<sup>ウンエンクワガン</sup>——雲烟が眼前を通り過ぐる如く、心にとめないこと。

既望<sup>キバウ</sup>——陰曆の十六日。十五夜を望といふから、望の既る義。いざよひに同じ。

狐疑<sup>コギ</sup>——疑深くして、決心のつかないのにいふ。狐の性疑ひ深く、氷河を渡るに、且つ聞き且つ渡るといふことからいふ。

(ロ) (漢字)アツセン(斡旋) セツナ(刹那) キリン(麒麟)  
ケンケンフクヨウ(拳拳服膺) ソホウカ(素封家)

問(2) 左ノ意味ヲ記セ。  
青服。 軍縮。 政見。 衝動。 協同戦線。  
綱領。 提携。 赤新聞。 黒表。 善處。

〔解答〕青服——<sup>なつほふく</sup>茶葉服ともいふ。労働者のこと。労働者の仕事服は、アサギ色だからである。

軍縮——<sup>ぐんしゆく</sup>軍備縮小の略。戦争を厭ひ、平和を希ふ目的から、各國の軍備を縮小すること。

政見——政治に関する意見、又は見識。

衝動——つきうごかすこと。目的を意識しないで、ただ何等かの行動をなさうとする心の活動。

協同戦線——(協は協の誤り、協は脅と同じでオビヤカス。協はアハセル。) 協同戦線とは、普通無産黨團體同志が、一定の運動闘争をやる時、共同行動をとること。共同戦線の方が正しいやうだ。一緒にといふ程の意もある。

綱領——おほぐくり。おほもと。かなめ。細目の對。

提携——主義又は意見の合致により、連合すること。共同して事をなすこと。互に助け合ふこと。もちつもたれつすること。提掣・提攜にも作る。左提右携の略。

赤新聞——赤本・赤新聞等は低級・悪徳を意味するから、さういふ新聞のこと。もと是等の新聞の多くが赤色紙を用ひたからだ。

黒表——ブラックリスト (Black list) の譯語。注意を要する人間の一覽表。

善處——うまく處置すること。處置をうまくすること。

問(3) 左ノ反語ヲ問フ。  
長し。 輕し。 深し。 行く。 進む。 動く。 上る。  
語る。 引く。 走る。 呼ぶ。 通る。 攻む。 起る。  
清し。 集る。 高し。 尠し。 禁ず。 臥す。

〔解答〕長し(短し) 輕し(重し) 深し(淺し) 行く(止る・留る) 進む(退く) 動く(靜か) 上る(下る) 語る(黙る) 引く(延ばす・進む) 走る(止る) 呼ぶ(應ふ) 通る(塞ぐ) 攻む(防ぐ) 起る(消ゆ・潰ゆ・亡ぶ) 清し(濁る) 集る(散る) 高し(低し) 尠し(多し) 禁ず(解く) 臥す(起く)



問(4) 左ノ文中漢字=振假名ヲ附シ——ノ線ノ箇所ヲ解釋セヨ。

努めて其の善なるものを選び、固く執りて性の如くならしめ力めて其の悪なるものを去り掃ひ盡くして性の如くならしめしのみ、異行なく奇想なし、平凡なる偉人といふべく、又尋常なる英傑といふべきか。……

郷人の祭には自ら出でたり、用ゐらるれば吏となり、臣に在れば俸祿を得、官を去れば一良民たるのみ、殆んど他の奇なし。されば子怪力亂神を語らずとて、其の言ふ所、其の考察する所、全く常識を出でず常識を以て律する能はざるものは、其の取る所にあらざりき。

〔解答〕(振假名) 努めて其の善なるものを選び、固く執りて性の如くならしめ力めて其の悪なるものを去り、掃ひ盡くして性の如くならしめしのみ、異行なく奇想なし、平凡なる偉人といふべく、又尋常なる英傑といふべきか。……

郷人の祭には自ら出でたり、用ゐらるれば吏となり臣に在れば俸祿を得、官を去れば一良民たるのみ、殆んど他の奇なし。されば子怪力亂神を語らずとて、其の言ふ所、其の考察する所、全く常識を出でず常識を以て律する能はざるものは、其の取る所にあらざりき。

(解釋) 努めて云々——善と認めて選んだ中から、更に善しと思ふものを、一氣に力を入れて擇び出すとの意。

固く執りて云々——擇び取つて最上の善だと思つたものを、シツカリと離さぬやうにして、自己の生れつきのやうにならし

て。

異行なく——人と違つた行がない。

奇想なし——珍らしい考もない。

尋常なる英傑といふべきのみ——特にこれと取立てて言はぬでもよい程のものでなく、アタリマへのスグレてエライ人間と言つてよからう。

郷人の祭云々——自分自身をエラサウに見せかくることなく、所謂郷に入つては郷に従へで、郷人達が郷の祭をする場合には、呼ばれないでも、自分自らノコノコと出かけて行つた。官を去れば云々——官に在つても誇らぬのだから、官職を辭すると、スツカリー人の善良な人民であるばかりで。

子——孔子。孔子も。(茲は子の前に孔、後にもの二字が印刷の場合に、刷れなかつたのか、ワザと斯うしたのか分らない。孔子もと、補つて解すべきだ。

怪力亂神を語らず——物怪の事や、勇力の事や、悖亂の事等の三つの事は、教化に益なく、言ふにも忍びない所であるから、聖人孔子も、謹んで御話しにならなかつた。(鬼神の事は深遠で測り知られず、且つ人智の及ぶ所でないから、御話しにならなかつたのだ。)

全く常識を出でず——總て普通一般人の有する見識と、何等違ひがない。

律する——きめる。一定の標準できめること。

問(5) 左ノ歌ノ意味ヲ問フ。

(イ) 赤化する木ぞ恐しき爐のまはり  
四方八方火の子飛び散る



(ロ) さかりをば見る人おほし散る花の  
跡をとふこそ情なりけれ

〔解答〕(意味)(表面意味) 緑の木々、何と美しかつたのに、何時か伐られて薪となると、燃えさかる火中に投げられる。すると昨の緑は、見る影もなく忽ち眞赤に燃え、紅蓮の焰を吹くもあり、甚だしきに至つては、爐の周囲の四方八方何れの方にも、ハゼる火の子が、パチパチと飛び散つて、恐しくて恐しくてたまらない。

(裏面意味) 世に共産黨と呼ばれて、赤化した人間達の恐いことよ。四方八方に當り散らして、其の迷惑たるや一方ならぬものがある。一旦黨員となつたが最後、如何な優しい人間でも、昨日までの優しきは更になく、親を忘れ兄弟を忘れ、人道を無視する其の恐しさ、イヤハヤ御話しにもなりはしない。

(ロ)(意味) 世の中の人の多くは、満開の花を此上なく愛でるのだが、あれが本當の花見る心なのか知ら……イヤイヤ咲きの盛りを愛づるのが悪いとはいはぬが、花に對する本當の情愛は、散り際とか、既に散つて後に、残んの花が、ハラハラと散るのや、葉櫻の梢を眺めて、昨日の花の盛りを想ひ見ることなのだ。それを何ぞや、花の盛りには狂的人出、散りての後の淋さつたら、お話しにならぬ。ナンと残ましの世相、人情ぢやワイ。

問(6) 左ノ文ニ句讀點ヲ附シ尙漢字ニハ振假名ヲ附シ全文ヲ解釋スベシ。

武田信玄國海に濱せず鹽を東海に仰ぐ今川氏眞北條氏康と謀り陰かに其の鹽を閉づ甲斐大に困しむ上杉謙信之を聞き書を信玄に寄せて曰く「聞く『氏

康氏眞君を困しむるに鹽を以てす』と不勇不義なり我公と争ふ争ふ所は弓箭に在りて米鹽に在らず請ふ今より以往鹽を我が國に取れ多寡は唯々命のままなり」と乃ち買人に命じ價を平かにして之を給せしむ。

〔解答〕(句讀點・振假名) 武田信玄、國海に濱せず。鹽を東海に仰ぐ。今川氏眞、北條氏康と謀り、陰かに其の鹽を閉づ。甲斐大に困しむ。上杉謙信之を聞き、書を信玄に寄せて曰く、「聞く『氏康氏眞、君を困しむるに鹽を以てす』と、不勇不義なり。我公と争ふ。争ふ所は弓箭に在りて米鹽に在らず。請ふ今より以往、鹽を我が國に取れ。多寡は唯々命のままなり」と、乃ち買人に命じ、價を平かにして、之を給せしむ。

(解釋) 武田信玄の甲斐の國は、山國のことで海に沿うてゐないので、鹽を東海の諸國から買入れて、其の御蔭を受けてゐた。駿河の今川氏眞は、之を困しめようと思つて、相模の北條氏康と相談して、内々秘密に其の頼みにしてゐる鹽の輸出を、禁止してしまつた。それがため甲斐は、一方ならず困つた。越後の上杉謙信は此のことを聞いて、同情の手紙を信玄に送つて曰ふのは、「承はる所によると、氏眞と氏康とが兵力でなく、鹽を以て君を困しむるさうな、勇氣のない道にかなはない仕方である。無論此の方も貴公と争つてゐるが、其の目的とする所は、義の爲めの武力であつて、物質の土地・米・鹽の爲めではないのだ。どうか今後は鹽を我が越後の國から御取りなさい。多い寡いは唯だ貴公の仰せ通り、幾らでも御送りしよう。」と言つてやつ



て、そこで商人に命令し、當りまへの値段にして、賣らしめた。

昭和8年10月1日

(2時間)

問(1) 左ノ漢字ニ振假名ヲ附シ解釋スベシ

土偶。 十善。 旁午。 殊勝。 津々。 右府。  
理想。 卓立。 世相。 國是。 宰相。 自主。  
陸梁。 良人。 凡人。 淵叢。 造次顛沛。  
五風十雨。 旗幟鮮明。 形影相弔。

〔解答〕 (振假名・解釋) 土偶——土人形。土をつくねて造つた人形。十善——天子の御位。十惡を行はないこと。十戒を保つこと。旁午——往來の繁きこと。縦横にゆきかふ。殊勝——別段に勝れたこと。けなげなこと。感心なこと。津津——多くしてあふること。趣味津々。(ツツと訓み到處の義ともする。) 右府——右大臣の異稱。理想——理性により想像する目的。人が完全と認むる考。到達せんとする終局。卓立——ぬきいでたこと。すぬけて高く立つ。世相——世間の形相。世上の様子。國是——輿論の承認せる國政の方針。其國の立國上の大方針。宰相——君主を輔弼して、大政を總理する極官。今の總理大臣。自主——獨立して他の保護又は干渉を受けないこと。自ら獨立して他の干渉を受けないこと。陸梁——ほしいまゝなこと。くるひはしる。みだれはしる。わるくはびこる。跋扈。良人——をつと。妻が其の夫に對していふ稱。亭主。凡人——俗人。平凡な人。常人。淵叢——物事のより集る處。(淵は魚の集る處、叢は獸の集る處。)

造次顛沛——つかのま。ちよつとのま。(造次は倉卒の意。顛沛は傾覆のまぎはの意) 五風十雨——氣候の順なる事。(五日に一度風あり、十日に一度雨ある義)。旗幟鮮明——たつる旗のあざやかなること。堂々と押し出すにいふ。議論・主張等の明確なるにもいふ。形影相弔——己一人のみで、他によるべき人なく、唯我が形と影との相弔する孤獨の身の稱。我と我が影と相憐む義。便りの無い獨り身の心細いさまにいふ。

問(2) 左ノ漢字ヲ用ヒ各三個ノ熟語ヲ作レ

通。 産。 道。 活。 旨。 本。 致。 督。  
卒。 藝。

〔解答〕 通——通學・通信・交通。産——産業・産物・土産。道——道德・道理・柔道。活——活用・活潑・生活。旨——旨趣・聖旨・本旨。本——本邦・本能・基本。致——致仕・致命・風致。督——督促・督勵・監督。卒——卒業・卒然・輕卒。藝——藝文・藝能・才藝。

問(3) 左ノ字句ニ誤アラバ説明セヨ

曠古未だ見ざる大業。騎處の勢を以て敵陣に肉薄す。義損金意外の多格に上れり。貴兄の御管見に賛成す。君だからこそ注意もする。彼は至極調法な男だ。僕は彼に左擔する。御添作を乞ふ。漂然家を出でて行衛を晦ます。無性に面白い芝居である。

〔解答〕 (正誤) 曠古未だ見ざる大業——古來未だ見ざる大業。



曠古は大昔。目偏の字はない。「千古未だ見ざるの大業」でもよい。騎虎の勢を以て敵陣に肉薄す——「破竹の勢を以て敵陣に肉薄す」と用ふ。騎虎の勢の語はあるが、事の中で中止し難きに用ふ。下りれば却つて虎に喰はれるからである。故にトントン拍子の場合には斯く用ふ。義損金以外の多格に上れり——「義損金意外の多額に上れり」と用ふ。義損金でなく義損金であり、多格でなく多額であらねばならぬからである。損はソンをすること。捐はスツること。義の爲めにスツる義。格と額との異なることはいふまでもない。

貴兄の御管見に賛成す——「貴兄の御意見に賛成す」とありたい。管見は管から見たやうな狭い見識の義で、先方を輕蔑することになる。狭い御見識とは馬鹿でも怒るであらう。君だからこそ注意もする——口語だからそれでよい。文語なら係結を嚴にして「君なればこそ注意もすれ」とあるべきだ。彼は至極調法な男だ——「彼は至極重寶な男だ」とすれば無難。但し調法は重寶の轉で、何れも便利多き意であるから、其のままでも、誤ではない。

僕は彼に左擔する——「僕は彼に左袒する」とありたい。左擔は左肩に擔ふで、茲の意に反する。左袒は味方し、加勢する義。漢の周勃が呂氏を鎮定せんとした時の故事。全軍が劉氏の爲めに左肩をぬいだのに始まる。御添作を乞ふ——「御添削を乞ふ」とあるべきだ。添削は文句をソへたりケツツたりすることである。それでなければ意味をなさない。漂然家を出でて行衛を晦ます——「飄然家を出でて行方を晦ます」である。飄然は、漂うて定まらぬ義で、何氣なく立去つたり、出て来るさまである。但し漂然とは用ひない。行方は行く方向であるから、

行衛ではいけない。無性に面白い芝居である——「無上に面白い芝居である」とすべきだ。無性は無精と同じで、ブジャウで怠つて物事をなほざりにすること。無上はムジャウで、此の上もなくの意であるからである。

問(4) 左ノ文中○ノ箇所=漢字ヲ當テハメヨ

むかし顯基○○○といふ人は「○なくて○○の月を見ればや」といつた。月夜の○○なき光は○  
○○○に○ぢることのない心を○て○めてこそ○  
○○す友である。○められる月に一點の曇もなく、○める我が心に○○の○もない○しさ。良心の○○の○は○ち○○たる月の光に○ならぬ。  
心○かに月を見て心○かに月を楽しむ人は世に一人の友もなく、○○の○○なくとも誠に○○の廣い人である。○○に○ぢない人である。

〔解答〕 むかし顯基中納言といふ人は「罪なくて配所の月を見ればや」といつた。月夜の玲瓏隈なき光は俯仰天地に愧ぢることのない心を以て眺めてこそ肝膽相照す友である。眺められる月に一點の曇もなく、眺める我が心に一塵の汚(穢)もない麗はしさ。良心の眞澄の鏡は即ち皎皎たる月の光に外ならぬ。

心靜かに月を見て心靜かに月を楽しむ人は世に一人の友もなく一介の同情者なくとも誠に天地の廣い人である。天地に愧ぢない人である。(備考) 問題には眞澄をシントウと讀んである。

問(5) 左ノ文中漢字=振假名ヲ附シ全文ヲ解釋セヨ

孔子時運の非なるを見、五十六歳の老軀を挺し、門下の高足を率ゐて四方に遊説を試みぬ。當時の



支那は所謂春秋戦國の亂世なり。周の王室は名のみにして、君臣の大義は蕩然として地を拂へり。或は臣にして其の君を弑するものあり。子にして其親を害するものあり。強は弱を呑み、大は小を併せ、權力の外に道義あるなく、教化の陵夷、風俗の頹廢、未だ曾て此の時の如きはあらず。孔子既に志を魯に得ず。乃ち慨然として故國を出で、大義名分を天下に唱へて、狂瀾を既倒に廻らさんとす。志や且大なりと謂ふべし。

〔解答〕（振假名）孔子時運の非なるを見、五十六歳の老軀を挺し、門下の高足を率ゐて四方に遊説を試みぬ。當時の支那は所謂春秋戦國の亂世なり。周の王室は名のみにして、君臣の大義は蕩然として地を拂へり。或は臣にして其の君を弑するものあり。子にして其の親を害するものあり。強は弱を呑み、大は小を併せ、權力の外に道義あるなく、教化の陵夷、風俗の頹廢、未だ曾て此の時の如きはあらず。孔子既に志を魯に得ず。乃ち慨然として故國を出で、大義名分を天下に唱へて、狂瀾を既倒に廻らさんとす。志や高且大なりと謂ふべし。

（解釋）聖人孔子は、時のまはり合せが、自身によくないのを察すると共に、五十六歳といふ老體を引出し、門弟の優秀なる者達を引連れて、四方の國々へと出かけて、自らの意見を説廻る事を試めされた。なぜそんな事を始められたかといふに、其の頃の支那は、世に謂ふ所の、春秋戦國の亂世であつて、随つて周の王室は、王室といふ名許りで、君臣間に於ける大きな義理は、みだれ切つて跡方もなくなつてしまつた。或者は臣たるの分際

をも顧みず、其の事ふべき君を弑し奉る者があるかと思ふと、子の身を以つて其の親を殺害する者がある。強國は弱國を、大國は小國を併呑するといふ具合に、他を強制・服従する權力以外には、人の履行ふべき正しき筋道等はテンでなく、教育・感化の道は、ヲカが段々と、低く平地となるがやうに、段々衰へ、立派な世のならはしは、是れ亦くづれすたれて、まだこれまで、此の春秋時代のやうに、衰へすたれた時代はなかつた。孔子はもはや生國魯の國では、自分の道を行はうとする志を達することが出来られないので、そこで憤り歎いて郷里を立去り、大義名分なる君臣間の大道を天下に唱へ叫んで、荒れ狂ふ大波をもとに戻すやうに、衰へ廢つた道德を再びもとに戻さうとせられた。此の志たるや、實に高大な志だといふべきである。

## 作文（40分）

（昭和7年11月20日施行）

### 『題』 我が家（文體隨意）

朝に富嶽を仰ぎ、夕に清見瀉・三保の浦を眺め、四時を通じて眺望の飽くなきは、我が家であらう。花によく霞によく、雨によく風によく、月によく雪によく、雲によく嵐によく、晴によく曇によく、春には春の趣、夏には夏の趣、秋には秋、冬には冬の趣があつて、此等の自然は、景色は、生活上の苦しみを忘れしめて呉れるのである。

世に絶佳と稱せらるる美景は多い。併し僕の家から眺めた



景色に至つては、恐らくは他にあるまい。太田道灌が千代田城内の佳景を誇りに、

「我が庵は松原續き海近く

富士の高嶺を軒端にぞ見る」

と詠んだのにも、富嶽の秀麗は窺はれるが、松原續きとだけでは、我が家から見た、田子・清見・三保の趣には比せらるべくもない。況して居ても富士、起ちても富士、軒にも富士、窓にも富士、家根に梢に、富士は朝夕を微笑んで見せる。如之、<sup>しかのみならず</sup>波波の沫風の音、松の響磯の香、<sup>なごろ</sup>渚漕ぐ舟白帆の影、遠くに近くに聞ゆる舟歌、田畑に急ぐ百姓姿も、總てが繪であり、詩であり、歌であり、文でなくてはならぬ。

富士を詠んだ歌の中で、一番いいのは何と言つても、千種有功の

「千度見て千度珍らし雲風に

姿定めぬ富士の芝山」

であらう。僕の家は貧でこそあれ、さういふ景色の中に在るのだ。藁屋でこそあれ、景色には恵まれて居るのだ。其所に一家六人が嬉々として生活してゐる。祖父も祖母も、共に九十歳を越してをられる。想ふに空気が清く、景がよいからであらう。父も母も<sup>もつと</sup>屹度長生きが出来ると喜んでをられる。妹だつて僕だつて祖父さんなんか負けるものかと、<sup>ちきん</sup>りきんでゐるのだ。

でもほんの田舎で都會の繁華には比すべくもないが、四時を心の苦とてはなく、愉快に楽しく暮せることから思ふと、千金にも代へ難いものがある。今は家の都合で、此の地の親類の家に寄寓の身ではあるが、何時となく我が家が懐しまれる。切め

て夢になりとも、念じ續けてゐる。おお慕はしの我が家よ、懐しの我が家よ。 「終」

(昭和8年10月1日施行) (1時間)

『題』 信 (文體隨意)

信とは何ぞや、辭書の載する所によると、マコトなり、眞實なり、忠實なり、<sup>うそ</sup>虚言・<sup>いつはり</sup>偽を言はざるなり、篤實にして欺かざるなり等々の、多くの意義が記されてをる。然り信は全く偽なく、誠なることは、今更言を待たないのではあるが、余は「信は力なり」と叫びたい。

凡そ人の世に在る。信がなかつたら世渡りは困難であらう。故に吾人が一日として離れてはならぬ。五倫・五常の中にも、取り入れられて、人間の日常守るべき、徳目の一つとせられてゐるのである。即ち五倫にあつては「朋友相信じ」とあり、五常としては、仁・義・禮・智・信と並べられてゐる。若し人にして信がなかつたら、世人は社會は、必ずや相手にして呉れないであらう。

然れば信は實に五倫となり、五常となつて、人たるの道を全うせしむるものといへよう。信なき所、君臣・父子・夫婦・長幼・朋友の間に於て、それぞれの美徳を發揮し得ないであらう。況して社會の信用は何に依つて保たれるか、苟くも此の信がなかつたならば、人は闇夜に明を失つたと同様ではあるまいか。信ある所人は、明るい世渡りが出来るのである。

若し夫れ信を道徳的に見んか、信言となり、信義となり、信



愛となる。之を社会的に見んか、信用となり、信頼となり、信任となる。之を宗教的に見んか、信念となり、信仰となり、信心となる。又意志の上から見るならば、確信ともなり、自信ともなるであらう。而して信は斯く人をして、人格的ならしめ、以て立派なる人間として、自己の地位を安全ならしめるのである。

余が前に「信は力なり」なりと、叫んだ所以は、實に茲にあるのだ。若し信即力ならずんば、何をか愛し、何をか信じ、何をか信ぜしめ、何をか確信し得られよう。信ずるも、信ぜらるるも、總ては力である。信なき所、信用も地位も、名譽も物質も、必ずや自己から遠ざかるであらう。 「終」

—〈福島運輸事務所〉—

(1時間30分)

問(1) 左ノ文ノ大意及傍線ノ解釋ヲ記セ。

何事も入りたたぬ様したるぞよき。よき人は、知りたる事とて、さのみ知り顔にやは言ふ。  
片田舎より差し出でたる人こそ、萬の道に、心得たるのさしいらへはすれ。されば世にはづかしき方もある、自らも、いみじと思へる氣色、頑なり。よくわきまへたる道には、必ず口重く、問はぬ限りは、言はぬこそいみじけれ。

〔解答〕(大意) 何事によらず、人は出しやばらぬがよい。又何彼と知つて居ることでも、知つたかぶりをするのは見つともない。口重くして喋らぬがよい。(出しやばりとおしやべりと

を戒めたものだ。)

(傍線解釋) 入りたたぬ様——深く立ち入らない様子。

よき人——上品な物の分つた人。賢い人。

知り顔にやは言ふ。——知つたふりをして、物言ふものではない。知り顔に言はうや、言ひはせぬ。やはは反語。

さしいらへはすれ——返答はするものだ。さし出た挨拶はするものだ。應答するものだ。

はづかしき方——都の人でも恥しいと思ふ位の物知り人。或は、都の人が恥しいと思ふまでに、よく物を知つてゐて、奥床しいといふ點。世にはヒドク。

氣色——様子。

頑なり——見苦しい。下品である。

言はぬこそいみじけれ——自分から言はぬ方が、ひどくすぐれて宜しい。口出しせぬ方がよい。喋べらぬのが宜しい。

問(2) 左ノ文中片假名ヲ漢字ニ改メヨ。

シンケイ再び鳴いてザンゲツウスく、セイバしきりにイナナいてコウジン出づ。はやわかれゆくヨコグモヤノコンの星を一つづつ、カネが消しゆくいなめの長柄ヅツミに秋夕けて、一村アシに風黒く、アリアケスゴき大川水、ユきてカへらぬ波の音、サギリにムセび白けゆく、チグサがカゲの虫の聲、アハレはいとどまさるらん。

〔解答〕 晨鷄再び鳴いて殘月薄く、征馬しきりに嘶いて行人出づ。はやわかれゆく横雲や殘の星を一つづつ、鐘が消しゆくいなめの長柄堤に秋闌けて、一村蘆に風黒く、在明(有明)凄



き大川水、逝(往)きて還らぬ波の音、狭霧に咽び白けゆく、  
千草が蔭の虫の聲、哀はいとどまさるらん。

(備考) 行人はカウジン。一村は一叢とあるべきだ。本文は坪内逍遙の「桐一葉」長柄堤の一節)

問(3) 左ノ成語ノ右側=讀方ヲ附シ下部=意味ヲ記セ。

(イ)不羈の才。(ロ)多岐亡羊。(ハ)斷金の友。  
(ニ)社稷。(ホ)眞諦。

[解答] (讀方・意味) (イ) 不羈の才——馬などをつながれぬ義で、常人と同じ様に、取扱はれない才能あるにいふ。才能が常規を以て律せられぬこと。又は才能が人とかけはなれてゐること。

(ロ) 多岐亡羊——亡羊之嘆に同じ。學問の道の多岐なるを嘆ずること。えだ道が多くて、亡げた羊を探し得ない喩。

(ハ) 斷金の交——極めて固き交りにいふ。極めて親しき交りにもいふ。厚い友情。友情深く堅くして、金屬を打ちきる程であるとの義。斷金之契に同じ。易經に出づ。「二人同心、其利斷金。」

(ニ) 社稷——宗廟又は國家の意。社は土地の神。稷は穀物の神で、君主が新たに國を建てる時、此の二神を王宮の右に祭り、宗廟を左に祭るからである。

(ホ) 眞諦——まことの道。平等の理性、即ち眞如のこと。眞理・聖諦。

### 尋常小學校卒業生に對する分(1時間30分)

問(1) 左ノ文ヲ解釋セヨ。

そのかみ金殿玉樓相望みつつうちつづく都大路を  
大宮人の櫻かざして紅葉かざして往來しけむ今に  
して思へば唯一場の夢に過ぎず。

[解答] (解釋) その昔極めて装麗な御殿や、極めて立派な高殿が對ひ合つて、ずつと續いてゐる華かな都の大通りをば、宮中に御仕へして御座る御役人方が、春は櫻狩り、秋は紅葉狩りの歸途に、櫻の小枝や紅葉の小枝を、冠や頭に挟みなどして、往つたり來たりしては、風流の限りを盡したらしい、其の折々の事をば、何彼と多忙で暇のない現代から想像して見ると、どうしてもそれが事實とは思へず、現實を離れた、唯ホンの其の場限りの夢としきや思へない。

問(2) 左ノ文中片假名ヲ漢字ニ改メヨ。

風流のシンギはヂンセイを忘れることである。全くヂンセイを忘れてクワツドウシヤクワイを離れることはイントンシヤのショギヤウであるが、少くともカウカウたる明月ガイガイたる白雪、雲の如き霞の如き花に對して、これをナガめて居る間はいかなる人もリヨクにエイエイたるジツシヤクワイを忘れるのである。月雪花のカウヨウはピジュツと同じく人をカウシヤウにし人をランガにするのである。

[解答] 風流の眞義は塵世を忘れることである。全く塵世を忘れて活動社會を離れることは隱遁者の所行であるが、少くとも



皎々たる明月皚々たる白雪、雲の如き霞の如き花に對しては、これを眺めて居る間はいかなる人も利欲(慾)に營々たる實社會を忘れるのである。月雪花の效用(效用)は美術と同じく人を高尚にし人を温雅にするのである。

問(3) 左ノ成語ノ右側=讀方ヲ附シ下部=意味ヲ記セ。

- (イ) 撞著。 (ロ) 掣肘。 (ハ) 覆轍。  
(ニ) 忽諸=附ス。 (ホ) 吞舟ノ魚。

- 〔解答〕(讀方・意味)(イ) 撞著——あとさきが揃はぬこと。つじつまがあはぬこと。矛盾に同じ。著は助字。  
(ロ) 掣肘——干渉して自由を妨げるにいふ。他人の肘を、傍からひく義。  
(ハ) 覆轍——車のくつがへつたあと。前の失敗にいふ。人のした失敗を自らもするを、覆轍を踐むといふ。  
(ニ) 忽諸=附ス——物事をいい加減にしてしまふこと。但し、忽略を誤つて、然かいふのだ。忽諸は滅び盡きるさま。  
(ホ) 吞舟ノ魚——舟をのむ程の魚の義。大魚のこと。轉じて非常の大人物とか、傑物の意。

## 作文

### 中學校卒業者に對する分(1時間)

#### 『題』 非常時に處する覺悟

甲も乙も丙も丁も、口を開けば、必ず非常時と叫ぶ。今や實に世を擧げての非常時である。西を見ても東を見ても、北を見ても南を見ても、我國に好意を寄するものは、殆んどないと言つても、敢へて過言ではあるまい。男は勿論、女も子供も、老

人も時と場合に因つては、劍を執り銃を擔いで、外敵を防がなければならぬのだ。所謂危急存亡の秋に、差し迫つてゐるのだ。罷り間違へば、國家の運命を賭しても、雌雄を決しなければならぬのだ。おお曇卵の日本、吾人は如何にして、此の危険状態から脱すべきか。

恐るべきか、將た安んずべきかは、唯吾人青年の目覺めたるか、眠りたるかの如何に因るのみだ。青年目覺め、元氣横溢すれば、敢へて恐るべしとしないのだが、若一惰眠を貪り、思想堅實ならざれば、萬事窮するのである。非常時日本、それは吾人青年の目覺めか、否かの岐路に彷徨してゐるかの形に置かれてゐる。して見れば吾人青年の責任たるや、重且大であつて、當に緊禪一番、大に覺悟せざるを得ない。

然らば吾人青年は、如何に覺悟すべきか、多言を要しないのである。「大御心を體し、専ら己が責任を果す」といふにあらうと思ふ。上御一人に置かせられては、常に國民思想の堅實ならんことのみ、大御心を惱まさせ給ふのである。

即ち「國民精神作興=關スル御詔書」の中に「宜ク教育ノ淵源ヲ崇ヒテ智徳ノ竝進ヲ努メ細紀ヲ肅正シ風俗ヲ匡勵シ浮華放縱ヲ斥ケテ質實剛健ニ趨キ輕佻詭激ヲ矯メテ醇厚中正ニ歸シ人倫ヲ明カニシテ親和ヲ致シ公德ヲ守リテ秩序ヲ保チ責任ヲ重シ節制ヲ尙ヒ忠孝義勇ノ美ヲ揚ケ博愛共存ノ誼ヲ篤クシ入リテハ恭儉勤敏業ニ服シ産ヲ治メ出テテハ一己ノ利害ニ偏セスシテカヲ公益世務ニ竭シ以テ國家ノ興隆ト民族ノ安榮社會ノ福祉トヲ圖ルヘシ」

と仰せられてある。吾人國民は、曩に斯く大御心を惱まし奉り、今又此の非常時に際して、再び大御心を惱まし奉るやうな所業に、心を墮してゐる國民なきにしもあらずである。故に此際吾人青年は、大に目覺めて、多數國民の惰眠を覺し、自ら其の先頭に立つて、彼我共に正しき軌道を踏むことに、努めなくてはならない。



然るに今や青年は、果して目覺めたるか、否々男女の論なく一はスポーツの影に隠れ、一は研究を名として、眞の國民精神を忘却してゐる手合が、少なからぬ數に上つてゐるといふ状態ではないか。將又有閑階級に於ける、醜惡極まる所業を如何と化する。彼の中流・下流を問はず、日々の新聞を賑はす、殺人乃至其他の罪惡は、抑々何に因つて起るか。是れ實に「教育ノ淵源ヲ崇ベ」ず、「綱紀ヲ肅正シ風俗ヲ匡勵セ」ず、「浮華放縱」に流れ、「質實剛健」ならず、「輕佻詭激ヲ矯メ」ず、「人倫ヲ明カニセ」ず、「秩序ヲ保タ」ず、「責任ヲ重ンゼ」ざるの結果、「一己ノ利害ニ」のみ偏し、「恭儉勤敏業ニ服セ」ず、眼中公益なく、國家の興隆なく、民族の安榮なく、社會の福祉なきに因るものではあるまいか。彼を思ひ此を思ふ時、豈に寒心せざるを得ざらんやである。青年目覺めざるべからず。青年起たざるべからず。青年の覺悟は、非常時日本の安危に關することを忘れてはならない。 「終」

### 尋常小學校卒業者に對する分 (1 時間)

#### 『題』 初 夏

櫻が散ると間もなく初夏です。あらゆる新緑が、若葉が、初夏の先驅です。時鳥が鶯の後を受けついで、新緑を讚美する時が、初夏なのです。

一日は一日増しに、ホカホカと暖かさを加へて、人生を明るくして呉れます。何處を見ても、新緑の世界です。花の一時なのに比して、新緑は長い生命を持つて居ます。新緑から青葉へと、随分長い期間を楽しませて呉れます。

何時か躑躅も咲いて、青地の野邊に、深紅の模様を織出して呉れます。諸々の鳥は鳴き、風も水も清く、野は一面の青壘を敷いて、人間の到るを待つて居るらしいので、散策の男女の姿が、遠ち近ちて見えます。軽いパラソルをクルクルと廻しながら

ら行くのも、新緑にはいゝ釣合ひです。

此の時僕等少年には、運動といふお友達が、附い纏つて居るのです。運動場にも路地にも、キャッチボールが始まります。軟球試合が始ります。新らしいユニホームまで造り、何々團と名までつけて、甲と戦ひ乙と争ひ、勝つたの負けたのと、それはそれは、大騒ぎまで演ずるのも、此の初夏からです。

天氣の日は、一家總出の野遊びです。汐干狩りです。思ひ思ひの趣向を凝らして、一日を過すのも、愉快なことに違ひありません。散策にも、旅行にも全くよい時機です。寫生道具か寫眞機でも持つて、何處となく駈けずり廻るのも、又とない喜びではありますまいか。 「終」

### —◁山形運輸事務所▷—

(昭和7年9月11日施行)

(一時間)

問(1) 左ノ文中傍線ノアル部分ヲ解釋セヨ。

<sup>1</sup>國難日本の叫びを聞くこと久しく而もこれが打開  
を見ざるに今や國を擧げて未曾有の難局に逢著し  
非常時を以てするに至つただがわれ等國民は袖手  
傍觀して自滅を待つが如き意氣地なき民族ではな  
<sup>4</sup>新興日本の建設へ！これこそ九千萬國民の意氣  
を躍動せしめ不撓不屈の精神力を彌が上にも擧揚  
高調せしめるものである自ら内に燃ゆる旺盛の意  
氣萬人手を携へて進む共同の努力これこそ凡ゆる  
難關を突破する唯一の原動力である今や窮迫せる  
時局に直面してその匡救豫算の實施と相並行しこ



の精神に基き新に綱領<sup>11</sup>を掲げて全國教化機關一齊<sup>12</sup>に蹶起<sup>13</sup>し國民更生運動を敢行せんとするものである

- 〔解答〕(傍線解釋) 1、國難——一國の危難。國の難儀。國のわざはひ。日本國難來の義。
- 2、未曾有の難局に逢著し非常時を以てするに至つた——未だ一度も無い、處理の困難な事局に出くはし、一通りならぬ、尤も警戒すべき時とすることになつた。
- 3、袖手傍觀——關係することを避けて、空しく成行きを眺める。
- 4、新興日本の建設——舊套を脱した新興の日本を建て設ける
- 5、國民の意氣を躍動せしめ——日本國民のいきごみ、即ち元氣ををどり立たせる。
- 6、不撓不屈の精神力——撓みもせず、屈しもせぬ氣力。
- 7、舉揚高調——ほめそやし、激しく盛ならしめる。
- 8、旺盛の意氣——さかんな元氣。
- 9、今や窮迫せる時局に直面し——今やおひせまつた時勢の成行きに、直接に對することとなつて。
- 10、匡救豫算の實施——其の時局をただし救ふ爲めの、前に立てた見積りを實際に行ふこと。
- 11、綱領——おほぐくり。おほもと。かなめ。
- 12、全國教化機關一齊に蹶起し——日本全國に於ける教育・感化に關して、施設せられたもの等が、同時にはね起きて。(教育者は言ふに及ばず、神官、僧侶等が起ち上ること。)
- 13、國民更生運動——疲弊し切つた國民が、息をつくことが出

來るやうにとの、奔走・盡力。

問(2) 左ノ語=讀假名ヲ附シ解釋セヨ。

- イ、狼狽。 ロ、彌生。 ハ、標準。  
ニ、權衡。 ホ、滅多。 ヘ、郊外。

- 〔解答〕 イ、狼狽——うろたへる。周章に同じ。
- ロ、彌生——陰曆三月の異稱。舊の三月。
- ハ、標準——めあて。めじるし。めあてとするのり即ち手本。
- ニ、權衡——はかりのおもりとさをとのこと。はかりにもいふ。轉じて釣合・平均。
- ホ、滅多——無數の義。めちやくちや。やたら。みだりに。むやみに。容易に。なかなか。滅多には殆ど又は稀にの意もある。
- ヘ、郊外——村はづれ。町はづれ。郭外。市街ぞと。

問(3) 左ノ文中片假名ヲ漢字ニ直セ。

我國民がセカイ( )に對してハツテン( )  
し活動する上に於ては如何なるジャウタイ( )  
になつて居るであらうか自他のジジャウ( )  
の爲に國民のパウチャウ( )がソガイ( )  
せられては居るまいかこれ等は國家のゼント( )  
)を思ふ者のジユクカウ( )すべき問題で  
ある。

〔解答〕 我國民が世界に對して發展し活動する上に於ては如何なる状態(情態)になつて居るであらうか自他の事情の爲に國民の膨脹が阻害せられては居るまいかこれ等は國家の前途を思ふ者の熟考すべき問題である。



(昭和8年11月5日施行)

## 中等學校卒業者に對する分(作文共二時間)

(問) 1 左の文中——線を施したる箇所は語釋をなし全文を通釋せよ。

孔子既に志を魯に得ず。乃ち慨然として故國を出で、大義名分を天下に唱へて、狂瀾を既倒に回さむとす。その志や高且大なりと謂ふべし。かくの如くにして四方を漂浪すること十三年、時非にして道容れられず。世また耳を名教に傾くる者なし。ここに於て已を得ず、老脚蹉跎として再び魯に歸り、歎じて曰く、「嗚呼吾が道途に窮す、世遂にわれを知るものなきか」と。

〔解答〕(語釋) 1、慨然として故國を出で——道義廢れた世間に對して、愛想をつかし、歎き憤つて、自分の生國魯國を立ち去り。

2、大義名分——君臣間の大道、即ち臣として君に盡すべき道や、人倫上の分際、即ち君に對しては臣として、父に對しては、子としての分際といふこと。

3、狂瀾を既倒に回さむとす——荒れ狂ふ大浪を、以前の平靜だつた時のやうに、しようといふ意で、既に衰へ廢つた道徳を、再びもとに引戻さうとする。

4、耳を名教に傾くる者なし——世人が孔子の大義名分の教へを、テンデ聞かうとする者がない。(それ程道徳は廢つた。)(名教とは、儒教では五倫・五常など、名義を立てて教へるから、然か言ふのである。)

5、老脚蹉跎——老いた疲れた脚を、引きずつて、つまづきながら、よろよろと歩くこと。

(全文解釋) 孔子は最早や魯の國では、自分の道を行はうとの志を、達することが出來ないと斷念して、其處で大に憤慨して、郷里を立去り、大義名分を、天下に唱へ叫んで、既に衰へ廢つて、左右顧みられない道徳を、再びもとの状態に引戻さうとした。其の志や實に、高大と謂つて宜しい。斯様にして諸國を説いて、當てもなくさまよひつつ、歩き廻ること、十三年の長きに及んだが、何分にも時勢が悪い爲めに、其の道は用ひられず、加之に世間では、モウ大義名分の教へを聞かうとする者すらない。そこで已むを得ず、老いぼれて踏みごたへのない、ヨロヨロの脚を引きずつて、再び郷里の魯國に歸つて來て、歎息して言ふのには、「ああ・あ、我が唱へる大義名分の教へは、到頭行き詰つてしまつたワイ。此世にはいよいよ、我が心を理解して呉れる人は、無いのかいなア」と。(言つた。)

問(2) 左の諺及び文章に解釋を附せ。

(1) 敢て後れたるにあらす馬進まざるなり。

(2) 牛に對して琴を彈ず。

(3) 洵に忠孝兩全の歎ありて、骨肉の私情さすがに絶ち易からざれど、事體の大小、云爲の先後、必ずしも辨じ難からず。何ぞ妄りに一身の安慰を冥々の後にのみ求むべしとせむ。

〔解答〕(解釋) (1) 敢て後れたる云々——私は押切つて功を建てようと思つて、ワザと殿後を爲した譯ではありませぬ。此の乗馬が疲れ切つて、進まなかつたものですから、遂ひ遂



ひ後れて、殿後にあつた許りです。

(備考) 論語雍也篇、第六の孟之反の故事。齊と魯との戦に、孟之反が、敗れて殿し、將に門に入らうとした時、其馬に策ち急がせて曰つた言葉。軍敗れて退く時、軍後にあつて、追撃を防ぎつつ還るを以て、功とするからである。孔子は此の行爲を「勇にして謙なり」と褒めて居られる。

(2) 牛に對して云々——「愚人にむかつて道理を説いても、其の効果が無い」との喩である。(牛に對して妙手を揮つて、琴を弾いた所で、何等の感銘も與へぬからである。「馬の耳に念佛」に同じ。)

(3) 洵に忠孝云々——世には洵に忠と孝とを、二つながら同時に行ふ事は、出来難いといふ悲しみがあつて、親子兄弟の情として、場合によつては、如何にも絶ち切つて、君の方に参り難いこともあるけれども、此の場合は何れの事柄が大きいか、何れの事柄が小さいか、何れを先きにし何れを後にすべきかと言ふことは、必ずしも辨へ難いといふことはない。何んで性急に忠に死んで、自己一身の慰め安んじを、死後にのみ求めねばならんといふことがあらうか。あるまい。

(備考) 此文は間違へ易い文である。忠を盡すといふことは、結構なことではあるが、其の場合孝を先にした方がよいと思うたら、孝を全うしてから忠を盡せよといふのであらう。自己一身の名譽からいふと、親を措いても忠を盡せば、其の時代は勿論、後世までもほめたたへらるるには違ひないが、場合によつては、孝を先にするべきとの意であらう。作者の意に反するかも知れぬが、さうしか取れまい。

### 尋常小學校卒業者に對する分(一時間)

問(1) 次の文章を読みその大意を簡単に書け。  
山路を登りながら考へた。智に働けば角が立つ。情に棹せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。住みにくさが高じると安い所へ引き越したくなる。どこへ越しても住みにくいと悟つた時、詩が生れて畫が出来た。

[解答] (大意) 「人世は智だけでも情だけでも駄目だ。意地つ張りでは尙更住みにくい。所が何處の世界でも同じだと悟つた時、唯詩歌の世界のみが我に在る。」(といふのだ。山路を登り乍らの作者、實は漱石自身の述懐である。)

問(2) 左の文中誤つた文字や適當でない語があらば正せよ。  
觀喜の眼を輝かす。無人島を探險する。事件が不思議で複雑なので創造がつかない。今日は結構なお天気です。よい習慣をつけるのは用意でない。

[解答] (正誤) 觀喜の眼を輝かす——歡喜の胸を躍らす。  
無人島を探險する——無人島を探險する。  
事件が不思議で複雑なので創造がつかない——事件が不思議な程複雑なので想像がつかない。  
今日は結構なお天気です——今日は結構なお天気です。  
よい習慣をつけるのは用意でない——よい慣習をつけることはなかなか容易でない。

問(3) 次の言葉の反對語を書け。

精米 = 分家 = 有用 = 供給 = 進歩 =



曇天 = 早い = 開く = 西洋 = 晝 =

〔解答〕 精米 = 玄米。分家 = 本家。有用 = 無用。供給 = 需要。  
 進歩 = 退歩。曇天 = 晴天。早い = 早い (遅い)。開く = 閉づ。  
 西洋 = 東洋。晝 = 夜。

問(4) 次の語に反対の意味を持つ語を書け。

建設 = 安全 = 従順 = 成功 = 収入 =  
 長壽 = 起點 = 可決 = 努力 = 原因 =

〔解答〕 建設 = 破壊。安全 = 危険。従順 = 横着。成功 = 失敗。  
 収入 = 支出。長壽 = 短命。起點 = 終點。可決 = 否決。努力 = 懈  
 怠・サボル (Sabotage の略轉)。原因 = 結果。

問(5) 次の文の片假名の所を漢字になほせ。

- イ、ネツレツモゆるが如きアイコクのシセイをア  
 ラハす。  
 ロ、カウセフのゼンケンをキニンせられシユツパ  
 ツせり。  
 ハ、テンガンコトにうるはしくエませタマひぬ。

〔解答〕 イ、熱烈燃ゆるが如き愛國の至誠を表はす。  
 ロ、交渉の全權を委任せられ出發せり。  
 ハ、天顏殊にうるはしく笑ませ給ひぬ。

(昭和七年九月十一日施行)

## 作文 (一時間)

『題』 我が希望 (文體隨意)

人にして誰か希望がなからう。凡そ命ある者には、何者にも  
 希望がある。希望なきは、死と同然である。然れば希望は生命

である。是れが僕の如き凡夫にも、希望のある所以である。

僕は最初軍人を志した。行く行くは軍人となつて、天晴帝國  
 軍人として、大君への御奉公をしようと思つて居たが、體格が  
 軍人には適しまいといふことで、已むなく斷念した。次ぎに希  
 望したのが、此の鐵道である。鐵道の方なら體格も大丈夫と思へ  
 るので、鐵道人として身を立てようと思ふに至つたのである。

何がさうさせたか、むづかしい理由も何にもありはしない。  
 實は僕の伯父上が、鐵道に奉職して居られるものだから、其の  
 方面の話始終聞かされてゐるものだから、軍人がいけないと  
 なると、よし伯父さんの後繼ぎと許り、早速のお宗旨がへだ。  
 いや已むを得ずのお宗旨がへなのだ。苟くも男子たる者が初一  
 念を變へるといふことは、他に對しても自分自身としても、恥  
 かしい次第ではあるのだが、意志でなく體格故なら、諦めずば  
 なるまい。

そこで僕は昨年頃から、家業の暇々に、マア受験の準備とい  
 ふやうなものを始めた。所が家業の方にばかり追はれて、勉強  
 はなかなか思ひに任せない。グズグズしてゐるうちに、何時  
 か試験だ。合格か不合格かは時の運命だ。兵家にさへ勝敗があ  
 るんだもの、況して「吾人職を得んと欲する者に於てをや」で  
 ある。

嗚呼希望・希望、常は希望の念に燃えて居ても、斯く作文題  
 として課せられては、何と書いて宜しいのか、全く困らされ  
 る。併し「希望は生命なり」との眞理に、間違ひはあるまい。  
 然り僕は其の眞理に基づいて、屹度我と我が希望を果して見せ  
 よう。 「終」



(昭和八年十一月五日施行)

## 中學校卒業生に対する分

## 『題』 我國交通界の現状に就て (文語體)

アメリカ生れの第二世が、最近未だ見ぬ母國へ歸つて來た。そして是れ亦見も知らぬ、併し温い祖父母、さては實姉の許に喜びを交はしに來た。其の第二世が、驚異の眼を見張りつつ話す所によると、「日本は開けたと言つても、まだまだたいしたことはあるまいと思つて來ましたが、横濱埠頭に一步を踏み入れました時、全く驚きました。あの自動車の多かつたこと、アメリカの市でも、一寸見受けられませぬ」と、實際は下手な日本語で話すのであつた。

此の言たるや、日本に於ける交通界現状の一部を、物語るものではあるまいか。交通界と言つても、自動車の事だけではないのであるが、それでも一斑を見て、全豹を察することは、敢へて困難ではなからうと思ふ。最近に於ける世界各國の自動車數を見ると、アメリカの2581萬臺が第一位で、世界總數の七割五分を占め、フランス之に亞いで169萬臺、イギリスの156萬臺といふのに對し、我國は第十八位の約九萬臺といふのである。アメリカに比しては、物の數では無いが、それでも世界に於ける第十八位を保ち得るといふことは、日本に於ける自動車交通の進歩發達を物語るものといへよう。但し人口萬に對する割合から見ると、アメリカの2081臺最も多く、我國は僅かに14臺に過ぎないので、洵に心細い次第である。

之を吾人が事ある毎に、利便を受けつつある鐵道に就いて見るに、其の延長軒數の最大なるは、矢張りアメリカの42.2萬軒で、ソヴィエツト聯邦の7.8萬軒なるに對し、我國(内地)は僅かに2.2萬軒で、第十二位に過ぎないのであるが、明治五年、始めて東京・横濱間に、敷設運轉せられた當時に比すれ

ば、其の懸隔は、霄壤も管ならぬものがあるではないか。

次に船舶に於ても、日本郵船・大阪商船・日清汽船等の内地近海、又は歐米航路に活躍せる現状に就いて見ても、之れを尊王攘夷を叫んで、開港を阻止せんとした、幕末當時に比すれば、是れ亦雲泥の差といへよう。其他人力車・自轉車等の交通機關に至つては、寧ろ世界各國を凌駕するのであつて、本國人としては、此等の恩恵を被むる所多きに居るも、歐米人の眼から見るならば、人類虐待でなければ、下等人類として見らるるの因を作るに過ぎないであらう。

何は兎まれ、我國に於ける交通界の現状に就いては、其の方面の知識更になく、又寡聞にして多くを知らないので、記述極めて要を得ない勝ちではあるが、併しあらゆる交通機關が、山村僻地にまで及んで、國民が其の恩恵に浴しつつあることは、事實である。是れ實に聖代の賜でなくて何であらう。 「終」

## 尋常小學校卒業生に対する分 (三十分)

## 『題』 私が鐵道志願をする動機 (文體隨意)

余が鐵道界に就職しようとした動機?? それは多言を要しない。曰く「人命救助」!!! 唯だそれだけだ。ほんのそれだけで此の問題に對する解答は終はる譯だが、それだけでは餘りに簡單過ぎる。餘りに飽氣ない。それだけでは不合格は明々白々で、何も試験場に臨んで、苦しい受験をするがものはない筈だ。

然らば何が余の心を驅つて、「人命救助」の一念から、鐵道界入りをさせたか、余は今や涙の筆に、過去の追懷を辿らねばならない。東北の冬はさらでも心細いのに、朝からの吹雪は、積雪の上に更に嵩を加へて行つた。何時か夜の幕さへ下り初めたではないか。聽て寂寞は暗憺を生んで、いやな夜となつた。

余は此の日、家事の手傳ひで大層疲れて居た。それでも食後



の暫くを雑誌に読み耽つて居ると、物恐ろしい一大音響と共に、けたたましい人聲が右往左往するのを聞いた。足音が次第に加はつて、呼びかはす聲々。余は突如ガーンと一大鐵鎚を腦裡に叩き込まれたやうに感じた。立ち上ると共に余の手は提灯に觸れた。火が點いたのやら點かないのやら、そんなことに氣が附かばこそ、夢中で家を飛び出して、人々の後に續いた。四五丁も走つたかと思はれる所に、一團の黒山を見出した。それは停車場を隔つること、十丁足らずの懸崖の地點である。息せき切つて駈け寄ると、こはそも如何に、夢を乗せて疾走して來た汽車が、崖上からの積雪の爲めに、横倒しにされてゐる。泣き叫ぶ人の聲、助けを呼ぶ聲、呻吟苦痛を訴ふる聲、血潮に塗れて運ばるゝ老若。男女何れとも分き難いが、當に阿鼻叫喚の修羅の巷を描き出してゐるのである。

此の光景を目前に見た余は、茫然の境から急に魂を呼び返された。「人間同志の不幸は、人間同志が救はねばならぬ。」と。そして「斯くの如き不幸を救ふには、其の境に身を投じて、研究の結果に俟たねばならない。」と、矢継ぎ早に余の胸裡に閃いた。これが余の鐵道就職志望の動機である。

## 其他之部

### —盛岡運輸事務所—

#### 常識

#### 中等學校卒業者に對する分（四十分）

問(1) 左記ヲ問フ。

- (イ) 委任統治。(ロ) ブラックリスト。(ハ) ダンピング。(ニ) 解消。(ホ) クレジット。  
(ヘ) 亞細亞モンロー主義。(ト) 一氣壓。

〔解答〕 (イ) 委任統治——委任統治とは、一國が他國又は聯盟の委任を受けて、或る他地域を統べ治めること。日本の南洋諸島に於けるが如く、ヴェルサイユ條約が、主たる同盟及び聯合國たる、日・英・米・佛・伊五國の爲めに、ドイツ等戰敗國の拋棄した海外屬地の統治方を、委任したこと。

(ロ) ブラックリスト——Black list 黒表。特に注意を要する不良者の一覽表。注意人物の一覽表。

(ハ) ダンピング——Dumping。不當廉賣と譯す。貨物の生産者が、其の生産物を外國市場に於て低、價に賣却すること。

(ニ) 解消——ときけすこと。他から解散されるのでなく、内部自體が、清算的立場から、自分自身に解體すること。解消運動とか、結婚解消等の語がある。

(ホ) クレジット——Credit 商用語で、信用取引、又は融通力の義にも用ひられる。貸金。

(ヘ) 亞細亞モンロー主義——アメリカ大統領のモンローが、



1823年に「米大陸は自由獨立の權利を保存す。歐洲及び世界の各國は、南北米大陸に干涉し、その利益を侵略するを得ず」と、聲明主張したのに對して、「亞細亞大陸のことに對しては、亞細亞洲以外の世界各國は、干涉し容喙すべからず」との主張。モンロー主義に對する、亞細亞主義。

(ト) 一氣壓——の大氣の壓力。

問(2) 去ル三月終了ノ議會ハ第何回<sup>(1)</sup>ノ議會カ、又ソノ議會ニ於テ通過セル八年度豫算總額及重要法律案二三ヲ問フ。

答(1) 第 議會。(2) 億圓。(3)

〔解答〕 (1) 第64議會。(2) 22億3千9百萬圓  
(3) (イ) 兒童虐待防止法案 (ロ) 帝國鐵道會計規則中改正案 (ハ) 恩給法中改正案。

問(3) 現在金本位制ヲ完全ニ維持シ居ル國ハ何處カ。

〔解答〕 フランス共和國。オランダ王國。スイス共和國。(其他にも小國があるにはある)

問(4) 最近ノ弗ニ對スル圓位ハ幾ラカ。

〔解答〕 百圓に對して、約廿五弗であるから、一弗に對して、約四圓に當る。(百圓に對する約四十八弗が、普通の相場である。)

問(5) 現在獨裁的政治ヲ採ツテ居ル國ト其ノ中心人物ヲ問フ。

〔解答〕 イタリア王國で中心人物は、ベニト・ムツソリーニ。

ドイツ聯邦共和國中心人物は、ヒットラー。

問(6) 世界五大都市ヲ人口順ニ記セ。

〔解答〕 (新) (1) ニューヨーク。(2) 東京。(3) ロンドン (4) ベルリン。(5) シカゴ。(舊) (1) ニューヨーク。(2) ロンドン。(3) パリー。(4) シカゴ。(5) 東京並にベルリン——(七年度 161頁参照のこと)

問(7) 現在ノ米國大統領ト國務長官及獨逸ノ大統領ハ誰カ。

〔解答〕 (1) 米國の大統領はフランクリン・デイ・ルーズヴェルト。(2) 國務長官はコーデル・ハル。(3) 獨逸の大統領はパウル・フォン・ヒンデンブルグ元帥。

問(8) 國際聯盟ニ對シ脱退通告ヲ發シタノハ何日カ又脱退セバ直チニ規約ノ拘束ガナクナルカ。  
答 1 2

〔解答〕 (1) 昭和八年三月二十七日  
(2) 脱退しても種々の關係上、二年間は全然拘束なしとは言へない。聯盟に要する費用等は、負擔の義務があると聞く。同聯盟規約第一條第三項に「聯盟國は二年の豫告を以て、聯盟を脱退することを得。但し脱退の時までに、一切の國際上及び、本規約上の義務は履行せられたることを要す。」と、あるからである。



## 尋常小學校卒業者に對する分 (四十分)

- 問(1) 次ノ問ニ答ヘナサイ。
- (イ) 「ギャング」とは
  - (ロ) 緊急勅令とは
  - (ハ) 陸軍記念日は何日か又どんな日か
  - (ニ) 日支紛争最後の聯盟總會で我が國に對する勸告案を決定する場合反對投票をした國(イ)と投票を棄權した國(ロ)は何處か
  - (ホ) 滿洲國の行政區域(何々省から成つて居るか。)
  - (ヘ) 大東京の人口は
  - (ト) 今上天皇陛下は何代目ですか。
  - (チ) 保護關稅とは何か。
  - (リ) 普通郵便貯金の利子は幾らか。
  - (ヌ) 日本紀元(皇紀)年數が西曆紀元年數の二位であつたのは本年から計算して何年前でしたか。

〔解答〕 (イ) 「ギャング」とは——アメリカに流行してゐる大仕掛けの悪漢團。機關銃を備へた自動車を用ひた團體的行動で、銀行・富豪の邸宅等を襲うて、誘拐・脅迫・強盜・殺人等の常習團を云ふ。カボネが一方の頭領である。我が國にも之に類する者が大都市等に出沒して、人心を不安ならしめてをる。

(ロ) 緊急勅令とは——公共の安全を保ち、災厄を避くるに緊急にして、帝國議會を召集し得ざる場合に、特に發せらるる法律に代はるべき勅令。緊急を要する場合に、帝國議會を召集せずして發せらるる勅令。

(ハ) 陸軍記念日は何日か又どんな日か——三月十日で、日露戰役に於いて、大勝利を得た、奉天大會戰を記念する日。之れに

對し、五月廿七日の日本海の大海戰を海軍記念日とするに對す。

(ニ) 日支紛争最後の聯盟總會で我が國に對する勸告案を決定する場合反對投票をした國(イ)と投票を棄權した國(ロ)は何處か——(イ) 我が國(日本帝國)(ロ) 暹羅(シヤム王國)

(ホ) 滿洲國の行政區域——奉天・吉林・黑龍江・熱河・興安の五省から成立して居る。

(ヘ) 大東京の人口は——五百萬人。

(ト) 今上天皇陛下は何代目ですか——百二十四代目です。

(チ) 保護關稅とは何か——保護稅に同じ。自國の産業を保護する目的を以て、これを同種の外國輸入品に課する關稅。外國品が輸入稅のために、價格を高めざるを得ないやうにして、内地品と競争することが出来ないやうにする關稅である。

(リ) 普通郵便貯金の利子は幾らか——三分。

(ヌ) 日本紀元(皇紀)年數が西曆紀元の二倍であつたのは本年から計算して何年前でしたか——1273年前。(西洋紀元と日本紀元との差、660年故、1933年から660年を引けばよろしい)

問(2) 次ノ產物ヲ最モ多ク產スル道府縣ノ名ヲ書キナサイ。

- (イ) 米 ( ) (ロ) 甘藷 ( )
- (ハ) 苹果 ( ) (ニ) 蜜柑 ( )
- (ホ) 葡萄 ( ) (ヘ) 麻 ( )
- (ト) 薄荷 ( ) (チ) 蘭 ( )

〔解答〕 (イ) 米(新潟縣・愛知縣) (ロ) 甘藷(鹿兒島縣沖繩縣・埼玉縣) (ハ) 苹果(青森縣・北海道・朝鮮) (ニ) 蜜柑(和歌山縣・静岡縣) (ホ) 葡萄(山梨縣・新潟縣・青森縣・山形縣) (ヘ) 麻(北海道・新潟・岩手・廣島・宮崎・長野・石川・福井・鹿兒島の諸縣) (ト) 薄荷(山形縣・秋